

「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」パブコメに対する市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方に対する考え方を述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 計画には直接関係しない意見

【意見の反映結果】

- 1 計画に掲載済み（計画期間中に実施予定・検討を含む）
- 2 計画の追加・修正あり
- 3 計画の追加・修正なし
- 4 その他（計画もしくは子どもに関係しないものなど）

1. 10代以下（子ども）からの意見

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
1	あかちゃんはどうなことをしてもらおうとよろこぶのか、あかちゃんはどうなことをするといやがるのか、いもうとがいるからいやがることやうれいことをおしえてほしいです。	小学校・中学校などで「思春期健康教室」をしています。その中で、赤ちゃん人形の抱っこ体験などができます。これからもこの「思春期健康教室」を続けていきたいと思えます。	2	1
2	「あかちゃんがすくすくぞだつようにする」というのはとても大切だと思います。子どもが増えて、「放課後児童クラブ」がもっと楽しくなることにつながるからです。	初めて赤ちゃんをお世話するときは、いろいろ分からないことがあります。北九州市では、お父さんがお母さんが、そういったことを勉強したり、お医者さんなどの専門家に相談できるようにしています。お友達がたくさんいると、放課後児童クラブもにぎやかで楽しくなることでしょう。これからも、赤ちゃんがすくすく育つような北九州市を目指して努力していきます。	1	1
3	お父さんやお母さんにも学べる場所があるとはじめてしりました。	区役所で、お父さんやお母さんが一緒に赤ちゃんのお世わのしかたなどについて学べる両親学級などの教室を開いています。これからも、お父さんやお母さんが安心して赤ちゃんをむかえられるように、教室をつづけます。	1	1
4	お父さんやお母さんがお世わができるように学べる場所を作れたいと思います。理由は、分からなかったらあかちゃんがいい育ちができないからです。	区役所で、お父さんやお母さんが一緒に赤ちゃんのお世わのしかたなどについて学べる両親学級などの教室を開いています。	2	1
5	学習コーナーをつくる（ミルクのあげ方などを学習する）		2	1
6	赤ちゃんが安心してお風呂に入れるようにします。		2	1
7	お父さんお母さんが赤ちゃんのお世わができるようにミルクのあげ方やお風呂の入れ方などを分かる場所をつくるというのがいいと思った。なぜなら、すくすく育つには、育て方をしておかないとあかちゃんはすくすく育てられないと思ったから。しかも、ネットでもいいけど少し意味が分からない人もいるのでやはり人の言葉でしっかり伝えた方がいいと思ったから。あとほくは一回体験したことがあります。サン・村田に行って命について学んだから。必要と思った。	これからも、赤ちゃんがすくすく育つよう、お父さんやお母さんが一緒に赤ちゃんのお世話について学べる教室をつづけます。	1	1
8	1 お母さんもお父さんも、うまれてきた赤ちゃんが、すくすく育つように、安心して迎えられるようにする。ということがいいと思う。		1	1
9	私は、「赤ちゃんが生まれてくるのを、お父さんやお母さんが安心してむかえられるようにする」というのがいいと思います。理由は私がお母さんになったときにちゃんと準備をしていたら、とても安心できると思ったからです。		1	1
10	赤ちゃんのミルクのあげ方やお風呂の入れ方など学べる場所をつくるのは、いいと思います。理由は、何も知らないで赤ちゃんのお世話していたらちゃんと育てられないからです。		1	1
11	ほくは、お父さんやお母さんがあかちゃんの育て方を学べる場所をつくるのがいいなと思いました。りゆうは、ほくもお父さんになったばかりのときに、赤ちゃんの育て方が分からないので、そこで学べば赤ちゃんを元気に育てることができるのではないかと思ったからです。		1	1
12	「困っている子どもがいなくなるようにします」はいいと思った。どんなにこまっていたもどんなかいていてもみんな笑顔で暮らせるようにするのはいいことだと思う。	「困っている子どもがいなくなるようにします」といった5つの目標に向かって、みんなの笑顔があらわれるまちをつくらせていきます。	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
13	お父さん、お母さんが病気になった時、赤ちゃんをあずけられれば、お母さんお父さんの看病をほくができるから、保育所や幼稚園がいい場所になると思いました。	北九州市には、一時保育というお父さん、お母さんが病気等の時に赤ちゃんを保育所に預けることができる制度があります。 市内では82箇所でおこなっているので、お父さん、お母さんが病気の際は利用してください。	1	1
14	赤ちゃんをあずける保育園を作る。(大人も入ってもいい)	保育園に入るためにはお父さんお母さんが働いているなど、いろいろな決まりがありますが、保育園に赤ちゃんも入ることができます。 「大人も入ってもいい」とありますが、お父さんお母さんはお仕事をしているため保育園ですと一緒過ごすことはありません。でも、子育てに心配がある場合は、お父さんお母さんと一緒に過ごすことのできる「親子通園（おやこつうえん）」というものもやっています。	2	1
15	児童クラブをしめるのが今は6時30分だけど7時までにしてほしい	クラブを実施している人たちの意見も聞きながら、午後7時まで開いているクラブが増えるよう、努力していきます。	2	1
16	放課後児童クラブの部屋を増やし、おしゃべりができる場所をつくります。	利用する子どもの人数によって、部屋の数などを決めていきます。 子どもの人数が多くなった場合には、部屋の数を増やすことができるかもしれません。	2	1
17	放課後児童クラブで自然とふれあうのは、いいことだしみんながたのしめるようにするほうがいい。理由せつかくクラブにくるなら楽しみたいから	放課後児童クラブが、みなさんにとってもっと楽しい場所になるように努力していきます。	2	1
18	わたしがいる学童は、ふだんできないことやほかの学童ではできないことをして、日ごろできないあそびができて、先生もとってもやさしいからすこしやすいです。もっとこんな学童がふえるといいと思います。		2	1
19	私のなっている学童ではフラダンスなどをおしえてもらって、おどったりしています。フラダンスは優しく教えてくれるのでおぼえるのがたのしいです。フラダンスのほかにもダンスむらというものもあって、はたけのしごとをします。フラダンスもダンスむらも、入らなくてもいいし、入ってもいいのでしやすいです。これからもたのしい学童がふえるといいです。		2	1
20	学童保育や公園はもっと楽しい場所にしたいと思いました。理由はもっともっと多くの人に来てほしいからです。		2	1
21	ほくはこどもたちを見てくれる放課後児童クラブがあることがいいと思います。 なぜかという家で一人で遊ぶよりも児童クラブで楽しくみんなで遊んだほうがいからです。 それに、大人になって3～4歳の子どもをもったときに児童クラブの子どものしつけ方やめんどうの見かた話の聞き方などが分かります。 家で勉強が分からないとき、1人だと分からないままだけど、児童クラブにいると同級生の友達に聞けたり、先生に聞けたりします。 このプランを聞いて、北九州市を安全で元気な市にしなければいけないと知った。		2	1
22	学童には学生の人に来てくれたりしています。なので、こんどは学童の人がようち園に行こうりゅうしたりすると思います。	放課後児童クラブでやっているイベントなどは、それぞれのクラブで考えて決めていますので、クラブの先生に「幼稚園（ようちえん）などに行き交流（こうりゅう）したい。やりませんか。」とお話してみてください。	2	4
23	ほうかごじどうクラブがもっと楽しい場所にするには、おばあちゃんなども関わりをつくり、みんなでどこかに行ったりする。		2	4
24	ほうかごじどうクラブをもっとたのしくするには、どこかにでかけたりするのもいいし、みんなでする行じをつくると思います。		2	4
25	放課後児童クラブで学生ボランティアとして活動する中で、長期休暇中のイベント内容や、季節に合わせた児童の手作りによる飾りなど、児童クラブの魅力の向上を常に感じます。施策（4）に關しまして、私も微弱ながら協力してまいりたいと思いました。	北九州市の放課後児童クラブは、校区の社会福祉協議会など地域が運営委員会を構成し、創意工夫を凝らして、地域の特色を活かした運営を行っていただいておりますが、引き続きクラブの魅力向上のために、ご協力いただきますようお願いいたします。	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
26	あそべる場所の料金を安くする。	北九州市では、子どもが利用しやすいように料金を低くしています。例えば、元気のもりでは、子ども100円で一日中遊べます。子どもの館もフリーパスで子ども300円で一日中遊べます。 こうした料金は、そこで働く人のお給料、家賃、電気代など、その遊び場をずっと続けるために必要なお金（費用）を考えて決めます。 市の施設の料金が低いのは、そういった費用の多くをみなさんの税金で負担する（支払う）ようにしているからです。全部の費用を税金で負担する方法もありますが（そのときは料金が無料です）、利用する人と利用しない人との差をつけるため、いくらか料金をもらうところもあります。	2	1
27	赤ちゃんでも遊べる場所がほしいです。	北九州市は、赤ちゃんでも遊べる場所として、区役所などに「親子ふれあいルーム」というものを作っています。部屋の中で、安心して遊べる場所です。 この「親子ふれあいルーム」以外にも、小倉駅近くの「元気のもり」や黒崎駅近くの「子どもの館」の中に、赤ちゃんが遊べるコーナーを作っています。こちらもお部屋の中なので、安心して遊べます。	2	1
28	赤ちゃんが遊べる部屋をつくります。	家の近くにある市民センターでも、「フリースペース」という赤ちゃんの遊び場を作っているところもたくさんあります。 これからも赤ちゃんが安心して遊べる場所づくりに取り組んでいきます。	2	1
29	犬の遊ぶ所がないからドッグランを作してほしい	北九州市は、市が管理している公園2か所にドッグランを作っています。このほか、お店などがドッグランをやっているところもありますし、若松区には、警察犬の訓練所がやっているドッグランもあります。 北九州市では、ドッグランが欲しいというみなさんの声を受けて、公園の中にドッグランを作る取り組みを行っています。公園の近くに住んでいる人の生活に影響がないかとか、公園を使っている他の人たちとすみ分けできるかといったことを確認して、「できる」と判断したときにドッグランを作っています。	2	1
30	共働きで、さみしくても友達と遊べるようにします。	これからも放課後児童クラブを楽しい場所にしていきます。 放課後児童クラブ以外でも、みなさんがいつでも遊びにいける、友達がたくさん集まる居場所をたくさんつくっていけるよう取り組んでいきます。	2	1
31	子どもたちだけでも行けるショッピングモールをつくってほしい。	ショッピングモールは、「大人と一緒に出かけするもの」というふうな考えてしまいがちですが、子どもだけでも行けるショッピングモールがあると、面白いし、楽しいと思います。 こうしたものをつくるとなると、なかなか難しいかもしれませんが、その代わりとして、学校や市民センターなどでやっているハザーや縁日（えんにち）などもあります。みんなで意見を出し合えば、学校のハザーなども、ショッピングモールに負けない楽しい場所になると思います。 みなさんにとって楽しい場所がもっと増えていこう、これからも努力していきます。	2	1
32	子どもたちだけでも行けるような、楽しく遊べるような所をつくってほしい。	これからの目標として、「全ての子どもが自然と足を向けることのできる、楽しく魅力ある居場所を、地域の中にできるだけたくさん生み出せるよう取り組む」をあげました。 地域とは、「子どもが歩いていける場所」に、という意味です。お友達と楽しく遊んですごせる場所を、家の近くにできるだけたくさん作っていくよう取り組んでいきます。	2	1
33	子どもたちが遊べる所を作ってほしいです。		2	1
34	近くに室内で遊べる場所がほしいです。		2	1
35	校区内で遊べる場所がほしいです。		2	1
36	1人で、おちつける場所がほしい	みんなとわいわい楽しく過ごすことも良いですが、一人になって落ち着きたいときもあると思います。 誰もいない場所なのか、静かな場所なのか、くわしくは分かりませんが、北九州市には、海や山など自然もいっぱいです。図書館など静かに過ごせる場所もあります。 ぜひ、お父さんやお母さん、先生やお友達などに相談してみてください。24時間受け付けている電話相談（093-881-4152）もあります。相談しやすい人に相談してみてください。	2	4

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
37	安全な遊び場をふやします。	施設や公園などの子どもの遊び場については、子どもたちが遊ぶときにケガをしないかということを確認してつくっています。 〔なお、素案69ページの「2 施策の柱 ①子どもの遊び環境の充実」の文章を下記のとおり修正します。「安全性に配慮しながら、公園や屋内施設など、これまで整備してきた様々な遊びの環境の充実に取り組み。」〕	2	2
38	西折尾中公園がせまいのでほかに広い公園をつくってほしいです。	折尾地区では折尾駅を中心に、鉄道の高架化や道路の拡幅、住環境を改善する面的な整備を一体的に行う折尾地区総合整備事業を行っています。その中で公園・緑地が整備される予定になっています。	2	1
39	ブランコのある公園が少なくなっている気がします。なぜでしょうか。ひびきの北公園にブランコをお願いします。	いま、ひびきの北公園には、遊具（ゆうぐ）をいろいろ組み合わせた「複合遊具（ふくごうゆうぐ）」というものを2つおいています。 いまのところ、あたらしい遊具をおく予定がありませんが、ひびきの北公園にあたらしい遊具をおくことになったときは、いただいたご意見も参考（さんこう）にしていきたいと考えています。	2	1
40	公園や親子で遊んだりおじいちゃんやおばあちゃんが休めるところをつくるとういんじゃないかなと思います。わけは、このようなものを作ることによって、家族や地いきの人とたくさん関わることができるようになるから、人とのコミュニケーションが取れ、笑顔があらわれるすてきな町になると思います。	公園の整備につきましては市民の皆様の意見を取り入れながら計画的におこなっています。	2	1
41	公園のベンチに日かけを増やしてほしい		2	1
42	こうえんがあってほしいです（ぼーるあそびができる。じてんしゃにのれる。といれがあって、こどもだけでいってもあそべんなこうえん）		2	1
43	こうえんを小さい子からだれでも楽しい公園にしてほしい。		2	1
44	そとでもっとあそべるようにしてほしい 例えば公園に、子供達専用の遊び道具入れと、簡単な休憩室、授乳などができる小さな設備を設置します。そこを拠点に、子育て支援拠点活動を実施します。（屋外型の親子ふれあいルーム 多世代交流可能型）		2	1
45	公園に、バスケットゴールをつけてほしい。		2	1
46	公園にブランコがほしい。		2	1
47	公園の遊具を増やしてほしい		2	1
48	公園の遊具を増やしてほしい。		2	1
49	公園にもっとあそびどうぐをふやす。		2	1
50	公園にいっぱい遊具をつけてほしい		2	1
51	みんなが、あそべる広い遊具が作ってほしい		2	1
52	ブランコをふやしてほしい		2	1
53	公園の遊具を安全で楽しく遊べるものを増やしてほしい。		2	1
54	公園をもう少しきれいに、明るくて、遊具がたくさんあるようにしてほしいです。		2	1
55	ゆうぐを少しでも、おおく作れば、小さな赤ちゃんがふえた時に、やくだつし、今の自分もたのしくあそべる。		2	1
56	低学年、高学年と遊具を分けて、上の学年の人も、あきないような遊具にしてほしいです。		2	1
57	高学年でも、楽しめて、あきにくい遊具が公園にほしいです。		2	1
58	公園の遊具を年が上の人でも遊べる遊具があつたらいいと思う。		2	1
59	高学年でもたのしめるような公園がほしい		2	1
60	公園を増やしてほしいです。		2	1
61	公園をもっと楽しい場所にしてほしい。		2	1
62	（公園に）公しゅうトイレをつくってほしいです。		2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※	
63	公園のベンチに、屋根をつけるか、木かけができるようにしてほしい。	いつでも公園を利用してもらえるよう、みなさんの意見をききながら、よりよい公園づくりを進めていきます。	2	1	
64	公園に屋根付きベンチ、があったらいいです。(屋根が全くないので)		2	1	
65	じてんしゃののれるこうえん (自転車の練習ができる公園。芦屋の公園までサイクリングに行く。貯水池の周りは、すこしはりにくい。こどもようではない)	自転車(じてんしゃ)の練習(れんしゅう)ができる公園としては、「交通公園(こうつうこうえん)」があります。自転車の乗り方を学んだり、交通ルールを学ぶことができます。ぜひ利用してみてください。	2	1	
66	とてもいいものばかりで、みんなが幸せになれると思います。もっとこの町がすきになれました。特に(パプコメ資料子ども向けの)②の毎日たのしくすごせるようにのところがいいです。もっと美しい町になったらいいなと思いました。みんなが楽しくかわりあえるようなところや、公園をつくったらいいなと思っています。	これからも、公園をもっと楽しい場所にしたり、いろいろな年齢の子と遊んだり、自然の中でのびのび遊べるようにしていきたいと考えています。	2	1	
67	もっと広い公園がほしい	北九州市には、大小合わせて数多くの公園があります。公園の種類も様々です。北九州市のホームページでは、「北九州市公園の本」を掲載していますので、ご覧ください。	2	1	
68	大きい公園や、遊園地を作ってほしいです。		2	3	
69	公園にアスレチックをつくってほしい	グリーンパークでは、大型ネット・アスレチック遊具(ゆうぐ)「空中冒険遊具(くうちゅうぼうけんゆうぐ)あみ〜こ」が楽しめます。10月にオープンしたばかりです。11種類のチャレンジができますので、ぜひ遊びにきてください。	2	1	
70	アスレチックができるたのしい遊具が作ってほしい		2	1	
71	アスレチックの公園や年上の人でも楽しめる公園を作ってほしい。スペースワールドみたいな遊園地を北九州内につくってほしい。住たん内に1こはだかし屋さんを作ってほしい。そうすると小さい赤ちゃんや子どもがのびのび育っていったりするから。		2	1	
72	アスレチックがあってほしい。		2	1	
73	アスレチックがほしい。		2	1	
74	公園をふやしてください。	北九州市には、大小合わせて数多くの公園があります。公園の種類も様々です。北九州市のホームページでは、「北九州市公園の本」を掲載していますので、ご覧ください。	2	1	
75	公園をひろくしてほしい		2	1	
76	せまい公園が多いので、もっと広い公園をつくってほしい。		2	1	
77	スポーツができる広いグラウンドにしてほしい。		2	1	
78	スポーツが楽しめる広い公園をつくってほしい。		2	1	
79	ブレイブボードなどがのれる公園をつくってほしい。	延命寺臨海公園にできた「北九州スケボーパーク」で楽しむことができます。	2	1	
80	ブレイブボードを自由に使えるようにしてほしい。		2	1	
81	公園をもっときれいにしてほしいです。	公園内の清掃など維持管理は、市民の皆様と市が協力しあって行っています。	2	1	
82	公園・しせつのざっそうをかって。		2	1	
83	公園のトイレをきれいにしてほしいです		一部の公園のトイレについては、利用状況等に応じて週1日から週7日のペースで市が定期清掃を実施しています。今後も、市民の皆様が使いやすい、清潔なトイレを維持できるよう努めます。	2	1
84	公園のトイレをきれいにしてください。公園を広く。			2	1
85	こうしゅうトイレをきれいにしてほしい			2	1
86	公園のトイレをもっときれいにしてほしい。			2	1
87	公園のトイレをきれいにしてほしい。			2	1
88	公園のトイレをきれいにしてほしい。			2	1
89	といれキレイにしてください。			2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
90	ひびきのに児童館が欲しい(こどものいばしょがどこにもない)	これまで北九州市は、「2つの中学校の校区に1館つくる」ことを目標に児童館をつくってきました。 今のところ、新しく児童館をつくる予定はありませんが、他の市の施設に児童館をくっつけたりすることも考えながら、子どもの居場所づくりをふやす努力をしていきたいと考えています。	2	1
91	ゲームセンターなど楽しいしせつをつくってほしい	北九州市には、ゲームセンターもたくさんありますが、自然の中で遊んだり、友達といっしょに自分たちだけの遊びを考えたり、知らなかったことをいろいろ知ったりすることも楽しいことだと思います。 楽しいものをいろいろ探してみてください。	2	3
92	ゲームセンターをふやしてください。あそべるから。		2	3
93	遊園地がほしい	スペースワールドは、北九州市の遊園地としてたくさんの人を楽しんでもらっていましたが、残念なことに閉園してしまいました。 スペースワールドのあった場所には、大きなショッピングモールや新しい科学館ができる予定です。 北九州市には、遊園地に代わる楽しいものが他にもあるので、いろいろ探してみてください。	2	3
94	ゆうえんちがあったらいいな		2	3
95	ゆうえんちを北九州市に作ってほしい		2	3
96	ジェットコースターをふやしてほしい		2	3
97	北九州市にゆうえんちをつくってほしい。		2	3
98	みんなが楽しめる場所がほしい(遊園地)		2	3
99	スペースワールドがなくなったから、そんな遊園地をつくってほしい。		2	3
100	がっこうにゆうえんちがあったらいいな。がっこうにぶうるがあったらいいな。 (いつでもじゆうにはいれるぶうる。がっこうにみんなであそべるゆうぐがあるといいな)	楽しいアイデアをありがとうございます。学校と遊園地(テーマパーク)が一緒になった施設をつくるのはなかなか難しいですが、学校がもっともっと楽しい場所になるといいな、ということだと思います。 先生たちにいろいろ自分たちの考えや意見を伝えてみてください。そうすれば、学校がもっと楽しい場所になっていくと思います。	2	3
101	寄付をして、子どもだけのテーマパークを造り、その中に学校を造る。		2	3
102	ふれすぽ がほしい 鹿児島県にあるもの。プールやくさり、大型遊具、小さな遊園地などがあり、1日中親子で遊べる	ふれスポは、鹿児島ふれあいスポーツセンターのことでしょうか。ここには確かに大きな遊具や草そりができる場所があります。ラグビー場やプールもあるようです。 北九州市にも草そりができる場所があります。大きな遊具があるところも、プールもあります。 ふれスポと全く同じものではないかもしれませんが、家族の方と一緒にいろいろ調べてお気に入りの場所を探してみてください。	2	3
103	図書館に自習スペース、談話室(グループ使用できる)をたくさん作って欲しい	学習室などを増やすとすると、閲覧室(本を置くスペース)を減らさないといけない可能性もありますので、図書館の広さなども考えて、しっかりと検討する必要があります。これからの図書館をどうしていくのか考えるときの参考にしたいと考えています。	2	1
104	大きな一年中使える市民プールがほしいです	現在、八幡東区の桃園公園内に、桃園市民プールを新しく建設しています。 桃園市民プールは、50m、25m、幼児用の3種類のプールを持つ、市内最大規模の室内プールで、令和2年の春頃にオープン予定です。 これからも、みなさんの声をききながら、利用しやすい施設づくりを進めていきます。	2	1
105	子どもよのぶうるがあったらいいな (みずまきちょうみんぶーるのようなもの。バスで子どもだけでいけるとなおよい。)		2	1
106	すぐ近くに市民プールができてほしい。		2	1
107	わかものたまりば が、中学校区に一つあるとよい(ユースステーションを、各区に一箇所以上。高校生が日常的に行き来でき、学べる場所を作る。そこは日中は、赤ちゃんや子供が使えるようにして欲しい。たとえば、学童保育の昼間は未就園児、7時以降は若者の集いば、にすればよい) 具体的には、若松イオンの中に、ユースステーションがあると良い。駅から近く、通学途中に立ち寄れるような場所が理想的	ユースステーションを他の場所に増やすかどうかについては、黒崎にある今の施設の利用状況を見ながら、いただいた意見も参考に、これからも考えていきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
108	いろいろな年齢の人と、遊んだり自然の中でのびのび遊べるようにすると思う	これからも、いろいろな年齢の子どもたちと遊んだり、自然の中でのびのびと遊んだりすることができるような遊び場づくりを行っていきます。	2	1
109	いろいろな年れいの子どもたちとあそんだり自然の中でのびのび遊べるようにします。りゆうは、いろいろの年れいの人とあそべたりしぜんの中であそべたりするのがいいとおもいます。		2	1
110	いろいろな年れいとあそべるのがいいと思います。理由はいろいろな人とあそべると友だちがふえていいと思います。		2	1
111	いろいろな友達と遊んだり楽しいことをもってできるようにしたいです。		2	1
112	年代ごとの集会を作ったり、交流の場をふやしたりする		2	1
113	毎日楽しくすごせるようにすることはいいことだと思います。6年生と1年生とちがう学年であそぶといいと思います。困っている子どもがいなくなるようにすることもいいと思います。ひとを傷つけないようになかよく遊んだり、仲間はすれにしないようにするのいいと思います。もっと楽しくなればいいと思います。	これからも、いろいろな年齢の子どもたちと遊んだり、自然の中でのびのびと遊んだりすることができるような遊び場づくりを行っていきます。 子どもたちが遊びの中から、困っている子を誘ったり、みんなで楽しく遊んだりできるようにするなど、学んでもらえるような遊び場になるようにしていきます。	2	1
114	いろいろな年れいの子と遊んだり、自然の中でのびのび遊べるようにするには、ちがう学年とペアになって、森の中に入り、木登りやアスレチックなどをつくったりすることがいいと思いました。	北九州市では、NPO法人と協力して、森の中で木登りをしたり、ロープでブランコを作ったりする外遊びを定期的に（毎月決まった曜日に、とか、毎年〇月に、とか、そういう意味です）開催（かいさい）しています。 今後いろいろな年齢の子どもたちと遊んだり、自然の中でのびのびと遊んだりすることができるような遊び場づくりを行っていきます。	2	1
115	自然の中で遊ぶのは、いいと思いました。理由は、自然の中で遊ぶことは、めったにないからです。		2	1
116	道徳で、しょうがい（性同一しょうがい）について学んだので、そのようなしょうがいがある子どもでも、いじめられずにたのしく生活してほしいから。	これからも道徳の授業や学校生活の中などで、いろいろなことを学べるように取り組んでいきます。 障害のある子どもない子ども、どんな家庭でも、みんな笑顔で過ごせるよう努力していきます。	2	1
117	障害のある子ども、ほかの人と差別にならないようにしてほしい。	みんなが障害や障害のある人のことを深く理解することができるように、これからもみんなに知ってもらったり、学んでもらったりすることに取り組んでいきます。 障害が理由で差別されることのない、誰もが生き生きと暮らせる北九州市を目指していきます。	2	1
118	学校の遠足でいろいろな勉強をしたらいいと思います。	遠足に参加することで、いろいろなことを学ぼうとしている意欲があることをとてもうれしく思います。 学校の遠足には大切な目的があります。その他に、社会科見学や歓迎遠足など、普通の授業ではできない体験をいろいろな場所でいろいろな人と学ぶことができるような工夫もされています。その中から多くを学んでください。	2	1
119	キャンプやボランティア活動をして、いろいろな体験ができるようにしてほしい。 (理由) みんなが楽しめるから	北九州市には「青少年の家」という山や川の近くで宿泊ができる施設が5ヶ所あります。青少年キャンプ場も6ヶ所あります。お父さんやお母さんなど家族の方と相談して、ぜひ利用してみてください。 それから、ボランティア活動については、戸畑区に「青少年ボランティアステーション」という場所があります。いろいろなボランティア活動を紹介しているので、ぜひ利用してみてください。	2	1
120	キャンプやボランティア活動をして、いろいろな体験ができるようにします。		2	1
121	スタジアムをふやしてください。	北九州市では、「公共施設マネジメント実行計画」という計画をつくっています。 これに沿って、北九州市の施設を新しく建てたり、廃止したり、一か所にまとめて建てたりしています。 この計画の中では、今のところ新しいスタジアムを作る予定はありませんが、これからも、みなさんの意見を聞きながら、いろいろな施設をどうしていくのがいいのかわか、考えていきます。	2	1
122	スポーツをおもっいきりできる場所がほしいです。	北九州市内には、体育館やプール、テニスコートなど、いろいろな施設があります。 北九州市のホームページなどで紹介していますので、探してみてください。	2	1

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
123	無料参加のスポーツ教室をつくってほしい	北九州市では、「北九州市スポーツ協会」や「北九州市レクリエーション協会」、「ギラヴァンツ北九州」などの団体が、いろんなスポーツ教室を開催しています。 無料で参加できるものもあります。詳しくは各団体のホームページでご確認いただくか、直接電話でお問い合わせください。	2	1
124	トライアスロンをしたい	北九州市では、今のところ、本格的なトライアスロン大会を開催する予定はありませんが、ミニミニトライアスロン大会やアクアスロン大会、マラソン大会、そのほか市民が参加できるスポーツイベントもたくさんありますので、いろんなスポーツに興味を持っていただければと思います。	2	1
125	パルクールえりあをつくってほしい	パルクールなどの「ニュースポーツ」ができる専用の施設やエリアは、「それぞれの種目をしている人の数がどれくらいいるか」といったことを考えながら、つくるかどうか検討していくこととしています。 パルクールについては、今のところ、新しくつくる予定はありませんが、これからも、こうした「ニュースポーツ」に注目していきたいと考えています。	2	1
126	きゅうぎ大会や陸上記録会、連合音楽会を残してほしい	様々な行事に興味をもっていることがよくわかります。令和2年度から、新しい学習内容にかわり、みなさんが学校で学習することや体験することも多くなります。 そこで、それぞれの学校では、これまで行ってきた行事（球技大会など）をなくすだけでなく、みなさんが楽しく学んだり、良さを発揮したりできるような工夫をしていくことを考えています。	2	1
127	1学期に1回インターネット教室をひらく	インターネットについての学習は、みなさんが日々学習する内容（「教育課程」と言います）の中に組み込まれています。 小学校では、様々な教科で「調べ学習」をするときに、中学校では「技術・家庭科」という教科の中で、パソコン教室を使って行う授業がそれにあたります。 また、使い方だけでなく、インターネットと上手につき合う方法（「情報モラル」と言います）についても、教科などの授業の中で学んでいきます。	2	1
128	学校にとまれるようにする。	最近では安全面のことから、児童・生徒のみなさんが学校に宿泊するということは、行われなくなっています。 宿泊することにより、仲間とのつながりや自律心などが高まるなど、良いこともたくさんありますが、各学校では、普段の学習や行事、また、校外での宿泊の学習などを工夫し、みなさんの良さが伸ばせるようにしていきます。 今後、学校を利用した地域行事などに参加することなども一つの方法です。	2	3
129	しぜんとふれあえるばしょをふやす（川や森をたいせつに守って生物・魚・こん虫・などとふれあえるばしょをふやすと命のたいせつさをしれる	北九州市には「青少年の家」という山や川の近くで宿泊ができる施設が6ヶ所あります。青少年キャンプ場も6ヶ所あります。お父さんやお母さんなど家族の方と相談して、ぜひ利用してみてください。	2	1
130	交流の場を作ったり、学童でできる行事を増やしたりする	学校や放課後児童クラブ、市民センターなどでは、いろんな交流や行事が行われていると思います。 どういった交流がいいのか、どういった行事がしたいのか、いろいろとみなさんの意見を聞いてみたいところです。 ぜひ、学校の先生や、放課後児童クラブの先生、地域の人たちと話し合ってみてください。回数を増やすのがいいのか、今やっていることを変えたほうがいいのか、いろいろとアイデアを出し合ってみてください。 子どもプランでは、新しく「地域における子どもの居場所づくり」という目標をつくりました。みなさんが、気軽に立ち寄ることができて、いろんな人と交流できる場所をたくさんつくっていかうと考えています。 こうした「子どもの居場所」で、いろんな交流や行事が行われるようになるよう努力していきます。	2	4
131	新しいプラネタリウムをつくってくれるのはいいと思います。 (理由) ほくも好きだし、みんなもすきと思うからいいと思います。	新しいプラネタリウムは、より自然に近い星空とまるでその場にいるように感じる映像を体験できるよう、とても大きなドームを作る予定にしているので、完成を楽しみにしています。	1	1
132	わくわくする新しいプラネタリウムを作って欲しい。 (理由) みんなが楽しめるといいから		1	1
133	プラネタリウムがよいです。		1	1
134	プラネタリウムをつくってほしいです。		1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
135	ぶらねたりうむじゃなくてすいぞくかんがいい。	水族館(すいぞくかん)は、隣の下関市(しものせきし)に、りっぱな「海響館(かいきょうかん)」があるので、今のところ、北九州市に新しいものを作る予定はありません。プラネタリウムは、すごくいいものをつくりますので、完成したら、ぜひ遊びにきてください。	2	3
136	②をみておもったことは、「わるいことにまきこまれないように、きんじょの大人の人が守ってくれるようにします」がいいと思いました。なぜかというわるいことに大人の人が守ってくれるからです。そうしたらいろいろこわいことにならないからです。	北九州市では、「少年補導委員(しょうねんほどういいん)」という人たちや、お父さんやお母さん、地域の人たちと協力して、パトロールを行っています。これからも、みなさんが危険(きけん)な目にあわないようなまちにしていきます。そのほか、子どもたちが悪いことにあわないために、中学校で「非行防止教室(ひこうぼうしきょうしつ)」をやったり、スマホなどで悪いことにまきこまれないように、チラシを配ったり、駅やリバーウォークの大きなテレビで放映(ほうえい)したりしています。これからも、悪いことがおこらないまちにいきます。	2	1
137	わるい人は、親におこってもら		2	1
138	学校に楽しいしせつを作ったりすると休み時間が楽しすぎせる学校に行きたくないと思ったら休んでもよい	学校が楽しいと思える環境づくりを進めることは大切なことです。これからも進めていきます。また、学校に行きたくないと思ったら、すぐにお父さんやお母さん、学校のスクールカウンセラー、電話相談(24時間子ども相談ホットライン093-881-4152)など、自分がいちばん相談しやすい人に相談してみてください。	2	1
139	差別しない友達ができたらいい	学校では、「こころの教育」というものを進めています。自分だけでなく他の人も大切にすることや、お互いの良いところを認め合うというような、人権を大事にする取り組みを行っています。みんながお互いを差別をしないようにしていくため、学校でいろいろ学べるようにしていきます。	1	1
140	いじめや、さべつを起こさないかんきょうを作る	いじめや差別を起こさない環境をつくることは大事なことです。これからも、そういった環境づくりに取り組んでいきます。	1	1
141	いじめをなくす	これからも、いじめ防止に取り組んでいきます。	1	1
142	「学校でのいじめ」について、よく、お母さんからいじめの話を聞きます。きいていると私もかなしくなってきました。だから、いじめをなくすために、きがるにだれでも相談でき、そのかいけつ法を話しあえるところをつくりいじめをなくしたらいいと思う。	毎年、7～9月ごろに、小学校の「児童会」と中学校の「生徒会」のみなさんが集まって、「中学校区(ちゅうがっこう)ミーティング」という話し合いを行っています。このミーティングでは、いじめ防止の取り組みのことや、学校の決まりなどについて、話し合っています。これからも、この取り組みを続けていきたいと考えています。	2	1
143	学校でいやなことがあったりしたら相談できるひとがいたのでとてもおちつきました。これからもたくさんの人に世界のすばらしさを知ってほしいです。	これからも、みなさんが気軽(きがる)に相談できるように努力していきます。	2	1
144	学校で嫌なことがあって、行きたくないと思っても相談できるようにするとみんなが安心してすごせるので、いいと思う。		2	1
145	子どもたちのことをこんなにも考えてくださっているので、ほくもこの目標にそって僕も(バブコメ資料子ども向けの)②に協力しようとおもいました。なぜかという、いやなことがあったりとかかかれていたので、ほくならそれに協力できると思ったからです。	子どもプランの5つの目標は、市役所の人だけが目指すものではなく、市のみんなで目指す目標です。そのことを理解してもらい、うれしく思います。ぜひ、目標の②「毎日楽しくすごせるようにします」に協力をよろしくお願いします。	1	1
146	二ートをなくして、いっしょに遊ぶ	若い人たちが元気に働いて、仕事が終わったら、いろんな人と楽しく遊ぶことができるようにしていくため、これからも、会社や地域の人たち、専門家の人たちなどと、協力しながら努力していきます。	2	1
147	親とくらせなくても親がわりになってくれる人をふやします。	親がわりになってくれる人のことを「里親(さとおや)」といいます。里親は、いろんな理由で、親と暮らすことができなくなった子どもを、家族の一員として受け入れます。温かい愛情で、子育てのこともきちんと勉強して、子どもを育てていきます。この子どもプランでは、そのような里親をもっと増やしていくことを目指しています。	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
148	③ どんな家庭でも、みんな、笑顔で過ごせるようにすることもいいと思う。	親がわりになってくれる人のことを「里親（さとおや）」といいます。 里親は、いろいろな理由で、親と暮らすことができなくなった子どもを、家族の一員として受け入れます。 温かい愛情で、子育てのこともきちんと勉強して、子どもを育てていきます。 これからも、この里親さんたちを手助けし、みんなが笑顔になれるようにしていきたいと考えています。	1	1
149	私は、困っている人がいなくなることが大切だと思います。理由は、今、「ぎゃくたい」でなくなったことがいてかわいそうだなと思ったからです。だから「ぎゃくたい」などをなくすために、ポスターなどを書き様々な人にしらせたいと思います。	虐待（ぎゃくたい）をなくすためには、たくさんの人に虐待について知ってもらうことが大切です。 北九州市では虐待防止のポスターやパンフレット、チラシを作って、市役所や区役所の壁などに掲示して、市民の皆さんに配布しています。 これからも皆さんに色々な形でお知らせしていきます。	2	1
150	心や体が傷つかないように守ってほしい	虐待（ぎゃくたい）をなくすためには、たくさんの人に虐待について知ってもらうことが大切です。 北九州市では虐待防止のポスターやパンフレット、チラシを作って、市役所や区役所に壁などに掲示したり、市民の皆さんに配布したりしております。 これからも皆さんに色々な形でお知らせしていきます。 また、子どもからも相談を受ける「24時間子ども相談ホットライン」があり、虐待やいじめ、学校での問題など様々な相談ができるようになっていきます。	2	1
151	1か月に1度、ぎゃくたいについてのアンケートを出す。	虐待（ぎゃくたい）をなくすためには、虐待を受けたり、見つけたりした時に、いつでもすぐに相談できることが大切です。 毎月のアンケートは難しいですが、24時間365日電話で相談できるホットライン（093-881-4152）もありますので、これからも皆さんが相談しやすい環境をつくっていきます。	2	1
152	暴力（大人）をうけた子どもは、ほごして、暴力（大人）を子どもにした人は、子どもあずけない。	大人が子どもに暴力をふるったりして、大人と子どもをしばらく引きはなす必要がある場合は、子どもを守ることを一番に考え、すぐ保護（ほご）します。 保護した子どもを大人に戻（もど）すときは、本当に戻しても大丈夫か、しっかり確認します。 戻した後も、児童福祉司（じどうふくしし）という専門家が家庭訪問したりしてお話をしながら、お家の様子を確認します。このまましていると、また大人が暴力をふるうかもしれないと判断したときは、すぐにまた保護をします。	2	1
153	大人からのぼう力で心や体が傷つかないように守るのは、いいと思います。理由は、こうゆうことで、自殺する人や学校に行きたくなくなる人がふえていくからです。	子どもには、あらゆる暴力（ぼうりょく）から「守られる権利」があります。 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」では「子どもの権利を大切にすること」を大事な考えとしています。 これからも、大人からの暴力で心や体が傷つかないように守っていけるよう、さまざまな取り組みを行います。	1	1
154	みんなが傷つかないように、守ります。（守ってほしい）	北九州市では、子どもみんなが虐待（ぎゃくたい）から守られるよう、平成31年4月に「子どもを虐待から守る条例（じょうれい）」という決まりをつくりました。 この「条例」では、北九州市に住んでいる人みんなが協力して、子どもたちが幸せを感じて生きていくことができるようにしていくことを目的としています。 この「条例」をみんなに知って理解してもらったり、虐待を防ぐために働いている人を増やしたりして、虐待を防ぐようにしていきます。	1	1
155	③を見て思ったことは、「障害のある子どもない子ども、どんなかいてでもみんながえがおで過ごせるようにします」のところがいいなと思いました。どこがいいと思ったかという点、「みんな、えがおで過ごせる」の部分です。もっとみんなが楽しく過ごせるといいと思います。	子どもプランのキーワードは、「笑顔」です。シンボルマークも、みんなの笑顔にあふれています。 みんなの笑顔のために、何ができるのか、今やっていることが本当にみんなの笑顔につながっているのか、この子どもプランが、そついったことを考えるきっかけになるといいなと考えています。 みんなと一緒に、笑顔のために努力していこうと考えています。	1	1
156	ほちょう器などを安くする。	北九州市には、障害のある子どもたちが、毎日の生活や、人と人との関係がうまくいくようにしていくため、補聴器（ほちょうき）などを買ったり、修理（しゅうり）したりするときのお金を補助（ほじょ）する制度（せいど）があります。 障害のある子どもや親にもっと知ってもらうため、今までよりもっとお知らせしていけるよう努力していきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
157	障害のある人が楽しめるような場を作る	障害のある人が楽しめるような場をつくっていくために大切なことは、障害のある人たちのことをしっかり理解することです。そのため、北九州市では、芸術や音楽のイベント、学びの場づくりなどを行っています。また、こうしたイベントにたくさん参加してもらえよう、お知らせしています。これからも、障害のある人もない人も一緒に暮らすことのできるまちづくりに取り組んでいきます。	2	1
158	障害のある子ども専用の工夫された遊びの道具を作る。	「おもちゃライブラリー」などでは、障害のある子どもたちのために、それぞれの障害の状態や子どもたちの希望に合わせたおもちゃの研究、相談、おもちゃの貸出しを行っています。	2	1
159	寄付をして、障害がある人だけの学校をつくる	北九州市には、障害がある人だけの学校が8校（市立の学校が8校）あります。これを「特別支援学校（とくべつしえんがっこう）」といいます。令和元年度は、1,240人の児童生徒が通っています。 このほかにも、市内には、福岡県立の特別支援学校が2校あります。 また、今は「小倉総合特別支援学校」、「小池特別支援学校」の2校の工事をし、より過ごしやすい学校にしているところです。 ご意見のような障害がある人だけの学校をつくるための寄付があった場合は、これからの特別支援学校をよくしていくために使わせていただきます。	2	1
160	わたしは外でおっぱいやミルクをあげられる場所に一度だけ行ったことがあるので、やっぱりべんりだなと思いました。	赤ちゃんの駅は、赤ちゃんを育てているお父さんやお母さんが、お出かけをしたときでも、安心しておむつ替えやミルクをあげられる場所を、たくさん作っていくことを目指しています。	2	1
161	外でおむつ替えなどができる場所をつくったらいいなと思います。理由は、1回1回家に帰って買い物ができなくなったりするからです。	北九州市内にあるお店や会社にも協力してもらい、今、赤ちゃんの駅は全部で447か所あります。 ピンクのシンボルマークは北九州市が作ったもので、他の市町村でも使われていて、全国に広がっています。	2	1
162	外で赤ちゃんのミルクやおむつ替えができるようにします。（ふやします）	これからも、もっと多くの場所で安心しておむつ替えやおっぱいをあげることができるよう取り組んでいきます。	2	1
163	外食で、あかちゃんでも、たべれるおいしいものがあたらいいなと思う。	いつもと違う雰囲気や食事をするのは、親子にとってすてきな体験となると思います。 北九州市にも、赤ちゃんと一緒に外食できるお店があります。赤ちゃん用のメニューを用意してくれたり、おむつ替えの場所などを用意してくれているところもあります。 北九州市では、市役所だけではなく、市内にある会社やお店、地域の人たちと一緒に、子どもや子育てを応援するまちをつくっていくと考えています。 これからも、赤ちゃんとお父さんお母さんが一緒に外出できるようなまちづくりを進めていきます。	2	1
164	親子が、気がるに笑える場所を増やす	気軽に笑えるようになるためには、いろんな悩みや不安があっても、それが無くなったり、小さくなったりすることが大切です。 北九州市では、「親子ふれあいルーム」という場所を区役所などに作って、子育ての悩みを気軽に話せる場所を作っています。 公園やいろんな施設など親子で一緒に遊べる場所もたくさんあります。もっと楽しい場所になるよう、努力していきます。	2	1
165	赤ちゃんの用品だけを売る子育てのママようなお店を作る。	北九州市にも、赤ちゃんの用品をまとめて売っているお店があって、そこにいけば、色々なものを買うことができます。 インターネットで購入できるお店もあります。 こうしたお店は、子育てをするお母さんやお父さんを応援しています。こういったお店に協力してもらいながら、みんなが北九州市を子育てしやすいまちにしていきたいと思います。	2	1
166	生まれたとき子育てに必要なものを寄付	子育てに必要なものをプレゼントすると喜ばれると思います。ギフト商品として、そういうものをセットで売っている店もありますし、無料でプレゼントしている会社もあります。	2	1
167	ほにゅうびんやおむつなどのあかちゃんのためのグッズを1つにしてセットにして売る	北九州市は、プレゼントしている会社を応援することもやっています。	2	1
168	ふれあいコーナー（店）をつくる	どういったものか、くわしく分かりませんが、友達どうして楽しくすごせるお店でしょうか。高齢者と子どもと一緒に過ごせる場所でしょうか。 北九州市でも、低学年と高学年の子ども、赤ちゃんと高齢者など、いろんな年齢の人が交流できる場所を作っていくと考えています。子ども食堂もその一つです。 地域の方などに協力してもらいながら、いろんな形のふれあいの場を増やしていきたいと考えています。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
169	寄付をして、特別な栄養食器を作る。	特別な栄養食器とは、栄養バランスのとれたご飯を用意できるように「お肉、野菜」などの絵や文字が印刷された食器のことでしょうか。それとも「食品」のことでしょうか。どちらにしても、しっかり栄養を取れるようにしてほしいということだと思います。 毎日のご飯をバランスよく食べることができるよう、親子で勉強できるようにすることは、とても大切です。 これを「食育（しょくいく）」といいますが、北九州市ではこの「食育」を大切なことと考え、いろいろ勉強できる教室を開いたりしています。 これからも、この「食育」にしっかり取り組んでいきます。	2	1
170	にんぶさん専用のタクシー	妊婦さん専用のタクシーは、北九州市にもあります。赤ちゃんが生まれそうなきや、赤ちゃんとお出かけしたいときに、妊婦さんのことなどを勉強した運転手がタクシーで送迎してくれます。 バスタオルなどを用意してくれるサービスもあると聞いています。 北九州市では、市役所だけではなく、市内にある会社やお店、地域の人たちと一緒に、子どもや子育てを応援するまちをつくっていかうと考えています。 タクシー会社もそういった思いから、妊婦さん専用のタクシーをやっているのだと思います。	2	4
171	すごく、いいなと思いました。 子ども、大人、お年寄りの人が安心できる場所を作ってほしいです。みんながよりよく関わられるように、たのしくなるように、こまったことをすぐに言えるように、たくさん工夫をしているなと思いました。	子どもプランでは、新しい取り組みとして、「子どもの居場所（いばしょ）づくり」をやっていくことにしました。 子どもの居場所は、子どもだけではなく、大学生や高齢者など、いろんな年齢の人が交流することが大事です。 地域の人たちの力を借りながら、この「居場所づくり」に取り組んでいきます。	2	1
172	おうえんする	北九州市にいる人みんなで子どもと子育てを応援するまちをつくっていかうと考えています。	2	1
173	4 お母さんもお父さんも、安心してすごせる場所をつくるのが、とてもいいと思う。	子育てをするとき、いろいろ悩んだり不安になったりすることもあります。 そんなお父さんお母さんを楽しんでくれる場所があると、子育てがもっと楽しくなります。 そういった場所をたくさん作っていけるように、これからも取り組んでいきます。	1	1
174	寄付	「寄付」という言葉だけなので、くわしいことが分かりませんが、寄付をしたいという方はいますし、実際に「子どもたちのために使ってほしい」と、北九州市に寄付をしてくれる人もいます。 子ども食堂には、野菜やお米など、お金以外の寄付もあります。 北九州市のいろんな方から支援を受けながら、みんなが笑顔になれるまちをつくっていかうと考えています。	2	4
175	寄付		2	4
176	寄付		2	4
177	寄付		2	4
178	おむつやミルクを安くする		北九州市では、おむつやミルクなどを安く買えるようにすることはやっていますが、お父さんお母さんが子育てを学べる教室や、お医者さんへの子育ての相談、赤ちゃんへの予防接種や病院代などを無料にしたり安くしたりしています。その他、紙おむつを捨てることが多くなるので、ごみ袋を無料で配ったりもしています。	2
179	赤ちゃんのおやつを安くする。	北九州市では、おむつやミルクなどを安く買えるようにすることはやっていますが、お父さんお母さんが子育てを学べる教室や、お医者さんへの子育ての相談、赤ちゃんへの予防接種や病院代などを無料にしたり安くしたりしています。その他、紙おむつを捨てることが多くなるので、ごみ袋を無料で配ったりもしています。	2	3
180	おむつやミルクを安くします		2	3
181	ミルク、おむつをただにする（ペットも）		2	3
182	おむつやミルクなどを安くします		2	3
183	教育費などを何%か市が出す	小・中学校は教育費がかかりません。いろんな学用品（学校で使うもの）にはお金がかかりますが、お家の生活状況によっては、補助金を出すことも行っています。 塾代などについて、補助金を出すことはやっていませんが、学校では、塾の代わりとなる「夏の教室」や「子どもまわり学習塾」など、無料で受けられる勉強の場をつくっています。	2	1
184	しょうひぜいやすく。	消費税（しょうひぜい）の制度（せいど）は、日本全体で行われますので、北九州市だけ安（やす）くすることはできません。 消費税は8%から10%に上がりましたが、食品などは8%のままとなっていて、高くならないような工夫も行われています。 消費税は、幼稚園（ようちえん）や保育園（ほいくえん）の利用（りよう）が無料（むりよう）になるためなど子育てを応援（おうえん）することに使われます。	2	4

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
185	子育ての人と相談できることをふやします	子育ての相談ができる場所としては、「子ども・家庭相談コーナー」があります。このコーナーはそれぞれの区役所の中にあります。	2	1
186	子育てのそらだんコーナーをつくってあげるとよい	子どものことや子育てのことなど、どんなことでも相談に乗っています。何か相談したいことがあれば、ここに来るようにしてもらっています。	2	1
187	子育てのそらだんじょをつくる	子育てをしている人たちが使うことのできるいろんな制度(せいど)を紹介して手続きしてもらったりしています。	2	1
188	子育て相談所を作る。親が管理出来る子供の位置情報がわかる電話を持たせる。	このコーナーでできないことがあれば、他の相談場所を紹介したりして、相談に来る人それぞれの内容に合わせたアドバイスをしています。	2	1
189	お父さんやお母さんのかわりに相談できる相手を増やす	これからも、この「子ども・家庭相談コーナー」を広く知ってもらえるよう、お知らせしていきます。	2	1
190	赤ちゃんが安全にお世話できるような場所を作りたいと思いました。理由はお父さんやお母さんが分からないところがあったら、その所に行けば分かる場所を作りたいからです。	各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談にワンストップで応じ、各種支援制度を適用したり、関係機関等へつなぐ等それぞれの相談内容に応じた支援を行っております。	2	1
191	毎日子育て中の家を訪問する	「子ども・家庭相談コーナー」について、広く皆様に知っていただけるよう周知に努めます。	2	3
192	赤ちゃんが安全にお世話できるような場所を作りたいと思いました。理由はお父さんやお母さんが分からないところがあったら、その所に行けば分かる場所を作りたいからです。	また、児童本人からも相談を受ける「24時間子ども相談ホットライン」があり、虐待やいじめ、学校での問題など子どもの関する様々な相談ができるようになっています。	2	1
193	会社などに子どもをつれていける場所	北九州市では、赤ちゃんが4ヶ月になるまでに、ぜんぶの家庭訪問をするようにしています。	2	1
	このような計画を見え、東京での就職を考えておりますが、子育てするには、ぜひ北九州に戻ってきたいという思いが強くなりました。高校や大学や図書館などを利用して、ぜひ10代への周知を推進することで10代にもっと北九州市を好きになって欲しいと思います。	家庭訪問したときに、「赤ちゃん大丈夫かな?」といった気になったり、心配に感じたお家には、その後も、続けて訪問するようにしています。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	北九州市では、赤ちゃんが4ヶ月になるまでに、ぜんぶの家庭訪問をするようにしています。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	子どももプラン策定後も、広く周知を図っていきたいと考えています。ご提案の場所の活用も検討します。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	お父さんお母さんが仕事に行っている間、子どもは保育所に行きますが、お父さんお母さんによっては、会社の中にある保育所がいいとか、子どもとずっと一緒に仕事したいといった考えもあると思います。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	北九州市では、お父さんお母さんが、やりがいを感じ働きながら、お家で子どもと楽しく過ごせるようにすることを進めています。このことを「ワーク・ライフ・バランス」といいます。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍(じょせいかつやく)・ワークライフバランス推進協議会(すいしんきょうぎかい)」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論(ぎろん)したりしています。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	具体的(くたいてき)には、残業(ざんぎょう)を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていくためにはどうするべきかの話し合いをしています。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	平成29年には、社長さんなどが集まって「北九州イクボス同盟(どうめい)」をつくり、働きやすいまち北九州を目指して、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	こうしたことが進んでいけば、会社に子どもを連れていける場所もできていくかもしれません。会社に行かなくて、お家で仕事ができるようなことも増えていくかもしれません。	2	1
	会社などに子どもをつれていける場所	これからも、お父さんお母さんたちが、いっしょに働き、子育ても楽しくできるようにしていくためのお手伝いをしたり、いろいろなことをお知らせしたりしていきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
194	いくじゅうをのぼす。	育児休業（いくじゅうぎょう）の制度は、法律で決められていて、今は子どもが2歳になるまで伸ばすことができます。 でも、そういった制度があっても、仕事のことを考えるとなかなか育児休業がとれなかったり、とりづらかったりすることもあると考えられます。 こうしたことから、北九州市では、お父さんお母さんが、お家で子どもと楽しく過ごすことができるようにするため、お父さんお母さんが、仕事の時間と子どもとの時間の両方をバランスよく過ごせるようにすることを進めています。このことを「ワーク・ライフ・バランス」といいます。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。 これからも、お父さんお母さんたちが、いっしょに働き、子育ても楽しくできるようにしていくためのお手伝いをしたり、いろんなことをお知らせしたりしていきます。	2	1
195	会社のざんぎょうをなくす。しゅっちょうをなくす	北九州市では、お父さんお母さんが、やりがいを感じ働きながら、お家で子どもと楽しく過ごせるようにすることを進めています。このことを「ワーク・ライフ・バランス」といいます。 北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。	2	1
196	仕事に在る時間を短かくし、給料を高くする	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。	2	1
197	働き方がいかにを進めます。	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。	2	1
198	働き方改かく	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる社長さんに、いろいろ学んでもらったり、アドバイスをしに行ったりしています。	2	1
199	仕事をがんばった人たち用にマッサージをおく	北九州市では、お父さんお母さんが、やりがいを感じ働きながら、お家で子どもと楽しく過ごせるようにすることを進めています。このことを「ワーク・ライフ・バランス」といいます。 北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる会社や人を表彰（ひょうしょう）して、お手本としてその内容を広く紹介したりしています。こういうことをやっていけば、ほかの会社やほかの人たちにも広がっていくので、続けていこうと考えています。	2	1
200	仕事をしている父、母がやすらぐための場所を作る。	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる会社や人を表彰（ひょうしょう）して、お手本としてその内容を広く紹介したりしています。こういうことをやっていけば、ほかの会社やほかの人たちにも広がっていくので、続けていこうと考えています。	2	1
201	寄付をして、大人カフェを作る	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 具体的（ぐたいてき）には、残業（ざんぎょう）を減らすこと、子育てをしているお父さんお母さんを手助けする制度をつくったりすること、女の人が働きやすいようにしていくことなど、働いている人たちのためにもっとよくしていこうと取り組んでいる会社や人を表彰（ひょうしょう）して、お手本としてその内容を広く紹介したりしています。こういうことをやっていけば、ほかの会社やほかの人たちにも広がっていくので、続けていこうと考えています。	2	1
202	気になったことは、お父さんとお母さんという時間をどう増やすかです。ほくは、お父さんになったら、休みの日とかに、子どもと遊んだりしたいです。	北九州市では、お父さんお母さんが、やりがいを感じ働きながら、お家で子どもと楽しく過ごせるようにすることを進めています。このことを「ワーク・ライフ・バランス」といいます。 北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 これからも、お父さんお母さんたちが、いっしょに働き、子育ても楽しくできるようにしていくためのお手伝いをしたり、いろんなことをお知らせしたりしていきます。	2	1
203	家ぞくの時間がほしい	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 これからも、お父さんお母さんたちが、いっしょに働き、子育ても楽しくできるようにしていくためのお手伝いをしたり、いろんなことをお知らせしたりしていきます。	2	1
204	子どもと話す時間をふやす。	北九州市では、この「ワーク・ライフ・バランス」を進めていくために、業界を代表する人や、そのほかの働いている人、市役所の人などが集まって、「北九州市女性活躍（じょせいかつやく）・ワークライフバランス推進協議会（すいしんきょうぎかい）」をつくり、どうやって「ワーク・ライフ・バランス」を進めていったらいいか、議論（ぎろん）したりしています。 これからも、お父さんお母さんたちが、いっしょに働き、子育ても楽しくできるようにしていくためのお手伝いをしたり、いろんなことをお知らせしたりしていきます。	2	1
205	1カ月に1回、お母さん、お父さんを楽しませる。（お手つだいさんを入れる	お母さんとお父さんが協力して子育てができるように、子育てについて学ぶ教室などを実施したり、お母さんやお父さんの体調が悪いときなどに子育てのお手伝いができるようにしています。これからも、こうしたことを続けていきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
206	ワイファイがつかえる店をふやしてほしいです。	「いろいろなお店でWifiが使えるようにする」ということについて、市役所としてできることは少ないです。 でも、商店街やお店を経営する人たちの手助けをして、皆さんが行きたくなるようなお店が増えるように取り組んでいますし、これからも努力していきます。	2	4
207	赤ちゃんにとって危なくない遊具や、勝手にどっかにいかないようにさくを付けたらいいと思います。	赤ちゃんが安全に過ごせるよう、安全な遊具を作ったり、さくの中で遊ぶようにすることは大事だと思います。 遊具をつくる会社では、赤ちゃんがケガをしないように気を付けながら作っていますし、赤ちゃん用のさくもお店で買うことができます。 でも、思いがけない事故が起きてしまうこともあります。いろいろな物で安全にすることも大事ですが、お父さんやお母さん、家族の人が、危なくないかチェックすること、気を付けて見守ることも大事なことです。 北九州市では、「元気のもり」に、赤ちゃんがお家の中で危なくないようにするための勉強ができるコーナーを作っています。	1	4
208	5 安全・安心に過ごせることが、とてもいいと思う	安全に歩ける道や、安心して生活できる家、災害があっても大丈夫にすることなど、安全・安心にくらせるまちづくりに取り組んでいます。	1	1
209	どこにいてもきれいな町であるために、花をうえたり、ほい捨てをしらないで、緑を増やしてほしいです。	街なかの花や緑は、景観（けいかん＝目に見える景色や風景のこと）などのことを考えながら、計画的に整備をおこなっています。これからも続けていきます。	2	1
210	（市内に）お花がいっぱい咲きますように		2	1
211	自然を増やしてほしい。	北九州市では、「まちの中に自然を増やす」「自然の中にまちをつくる」「みんなに自然を大切にするという気持ちになってもらう」ことなどを目的として、「みんなで植えれば100万本」を合言葉に、平成20年度から「環境首都100万本植樹プロジェクト」という取り組みを行っています。 北九州市内のいろんな場所で、会社の人やボランティアの人、市役所の人などが植樹を行っています。平成30年度までに、約72万本の「みどり」が増えていきます。 これからも、こうしたことを行って、もっともっと緑がふれるまちになっていくよう、努力していきます。	1	1
212	私が学校へ登下校するときを使う通学路は、横が神社で、周りが暗いし、台風があった次の日には、葉っぱが回りに散らばって、こげそうになったこともあります。1年生のときには、急な下り坂でころんで、頭やひざを打って、ケガをしました。	通学路を安全にしていけるために、平成27年11月に「通学路交通安全プログラム」というものをつくりました。 このプログラムをもとに、小学校では、毎年、通学路を点検しています。 そして、5年に1度は、道路を管理している市、警察、小学校と一緒に点検をするようにしています。 こうした点検をして、危ない場所があったときは、どうしたらいいか一緒に考えて、危なくないようにしています。 これからも、「通学路交通安全プログラム」を使って、通学路の安全を守っていききたいと考えています。	2	1
213	通学路を見守ったり、安全に歩ける道をつくと、安心して、学校までいけるのでいいと思います。		2	1
214	通学路をもっと安全にしてほしい。（道を広くする。信号機をふやす。信号無しをさせない）		2	1
215	通学路にガードレールをつけてほしい		2	1
216	通学路にガードレールをつけてほしい		2	1
217	自転車とは道を分けてほしい	自転車は、自動車の通る道の左はしを通らないといけませんので、北九州市では、自動車、自転車、歩く人を別々に通れるようにしていこうとしています。 自転車が通る道をつくる時は、いろいろな種類があるので、道路の幅（はば）や交通量、近所に住んでいる人のことなども考えながら、警察とも相談して、一番いい種類の自転車の道づくりを進めています。 これからも、こうした取り組みを進めていきます。	2	1
218	おうだん歩道をもっとふやしてほしい。	横断歩道をつくる仕事は、警察がやっています。つくって欲しいところは、近くの警察署や区役所に相談してください。	2	4

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
219	点字を増やす。バス登校をできるようにする。	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるように、視覚障害者誘導用ブロック（点字ブロック）を増やしていくことなどを進めています。 これからも、障害者や高齢者、妊婦さんや子ども連れの人たちなど、みんなが生活しやすいまちをつくっていくため、バリアフリー化（まちの中のいろんな「かべ」を取り除くこと）に取り組んでいきます。 小学校や中学校は、住んでいるお家から歩いていける学校にしていますが、障害のある児童生徒さんが「特別支援学校（とくべつしえんがっこう）」に登校する場合は、バスを用意しています。	2	1
220	通学路の方にかかっている木など切ってほしいです。	家の中に生えている木は、市役所で勝手に切ることができませんが、市役所が管理している樹木（道路内に植えている木）であれば、通行に支障がある場合、伐採できます（切ることができずし、危険なものなどについては切っています）。お父さんお母さんに伝えて、区役所の「まちづくり整備課」まで連絡してください。	2	1
221	安全に歩ける道を細い道にも信号をつけたり、自転車走るところと歩くとところを別々にしていって安全になると思います。	「信号をつけること」「自転車走るところと歩くとところを別々にすること」などは、警察の仕事なので、市役所で勝手に変えることはできませんが、「通学路安全プログラム」という取り組みを行う中で、危険なところは、警察に伝えて変えてもらっています。 これからも、安全な道路になるように取り組んでいきます。	2	4
222	信号をつけてほしい	信号をつける仕事は、警察がやっています。つけて欲しいところがあったら、近くの警察署や区役所に相談してみてください。	2	4
223	信号をつけてほしいです。		2	4
224	信号を増やす		2	4
225	信号をふやします		2	4
226	長い信号を少なくすると思う。		2	4
227	歩道がないのでつけてほしいです。		2	4
228	信号きをふやしてほしい。		2	4
229	安全に歩ける道をふやすのはいいと思います。理由は、安全に歩けたらあんしんして歩けるからいいと思ったからです。	みなさんが、安心して道路を歩くことができるよう、これからも安全な道路をふやしていきます。	2	1
230	ぼくは、安全に歩ける歩道を増やすのがいいと思いました。理由は、安全に歩ける歩道がないとけがや、事故が起きるからです。		2	1
231	安全に歩ける道を増やすことはいいと思います。 (理由) 最近、事故なども増えているから。		2	1
232	安全に歩ける道を増やしてほしい。 (理由)車にはねられるという事故が起こるから、安全になるといいなと思ったから。		2	1
233	安全な道がふえての方がいいなと思いました。		2	1
234	ガードレールなどを増やしてほしい。		2	1
235	安全に歩ける道をふやします。		2	1
236	ガードレールのこわれているところ、なくてきけんた所をなおす		2	1
237	きけんな道がなくなることを願います。		2	1
238	きけんな道路や歩道がないようにしてほしい。		2	1
239	安全に歩ける道を増やしてください。		2	1
240	あふないところがなくなってほしい。		2	1
241	安全に歩ける道を増やしてほしい。		2	1
242	歩道をキレイにしてほしい。		2	1
243	トンネルのらくがきをけしてほしい。	らくがきのあるトンネルがあったら、お父さんお母さんに伝えて、区役所の「まちづくり整備課」まで連絡してください。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
244	赤ちゃんが生まれて、散歩する時、近くにベンチなどがあると、お母さんも安心すると思うので作ってください。	ベンチを歩道に置くと、歩きにくくなることがあります。そのため、①たくさん人が集まって、そこにいる時間が長くなりそうな場所である、②近くに休憩できる場所がない、③ベンチを置いて歩く人の邪魔にならない、といったチェックをして、置いても大丈夫な所に置くようにしています。どこにでもベンチを置くことはできませんが、必要なところに置いていきたいと考えています。	2	1
245	坂を少なくしてほしい	道路をつくるときは、決められた基準（ルール）があります。できるだけ坂がゆるやかになるようにしていますが、周りの地形や道路沿いの建物などの状況によっては、やむをえない場合があります。これからもみんなが生活しやすい道路づくりに取り組んでいきます。	2	1
246	坂をなくしてほしい		2	1
247	通学路がさかばかり		2	1
248	道がせまくて車がぎりぎりで行っているから広くしてほしい		2	1
249	せまい道を広くすると、事故が少なくなると思う		2	1
250	せまい歩道があるので、広くしてほしいです。	道路を広くすることについては、地域の人たちの意見や、土地を持っている人の考え、そのほか、歩行者や車がどれくらい通っているのか、地形、お金がかかるとか、などを考えながら、進めていきます。	2	1
251	道を広くしてほしい。		2	1
252	ほど道を広くしてくれ～		2	1
253	歩道橋を新しくしてほしい。		歩道橋は5年ごとに点検しています。この点検で、どれくらい「いたんでいるか」に合わせて、塗装（ペンキ）のぬりかえなどの工事をして、歩道橋を長く使えるようにしています。	2
254	3号線に自転車と歩行者の別々の道を作ってください。	自転車を通る道をつくる時は、国とも話し合いをしながら進めています。「国道3号」は、主に国が管理する（持っている）道路ですので、ご意見を国に伝えたいと思います。	2	1
255	のうやくを、まかないでほしい	のうやくには虫をたいじするのうやくや、ばいきんをたいじするのうやくなどがあります。一つのうやくが売られるまでには10年以上の年月と、たくさんのお金がかかります。このあいだに、のうやくが安全に使えるかどうかのじっけんを何回もくりかえします。そして、国が安全に使えるとかくにんできたら、使っているのうやくとしてとろくされます。このように、何回もかくにんをすることによって、安全なのうやくを売ることができるようになります。食べ物を作っている人は、きめられた使いかたでのうやくをまいて、安全な食べ物をみなさんにわたしています。のうやくをまかないと、虫やびょうきがたくさん出て、植物が全部しんでしまうことがあります。そうすると、みなさんに食べ物をわたすことができません。食べ物を作っている人も、のうやくをたくさんまくとお金がかかり、つかれてしまうので、必要なりょうしかまきません。いろいろな人が、みなさんに安全な食べ物をわたすためにどりよくしていますので、安心して食べてください。	2	1
256	災害があった時でも安心して、すごせる場所をつくってほしい。	大雨や地震で避難（ひなん）が必要になると、北九州市は避難情報（ひなんじょうほう）を出して、避難所の場所をお知らせし、「ここに避難してください」と伝えています。災害にそなえて、どこを避難所にするのかは、あらかじめ決めていきます。避難所は災害の種類（大雨の場合、地震の場合など）に合わせて選んでいます。どんな災害があっても安全に避難することができるようにしています。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
257	災害があったときのために地下をつくる。	北九州市で起こりやすい災害は、台風や大雨、洪水などの「風水害」といわれるものや、地震などです。洪水などの場合、地下に避難すると危ないの、地下に避難所をつくることは考えていません。 災害が発生したときは、起こった災害の種類に合わせて、避難所が決められています。北九州市では、そのときの災害に合わせて、一番安全な避難所を紹介するようにしています。	2	1
258	寄付をして、とても高い丘に大きい建物を建てて、ひなん所を造る	大雨で川の水があふれたりして、洪水になるような災害が起こったときに、水ひたしになる危険がある避難所は、避難所のリストから外しています。 避難情報（ひなんじょうほう）を出すときは、避難できる避難所もお知らせしますので、市がお知らせする情報をしっかり確認してください。	2	1
259	子どもを主体とする施策ではありませんが、自然災害や交通事故を意識したまちづくりへの取り組みの推進は、祖父母や両親が暮らしていく上で、とても安心です。	北九州市では、長期的な観点から、北九州市にふさわしいまちづくりの仕組みや考え方を明らかにしていくことを目的に「北九州市都市計画マスタープラン」を策定しています。 「安全・安心なまちづくりを進める」を基本方針とし、交通施設、公園、建物などのバリアフリー化や歩行者安全対策を促進し、人にやさしいまちづくりを進めています。 また、想定を超える災害により、防ぎきれない事態が起こり得ることを前提に、被害をいかに小さくするかということを中心に、これまで取り組んできた「ハード対策」とともに、的確な情報提供や速やかで確実な避難行動、自主防災組織による助け合いなどの「ソフト対策」を重層的に組み合わせ「減災」対策を進めていきます。 このほか、交通事故の被害を減らすため、地域の要望などを聞きながら、防護柵の設置等を行い、歩行空間の安全性や快適性の向上を図っていきます。	1	1
260	災害があったときでも安心してすごせる場所をつくることは、とてもいいことだなあと思いました。 理由：災害があると、パニックになってしまうからです。	北九州市は土砂災害、洪水災害、津波災害などのハザードマップ（災害の種類・場所・危険度などを示した地図）を作っています。 自分が住んでいた、普段行くことの多い地域にどんな危険があるのかを調べることで、災害が迫ったときどこへ行けば安全なのか知ることができます。 災害でパニックにならないよう、あらかじめどこへ逃げればいいのか確認しておくことが大切ですので、家族の方と一緒に調べて、確認しておいてください。	1	1
261	街灯を増やしてください。	街灯にはいろいろな種類があって、誰が付けることを決めるのか、誰がお金を払うのか、街灯の種類によって違います。街灯が消えていたり、付けて欲しいときは、まずは、住んでいる区の区役所（コミュニティ支援課）に連絡するようにしてください。	2	1
262	暗い道が多いところに電柱をつくってほしい。		2	1
263	暗い道に電柱をつくってほしい。		2	1
264	まだ、暗い道があるので、外灯などを増やしてほしいです。		2	1
265	がいとうを増やしてほしい。		2	1
266	暗い道があるから電柱をふやしてほしい。		2	1
267	がいとうを増やしてほしい。		2	1
268	たくさんあかりをおいてほしい。		2	1
269	街灯を増やしてほしい。		2	1
270	もうちょいあかるくしてほしい。		2	1
271	街灯が少ないです	2	1	
272	ふしん者がでにくくしてほしい（公園など夜明るく）	2	1	
273	しん号、電灯、を増やし、見はらしをよくする。	街灯にはいろいろな種類があって、誰が付けることを決めるのか、誰がお金を払うのか、街灯の種類によって違います。街灯が消えていたり、付けて欲しいときは、まずは、住んでいる区の区役所（コミュニティ支援課）に連絡するようにしてください。 信号をつける仕事は、警察がやっています。つけて欲しいところがあったら、近くの警察署や区役所に相談してみてください。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
274	110番の家をふやしてほしい	通学路が危なくないようにするため、お父さんお母さんの集まり（PTA）や、学校では、危ないところがないか調べて、危なくないようにしています。 「子ども110番の家」もその中の一つですが、「110番の家」をぜひやりたい、やってもいいよ、と言ってくれる人たちがボランティアでやっているものなので、そういう人を増やしていく必要があります。 これからも、110番の家もふくめて、通学路を安全にするために、努力していきます。	2	1
275	110番の家をいろんな場所にしてほしい		2	1
276	通学路の公園で、まったく知らないおじさんに声をかけられたこともあり ました。そして、私は公立の小学校ではないので、ボランティアがいませ ん。ボランティアがいいたらいいなと思うこともあります。	北九州市では子どもたちが安全・安心にくらせるためにこ んな取り組みをしています。 ①北九州市の全校区には、地域の人たちでつくった「生活安 全パトロール隊」というボランティア団体があります。この 人たちはみなさんの登下校の時に見守りをしたり、車などに 気を付けるよう教えています。 通学路以外でも地域の見回りをし、声掛けをしながら、 ふしんな車や人がいないか、防犯灯が切れていないか、など を確認しています。	2	1
277	安心して学校に行けるようみんなでつうがくを見守ります。りゆうは、み んながじこやけがをふせるからです。	通学路以外でも地域の見回りをし、声掛けをしながら、 ふしんな車や人がいないか、防犯灯が切れていないか、など を確認しています。	2	1
278	ぼくは、赤ちゃんがすくすく育つようにサポートしてあげるようにしま す。理由は、おやはいろいろせないけなことがあるし、けがをしたりし たらお医者さんにすくみてもらえるから。登校しているときに大人がしてくれ るようにします。理由は、ぼくたちのためにふしんしゃにまきこまれないよ うにしているからいいなと思います。	②みなさんがあふない場所を自分で見分けられるように、小 学生を対象とした「地域安全マップづくり」を教えていま す。これは「入りやすく見えにくい」場所を「危ない場 所」として、実際に歩きながら調べ、地図をつくり、そ ういった場所に近づかない、ひとりで行かないということを学 びます。 ③そのほかに、「子ども防犯セミナー」があります。このセ ミナーでは防犯の専門家が先生になって、ふしんしゃからの 「声かけ・つきまとい」から自分を守る方法を学びます。	2	1
279	ボランティアとして、学校や通学路を見守ります。		2	1
280	もつとつうがくろうに犬などの動物がいてほしい		2	1
281	通学路や公園に人目につきにくいところを減らしてほしい		2	1
282	人通りの多い場所にしてほしい		2	1
283	防犯ブザーを配るようになってほしい。	防犯ブザーは、お父さんお母さんの集まり（PTA）が中 心になって、安い料金で買える取り組みを行っています。お 父さんやお母さんなど家族の方や、学校の先生に相談してみ てください。 自分の身を守るためには、「いかのおすし（※）」など、 防犯教室で教わったことをできるようにしておくことも大切 です。 防犯ブザーの電池が切れていないかも、時々確認をしてお いてください。 ※いかのおすし…「いかない」「のらない」「おおごえでさ けぶ」「すくんにける」「しらせる」	2	4
284	かんしかめらをたくさんつくる（おく）	犯罪（ほんざい）がおこらないようにしたり、安心してく らすことができるようなまちにしていけるため、北九州市で は、防犯（ぼうはん）カメラを取りつけて、撮影（さつえ い）をおこなっています。 地域の人や会社が、カメラをつけるときは、一部、補助 （ほじょ・お金を出すこと）もしています。 これからも、地域の人たちや、警察（けいさつ）の人たち と協力しながら、安全なまちにしていきます。	2	1
285	1 赤ちゃんがすくすくそだつように安心してむかえられるのがいい。 2 毎日楽しくすごせるように、 ・家に近い所がいい ・守ってくれるいい 3 こまっている子どもがいなくなるように、 ・いっしょにすごせなくても代わりになっている人と楽しくすごせるよ うにいい。 4 いつでも楽しくいられるよう、父、母を応援する。 ・父・母相だんじょができるいい。 5 安全、安心 災害時、安心してくらせる場所を作った方がいい	「いい」とご意見をいただいた、5つの目標に向かって、 みんなの笑顔があふれるまちをつくっていきます。 家に近い所に楽しい場所をつくっていきけるように、子ども 食堂など、子どもの居場所を増やしていきます。	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
286	①は赤ちゃんのごこと、お父さんお母さんのごことをよく考えていて、将来、赤ちゃんが生まれたときに①がひろがっていたら、とても役に立って、便利だと思いました。私は、サン・ムラタで命について学び、赤ちゃんを育てる大変さが分かったので、より便利だと思いました。 ②は、私たちのいつもの生活について考えてくれていて、もしも、人生楽しくない人でも、このしえんがあれば、より、毎日が楽しくなるのではないかと思います。 ③と④は、親子生活を、楽しく、しようとしてくれていて、これがあればみんなが笑顔になれると思います。 ⑤は、私たちの心によりそってくれていて、安全に過ごせれば、心配もなくなるし、よりよく、楽しい生活ができるようになると思います。	①から⑤の5つの目標に向かって、みんなの笑顔があられるまちをつくっていきます。	1	1
287	これはいいと思いますそのりゆうは、みんながたのしく、学校や生活などができるようになったらいいと思ったからです。安ぜんに過ごせるなど、町をたのしくさせたいと思ったからです。 あかちゃんなどがすくすくそだつと、みんなも、うれしくなるからです。しょうがいがあったとしても、みんなとえがおでいたいからです。		1	1
288	いいとおもいます。そのりゆうは、人がこまったときなどにいいとおもいます。		1	1
289	北九州市内でこのように様々な施策に対する取り組みがあり、推進してくださっていることを初めて知り、とても安心しました。	引き続き、本計画に基づき、子ども・子育て支援に取り組みます。	1	1
290	ふつうに過ごしているときはあまり感じないかもしれないけど、改めて読んでみると、「北九州市は、こんなにもたくさんのごことをしているんだな」と思いました。私もこの5つの目標に沿って過ごせるよう、がんばりたいです。	もっとたくさんの人に、子どもや子育てを応援してもらえよう、この子どもプランを広く伝えていきたいと考えています。	1	1
291	(目標4に対して) みんな家の中に1つできるようにする	みんなが家の中でも外でも、いつでも楽しくいられるようにお、お父さんやお母さんを応援していきます。 そして、みんなが、赤ちゃんや赤ちゃんをもっているお父さんお母さんを大切にできる、そんなまちになるよう、これからも努力していきます。	2	1
292	わくわーくなどのおかしをひやす	わくわーくのおかしは、障害のある人たちが心をこめて作っています。たくさんの方が、わくわーくなどのおかしを買って、おいしいと言って食べてくれたら障害のある人たちの笑顔も増えます。 みんなの笑顔があるれるまち北九州にしていきたいと思えます。	4	4
293	給食にアイスを出す	学校の給食の献立(こんだて)は、主食、牛乳、副食の三つを大事にしなが、栄養のバランスがとれるように、工夫しています。 ご意見をいただいたアイスについては、給食の時間が楽しくなる「デザート」の1つだと考えています。その日のメニューとの栄養のバランスなどを確認しながら、アイスを出せるかどうか、考えていきます。	4	1
294	学校に公しゅう電話がほしい	電話機を置くにはお金がかかること、置いた後どのように管理(かんり)していくかなど、いろいろ事情があつて、今は、公衆電話(こうしゅうでんわ)をおくことは考えていません。 どうしても家に電話をかけないといけなときは、先生に相談してみてください。	4	3
295	学校のトイレをきれいにしてほしい。	トイレを新しくしていくため、学校のトイレ工事を進めています。毎年、「学校の工事に使えるお金は〇〇円までです」と決められているので、使えるお金の中で、順番に進めています。	4	1
296	学校にエレベータ・エスカレータをつくってほしい	新しく作る学校についてはエレベーターをつけていますが、今ある学校はエレベーターをつける予定はありません。 エレベーターが必要な人がいる場合は、教室の位置に気を配ったり、移動するときに皆で助け合ったりして、エレベーターがなくても困らないようにしています。	4	1
297	学校のトイレの数を増やしてほしい。	児童生徒さんが増えている学校については、増やしていくこともあるかもしれませんが、北九州市の学校全体で考えると、子どもの数が毎年減っているということもあつて、今のところ、学校のトイレの数を増やすことは考えていません。 トイレが使えなくなったりしている場合は、先生に伝えてください。	4	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
298	学校に自転車できていい	自転車で事故にあうといけないうので、歩いて通学することになっていますが、中学校では、住んでいるところによって、自転車で通学できる学校もあります。	4	3
299	小学校、中学で自転車で登校OK		4	3
300	学校でテレビが見れるようにする。自転車登校○	学校のテレビは教育用として利用することになっているので、教育以外のものは見ることができません。 自転車で事故にあうといけないうので、歩いて通学することになっていますが、中学校では、住んでいるところによって、自転車で通学できる学校もあります。	4	3
301	寄付をし、学校を育てんさせる	学校の発展につながる寄付として、北九州市には「学校応援基金」という制度があります。これからも、たくさんの方に寄付していただけるように取り組んでいきたいと考えています。	4	1
302	宿題学校でOK	学校は授業を受けるところです。授業でのやり残しをしたり、教わった内容を繰り返し練習することで、授業の内容が身につくので、宿題は家庭で行うようにしています。	4	3
303	学校を、週5～6日から週2～3日ににする	学校は子どもたちが成長するために授業を受けるところです。授業は子どもたちが成長するために必要な時間数が決められていて、学校に週5～6日通うことで、その時間数の授業が受けられるようになっています。	4	3
304	みじかくする（6時間から3時間）		4	3
305	学校に自分もってきたいものをもってきてほしい	学校になんでも持ち込みできるようにすると、危険なものも持ち込んでしまうこともあり、けがなどにつながることもあるかもしれません。そのため、持ち込んでいいものを決めています。	4	3
306	私服登校（中学）	平成9年度に市内の中学校1校で、私服登校ができるようにしましたが、見直ししてほしいという意見がたくさんあったので、平成18年度の新入生から標準服に戻しました。 そのときのアンケートで、半数以上の生徒、保護者、地域の方が標準服がいいと思っていることが分かりました。	4	3
307	ランドセルがおもいから教科書をタブレットなどにして軽いものにしてほしい	北九州市では令和元年度から、順番でタブレットを使う学校を増やして、タブレットを使った授業ができるようにしていく予定です。教科書をタブレットにするのかどうかなども考えていきます。	4	1
308	教科書をすべてタブレットにします		4	1
309	教科書をすべてAIにする	教科書をタブレットのように電子化したいという意味でしょうか。 北九州市では令和元年度から、順番でタブレットを使う学校を増やして、タブレットを使った授業ができるようにしていく予定です。教科書をタブレットにするのかどうかなども考えていきます。 AIはこれまで人間がしていたようなことを、人間のかわりのできることで、いろいろな使い方ができるとみんな楽しみにしていますが、今は「教育」にどうやって使えるのかあまり分かっていません。これからも、AIがどう使えるのか考えていきます。	4	1
310	小・中学生の荷物を軽くします。（重くて、かたが痛い）	学校で教わった内容を身につけるためには、家での学習が大切です。そのため、教科書は持って帰るように決めています。しかし、荷物が重いと大変なので、一部を学校へ置いておくなど、各学校で工夫して行っています。また、終業式など、特定の日に荷物が多くなりすぎないように、計画的に持ち帰るようにするなど、引き続き考えていきます。	4	1
311	荷物の軽減		4	1
312	ランドセルそのものをかるくしてほしい	ランドセルの材質については、いろいろなものがあるようです。最近では、軽いランドセルも種類が増えているようです。ランドセルを売っているお店の店員さんが詳しいと思います。	4	4
313	学校への通きんバックを、ランドセルだけじゃなく、かたがけなどでも、いいほしい。	ランドセルは厚くて壊れにくく、教科書等の中身を守ってくれることや、ころんだ時のクッション代わりになる、また、両肩にバランスよく重さが加わるので、体がきつくなりにくい等のメリットがあるとされていて、学校ではランドセルでの通学をお願いしています。	4	3

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
314	折尾駅のホームに、小さいコンビニや、うどんの店などを作ると、にぎやかになると思う	いただいたご意見も参考にして、地域の人たちの声を聞きながら、JR九州と協力し、折尾駅を含む折尾のにぎわいつくりに取り組んでいきます。	4	4
315	すべて特産物にする	気候（気温や雨の降り方）など様々な理由から、その土地で特徴のある農産物などを「特産物」としています。 北九州市では、農家の人たちが、いろんな農産物をつくっていますが、生産量が少ないといったような理由から、全ての農産物を「特産物」にすることができていません。 北九州市は、農家、JA（農業協同組合）、福岡県の人たちと協力して、「特産物」（農産特産物）の開発のために努力しています。 また、既に「特産物」になっているものは、宣伝（せんでん）をして、北九州市の「特産物」が全国に広がっていくように、努力しています。 ぜひ、北九州市で作られた農産物をお店で探して、たくさん食べてみてください。	4	4
316	すべて特産物にする	気候（気温や雨の降り方）など様々な理由から、その土地で特徴のある農産物などを「特産物」としています。 北九州市では、農家の人たちが、いろんな農産物をつくっていますが、生産量が少ないといったような理由から、全ての農産物を「特産物」にすることができていません。 北九州市は、農家、JA（農業協同組合）、福岡県の人たちと協力して、「特産物」（農産特産物）の開発のために努力しています。 また、既に「特産物」になっているものは、宣伝（せんでん）をして、北九州市の「特産物」が全国に広がっていくように、努力しています。 ぜひ、北九州市で作られた農産物をお店で探して、たくさん食べてみてください。	4	4
317	イオンのようなショッピングモールがほしい。	市がショッピングモールを作ることはできませんが、商店街やお店を経営する人たちを支援し、いろいろなお買い物ができるお店が増えるように取り組んでいきます。	4	4
318	近くにショッピングモールを使ってほしいです。		4	4
319	ショッピングモールを作ってほしいです。		4	4
320	いろいろな店をふやしてほしいです。	商店街やお店を経営する人たちを手助けし、いろいろなお買い物ができるお店が増えるように取り組んでいきます。	4	4
321	店を増やし、外出する大人を増やす。		4	4
322	お店をふやしてほしい		4	4
323	スカイツリーをつくってほしい。	スカイツリーは、展望台があったり、周りにはプラネタリウムやショッピングモールなどもあって、楽しい場所だと思います。 北九州市にスカイツリーはありませんが、スカイツリーと同じくらいの高い「新日本三大夜景」の皿倉山の展望台がありますし、もう少ししたらショッピングモールの中に新しいプラネタリウムもできます。 北九州市にも良いものがたくさんあるので、いろいろ発見してみてください。	4	3
324	校内にショッピングモールを作ってほしい。	楽しいアイデアをありがとうございます。学校の中にショッピングモールをつくるのはなかなか難しいですが、学校がもっともっと楽しい場所になるといいな、ということだと思います。 先生たちにいろいろ自分たちの考えや意見を伝えてみてください。そうすれば、学校がもっと楽しい場所になっていくと思います。	4	3
325	通学路の近くに文房具やがあると、いつでも買いに行けるので作ってほしいです。	北九州市では、お店を始めようとしている人のお手伝いもしますが、どこで、どのようなお店を開くのかは、その人が決めます。 近くにお店がない場合は、ノートやえんぴつ、じょうぎなど、学校で使うものは、前もって、足りているか確認しておいて、早め早めにご購入するようにしてみてください。	4	3

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
326	・学生の方々にも子育ての知識をみにつけた方が子育てするときに参考になりやすいので、学生の方々のための子育てについての講演を開く。	思春期の子どもたちの健全な健康づくりを支援するために、市内小学校・中学校において「思春期健康教室」を実施しております。 また、その教育の中で、胎児体験や赤ちゃん人形の抱っこ体験なども行い、いのちの大切さについても触れています。	2	1
327	もっと保育士になってもらえるような制度をつくった方がいいと思います。	北九州市では、保育士になりたい人に声かけをしたり、保育士になりたい人と保育所をつなげる「保育士・保育所支援センター」というところをつくっています。 そのほかにも、保育士さんの働く環境をよくしたり、お給料を上げる取り組みをしたりしています。10月からは、新しい制度として、保育士さんの住宅を用意してくれる保育所にお金を出すことも始めました。 保育士になってからも、保育の仕事をやっていくうえで必要なことを学べるようにしたり、ずっと保育士を続けてもらえるよう悩み相談の場をつくったりもしています。 これからも、保育士になりたい人が増えていくように、こうした取り組みを続けていこうと考えています。	2	1
328	保育所を増やしてほしい。	子どもプランをつくるにあたって、「今までどれくらいの子どもたちが保育所を使っていたのか」というデータを調べて、これから保育所に通う子どもの数を計算しました。計算した数の子どもがみんな保育所に入ることができるようにしていこうと考えています。 例えば、保育所に似た施設として「認定こども園（にんていこどもえん）」というものがあり、この「認定こども園」を増やしたり、保育所を新しくする工事を行うときに合わせて、お部屋を増やしたりしていこうと考えています。 保育所が広くなっても、保育士さんがいないと入れないので、保育士さんがもっと増えるようにもしていきます。 こうした取り組みをこれからも続けていきたいと考えています。	2	1
329	放課後児童クラブで親の迎えを待っている子どもたちに、放課後高校生が出向いて少しの間ふれあえる機会を作ったりするのいいと思います。 親の迎えを心細く待っている子も高校生とふれあうことで楽しく過ごせるからです。	放課後児童クラブのイベント等の取り組みについては、各クラブにおいて内容を決定しています。 ご意見いただいた取り組みを行う運営団体があれば、市としても必要な支援を行いたいと考えております。	2	1
330	子どもたちが外で遊べる場所を増やしてほしい。	北九州市では、子どもの遊び場を良くしていこうと考えています。 外で遊ぶ場所として代表的なのは公園ですが、公園については、これからも安全に使えるようにしていきます。 このほか、「プレイパーク」というものがあります。これは、子どもの「やってみよう」という気持ちを大切にしたい外遊びの場で、自分のやり方や自分のペースで工夫し、挑戦し、失敗しながら遊びます。できなかったことができるようになることがこの「プレイパーク」の良いところです。 土・木・水・火などの自然のものを使って遊びます。ホームページでお知らせしていますので、ぜひ遊びにきてください。 近くの公園でも、遊具がなくてもいろんな遊びができると思っています。みんなで意見を出し合って、遊んでみてください。	2	1
331	図書館とは別のテスト期間勉強できる施設がほしい。	地域の図書館のほか、黒崎にある「ユースステーション」の学習スペースやフリースペース、それぞれの地域にある市民センターや各区の生涯学習センターにあるフリースペースを使うことができます。利用してみてください。	2	1
332	駅の近くに勉強をするための施設を増やしてほしい。	黒崎にある「ユースステーション」の学習スペースやフリースペース、それぞれの地域にある市民センターや各区の生涯学習センターにあるフリースペースを使うことができます。利用してみてください。	2	1
333	・外でボール遊びができる公園等が少なくなった。	ボールで遊べる公園があると、遊びのはばが広がって、すごく楽しくなると思います。でも、公園の広さや利用しているほかの人たちのことも考えないといけないので、全部の公園をそのようにすることは、なかなかむずかしいと考えています。	2	1
334	あらかじめ、用意されたボランティアではなく、子どもたちが自発的に選択し取り組める活動にするため、大人たちはそのサポート、つまりは、裏方に徹してほしい。例えばボランティアグループ立ち上げに資金援助、情報提供など。	広いグラウンドなど、ボール遊びができる公園もあるの で、お友達と一緒にいろいろ探してみてください。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
335	“学校でいやな事があったり、学校にいきたくないと思った時でも、すぐ相談できるようにします”というプランに対して僕の考えは、今の時代、自分から相談をしに行くというのは、ハードルが高いし、僕たちの世代にあってないと思います。なので、スマホの中でアプリを作ります。具体的に説明すると、LINEのような形で登録などは簡単なものにし、名前などは、テキストに、生年月日・パスワードも不要、気軽に話せるをコンセプトにします。 そして、このアプリと同時に、このアプリに登録し、相談をしてくれた人たちの相手をするためのチームを作ります（なるべく若い人、引きこもりやニートなら一石二鳥！）。僕は1対1で面と向かって話したいと思います。大人対子どもの座談会では意味がないと僕は思います。	北九州市では、今のところ、SNSやアプリを使った相談は行っていませんが、いつでも、電話やメールで相談にのってくれる「24時間子ども相談ホットライン（093-881-4152）」や、専門のスタッフがアドバイスやその人にあった支援を行う、子ども・若者応援センター「YELL（エール）」という総合相談窓口があります。 また、不登校の中学生のところに直接訪問する取り組みも行っていきます。 自ら相談しに行くのは、ハードルが高いと思っている人は多いかもしれないので、悩みや不安を気軽に相談できるにはどうしたらいいのか、SNSなどを使った相談方法についても考えていきます。	2	1
336	不登校の人たちが集まれる場所があったらいいと思います。	子ども・若者応援センター「YELL」は、不登校などに悩（なや）んでいる人たちが相談にきたり、活動に参加したりする場所です。 戸畑区の「ウェルとばた」という建物の中にあります。 ここでは、いろいろな活動に参加できる「プログラム（それぞれの人に合わせてつくられる活動メニューのようなもの）」などを用意しています。	2	1
337	・児童虐待が新たな問題になっているため、児童相談窓口に取り組みの徹底と、その存在を知ってもらうための取り組みをする。	北九州市には、児童相談窓口として、区役所子ども・家庭相談コーナーと子ども総合センターがあります。 虐待の相談を受けた場合は、子どもの安全確認や調査を行っています。 これらの窓口をより多くの市民に知っていただけるよう市政だよりやポスター、パンフレットの配布などを行っており、今後とも広報に努めます。	2	1
338	・父親がミルクをあげたり、オムツ替えをしたりすることがもっとしやすくなるような環境作り。	いろいろなところに、おむつ替えのできる場所やミルクをあげられる場所がありますが、母親しか使えないようなところもあるようです。 父親もこうした場所を自由に使えるようにしていくことが、男性の育児を進めることにもつながると考えています。 現状を把握し、今後の方向性を検討していきます。 ご意見を踏まえ、素案134ページ、施策14の＜方向性＞について、「男性の家事・育児などへの参画を促進するための取り組み、環境づくりを推進します。」に修正します。	2	2
339	ゴミ箱を増やしてほしい。	以前は、公共ごみ容器（みんなが使うゴミ箱）は、まちにごみが散らかることを防ぐため、人通りの多い歩道や乗り降りの多いバス停などに置いていました。 でも、こうしたごみ容器を置くことで、ごみを散らかすことにつながったり、家庭のごみを持って来て捨てる人がいたり、といった問題が起こったため、平成18年度に、こうしたゴミ箱を全部なくしました。 その後、みなさんに聞いてみたところ、「ごみが減り、きれいになった」という意見がほとんどでした。また、他のまち（政令指定都市）でも、ごみ容器は置いていません。全国的にもごみ箱を置かない考え方が進んでいますし、北九州市でも「ごみの持ち帰り」を進めています。 こうしたことから、公共ごみ容器（ゴミ箱）をもう一度置くことは考えていません。	2	1
340	バイクの音がうるさい	うるさいバイクの音は、迷惑行為（めいわくこうい）のひとつとして、防止のための啓発活動（「してはいけない」ということをお知らせすること）などを行っています。 警察などへの協議・相談を行いながら、迷惑行為の防止を進めていきたいと考えています。	2	1
341	夜に暴走族の騒音が気になる		2	1
342	夜のバイクの音をなくしてほしい。		2	1
343	バイクがうるさいです		2	1
344	登り坂を減らす、段差をなくす	道路をつくるときは、決められた基準（ルール）があります。 できるだけ坂がゆるやかになるようにしていますが、周りの地形や道路沿いの建物などの状況によっては、やむをえない場合があります。 市の施設や、歩道については、これからも、段差をなくすように取り組んでいきます。	2	1
345	北九州は他県から「こわい」というイメージがあるようなので、犯罪を減らせるようにしてほしい。	北九州市は、犯罪が減ったり、暴力団が少なくなったりして、安全なまちになりましたが、いまだに「暴力のまち」といったイメージが残っています。 このイメージをなくすため、これからも、市外の人たちに、北九州市が安全・安心なまちになっていくためやっていることや、北九州の本当の姿（安全なまちだということ）をしっかりと伝えていきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
346	バス停で22:00頃電気が消えたのですが、もう少しだけつけてほしい。	街灯にはいろいろな種類があって、誰が付けることを決めるのか、誰がお金を払うのか、街灯の種類によって違います(※)。街灯が消えていたり、付けて欲しいときは、まずは、住んでいる区の区役所(コミュニティ支援課)に連絡するようにしてください。 ※「防犯灯」は町内会・自治会、各区コミュニティ支援課、「街路灯・生活街路灯」は、各区まちづくり整備課、バス停の灯具は、バス事業者(西鉄、北九州市営バスなど)が管理しています。	2	1
347	夜の帰り道が暗い。	市民の暮らしの安全・安心に配慮し、道路空間の規定の明るさが保たれるよう努めていきます。	2	1
348	街灯が少なすぎて暗い(学園大通りうら)		2	1
349	計画の中の「成果指標」に「増加」や「維持」など、数値化されていない目標が設定されていますが、数値化する必要があるのではないのでしょうか。これでは「指標」とはいえないのではないのでしょうか。	今回の計画では、大きな方向性として、主に「増加」「減少」などを目標にしています。 なお、計画策定後、実績やアンケート調査の結果等をもとに、成果指標の基準値(スタート地点としての具体的な数値)を示していきます。	3	1

2. 大人からの意見

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
350	妊娠から出産・子育てへの支援に向けてのところに産後ケアが足りていないと感じます。 北九州市は、各区とも転勤族が多いです。出産直後に支援が必要と思っても身近にSOSを出す手段がないママが多く、産後3ヶ月までに母子関係がうまくいかないと「産後うつ」や「虐待」に向かってしまう危険があることをもっと身近に感じてほしいと思います。 養育支援が必要な家庭に対しては手厚く支援が入ると思いますが、普通に出産した家庭には、赤ちゃん訪問だけで、なかなか支援の目が向きません。 しかし、*初めての育児に戸惑っているママ*出産後自宅に帰っても手伝ってくれる人がいない*授乳がうまくいかない*赤ちゃんのお世話の仕方や生活リズムがわからない*親も高齢、実家が遠方*おさんと育児の疲れから体調が悪いなど、不安を抱えたまま退院後の生活を送っているママは多いのです。 そんな出産直後・・・退院後～約3ヶ月までの母子が安心して子育てサポートが受けられる「産後ケア事業」で病院(産科・助産院など)に、一定期間宿泊又は日帰り通所をしてケアが受けられるような環境を早期に整えてほしいです。厚労省のガイドラインも出ています。 現在私は、そんな不安なママたちに寄り添いたいと「産後ケアサポート」事業を立ち上げています。 安心して妊娠・出産・産後を迎えている女性は少ないのです。ここがしっかりケアされていないと、施策(2)～(15)まですべてにつながらないと思うのです。ひいては高齢化に歯止めをかけ、少子化対策にもなっていくのではと思います。ワンオペ育児でがんばっているママたちを救うのは産後ケアです。 近隣の他市ではしっかり行われている「産後ケア事業」を行ってほしいです。 「産後ケア事業」と検索しても「北九州市」は出てこないのです。やっけないから・・・。それでママたちは一人てがんばるしかないのです。	妊娠・出産・産後間もない時期を安心して過ごせることは、その後の子育てにおいて重要です。 妊娠・出産・育児期を通して、切れ目なく母子を支援することができるよう、産後ケア事業をはじめとした、産前、産後体制を充実していきます。	2	1
351	産後の母親の不安の受け皿を多くしてほしい。生まれてから1ヶ月以内でも何度も「生んだ産院」で不安や悩みを受け入れるようにしないと、～2か月以内の不安がとてつもないと感じる。		2	1
352	若年での妊娠について 性教育は小学校でも行われていますか?男女の体の違いや変化に加えて、若年での妊娠や出産のリスク(中絶・経済・進路など)も、早い時期から継続的に学んでいく必要があると思います。(晩産のリスクも)	現在北九州市では、思春期の子どもたちの健全な健康づくりを支援するために、市内小学校・中学校において「思春期健康教室」を実施しております。	2	1
353	思春期の子どもに対するケアや父親へのサポート		2	1

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
354	<p>中学・高校生への育児・保育体験を通じた教育事業の実施 当社で育児支援について検討・取り組みを進めておりますが、保護者のほとんどの方は、子どもを妊娠してから子育てについて考えるというようなケースが多く、そのために不安や悩みを多く抱える結果につながっていると考えています。 誰しもが親になる可能性があるということ、より早く子育てに関心をもってもらうこと、北九州がより子育てしやすい街になっていくために、『中学・高校生への育児・保育体験を通じた教育事業』を実施することを提言いたします。</p>	<p>思春期の子どもの健全な健康づくりを支援するために、市内小学校・中学校において「思春期健康教室」を実施しております。 また、その教育の中で、胎児体験や赤ちゃん人形の抱っこ体験なども行い、いのちの大切さについても触れています。</p>	2	1
355	<p>○乳がん検査支援の低年齢化 ・北九州市では、乳がん検査の支援（無料化）が、40歳以降となっている。 ・40歳以降は、妊娠・出産のリスクが高まる年齢とされていることから、乳がん検査に臨む女性は、これから出産を考えている方は少なく、どちらかというと、出産を終えた方が対象となる。 ・しかし、子どもを産みたいと願う女性にとって、妊娠前に乳がんの事前検査を受けたいと願う声は少なくないと思われる。 ・第3次計画において、乳がん検査（無料化）の年齢引き下げを検討していただきたい。 (本件は所管が違うかも知れませんが、よろしく申し上げます。)</p>	<p>北九州市では、厚生労働省の示す「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、40歳以上の女性を対象として乳がん検診（受診料1000円）を実施し、「新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業実施要綱」に基づき、40歳の女性を対象として乳がん検診無料クーポンを配布しています。 乳がん検診の対象者年齢の引き下げについては、厚生労働省の動向の把握に努め、慎重に検討していきたいと思います。</p>	3	1
356	<p>「ペリネイタルピジット」はわかる人ばかりではない。皆に分かる表現にしてほしい。「産科から小児科への優しいパトタッチ」と言われた方がうれしい</p>	<p>ご意見のとおり、現在の事業名では「産前から産後間もない妊産婦とその家族が事前に小児科を訪問し相談できる」という事業内容が広がりづらいため、来年度から名称を「こんにちは赤ちゃん！小児科訪問（ペリネイタルピジット）事業」に変更する予定です。</p>	3	2
357	<p>4つの視点で、たくさんの取組みを検討されていて、どれも素晴らしいのですが、敢えて一点だけもっと充実させてほしいと思うのは、特に母親向けの支援ではなく、教育です。 子どもに影響を与えるのはなんといっても両親ですが、残念ながら、その覚悟や知識がない人が増えていると思います。現在も、区役所や産婦人科で母親学級や両親学級が行われているものの、意識の高い希望者が受講するだけの仕組みとなっています。最低限のプログラムについては、全ての親が原則受講するように促すことが必要ではないかと思えます。</p>	<p>仕事等の都合により、すべての方に受講いただくのは難しいことから、母子手帳や別冊の「情報提供ハンドブック」において、妊娠中から育児期の基礎的な知識について掲載し、妊婦やその家族の方に子育てに必要な知識や、情報を提供できるようにしています。 また、学級への参加については、妊婦やその家族の方に積極的に参加していただけるよう、母子健康手帳交付時にお知らせするなど、今後も取り組んでまいります。</p>	2	1
358	<p>子どもが生まれて、母親学級やパパママ研修、沐浴の方法、離乳食研修など市が主催で行うイベントに積極的に参加した。 絵本をいただいたり、急な病気の対応方法を教えてもらったり、オムツが多くなるのでゴミ袋をもらったり、予防接種や歯科健診の案内など手厚いサービスがあり 初めての子育てにはすいぶん有難かった。</p>	<p>今後も母親学級等を通じ、妊娠や子育てに関する知識の普及・啓発を行っていきます。</p>	1	1
359	<p>子どもの「弱視」について。3歳児健診で小児科に診る機械があるところでは発見できる。ないところでは、検査をしないので、できるだけ早めに強制すれば、治る可能性が大きい。すべての小児科に機械を置くようにしてもらいたい。</p>	<p>現在、3歳児健診の視覚検査は、絵指標を使って実施しています。 今後も、国の実施要領に従って実施します。</p>	2	3
360	<p>○離乳食の指導について ・今の離乳食指導は、「いかに手間暇をかけるか」といった内容になっている。 ・しかし、手を掛ければかけるほど、子どもとのスキンシップの時間が短くなるとともに、「手を掛けなければ愛情が少ない」といった強迫観念に駆られることにより、お母さんを精神的に追い込むことになる。 ・そこで、毎日簡単に楽しく手作りができ、真似することでもでき、母子が健康で過ごせるような離乳食指導に改善していくべきと思われる。 ・第3次計画において、子どもと触れ合う時間を増やせるような、お母さんの負担を軽減するような離乳食の指導について、方向性を示すなどの検討を進めていただきたい。</p>	<p>現在、各区役所等で行っている離乳食教室では、離乳食の基本的なすすめ方について、試食等を含めた講話を行っており、離乳食を作る保護者等に対し、寄り添いを重視した分かりやすい説明を心掛けています。 教室では、離乳食を作るのを負担に感じている保護者も多いことを踏まえて、手軽に離乳食をすすめられるように、冷凍や電子レンジの活用、大人の食事からの取り分け、ペーパーフードの利用等についても説明しております。 しかしながら、「手を掛けなければ愛情が少ない」と受け留めてしまう受講者の方もいらっしゃるということを心に置き、今後は今まで以上に保護者の気持ちに寄り添い、不安が解消できるように、より丁寧でわかりやすい説明を心掛けていきたいと思えます。 そのため、配布資料やホームページでの情報提供についても、検討します。</p>	3	1
361	<p>○母乳に関する手引書の作成 ・母乳で育てたいお母さんは多くいると思うが、初乳から卒乳までの流れを説明するといった、母乳に関する手引きがほとんどなく、書籍も少ない。 ・特に、初めて子どもを授かったお母さんは、右も左の分からず、さらに産後の疲弊した状態で 母乳に関する正しい知識や情報を得ることは、大変難しい。 ・また、助産師に相談しても、おばあちゃんの知恵袋的な非科学的な方法を指導してくる方も多く、また人によって言う事が違う場合も多々あり、時には怒られたりすることもあるので、初めてのお母さんは助産師の言動に降り回され、迷ってしまうし、母乳を止めてしまう。 ・そこで、初乳から卒乳までの流れやトラブル、母乳の変化を分かりやすく説明するといった、母乳に関する手引き書的なパンフレット等の作成について、第3次計画で検討していただきたい。</p>	<p>ご意見のとおり、初乳から卒乳までの流れを詳しく説明した手引書は、現在のところ、本市では作成していません。 母乳育児に関する相談は、各区役所「健康相談コーナー」で常時受け付けているほか、初産婦の方が小児科医に相談できる「こんにちは赤ちゃん！小児科訪問（ペリネイタルピジット）事業」などにより受けているところです。 母乳育児のあり方は親子ごとに多様であるため、厚生労働省が平成31年3月に改定した「授乳・離乳食の支援ガイド」に従って、お母さまやお子さまのその時々状態などから、不安が少しでも解消できるよう、育児相談事業に取り組んでいます。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
362	・素案にある生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業は、大変よかった。 2児の母ですが、子育ての悩みについて周囲を気にせず聞け、また、子供もみてもらえることは、すごくよかった。	今後全戸訪問を継続し、お母さん方の心のケアや子育て支援に関する情報提供を行っていきます。	2	1
363	○多胎児に関する育児支援の充実 ・愛知県豊田市の三つ子事件では、母親は当時、相当に過酷な環境にあり、極限状態であったと思う。 ・育てたくても育てられない。肉体的・精神的にどうにもならなかった心労の解消と、小さな命を救う術は、本当に何もなかったものかと、大変悔やまれる事件である。 ・多くの子どもを出産することは、地域の将来にとってとても有益なこと。そのため、多胎児の場合は、通常の養育と比べ、手厚い支援策があって良いと思われる。 ・第3次計画において、多胎児に関する充実した支援体制の構築をお願いしたい。	多胎児育児は、身体的・精神的な負担、社会的な孤立など多胎児ならではの困難さに直面する保護者も少なくないと考えてます。 多胎児に関する育児支援の充実については、妊娠・出産等に関する相談支援事業のなかで考えてまいります。	2	1
364	目標2について、とても良い目標だとは思いますが、具体的にどの施策が「子どもの主体性が育つ」ことになるのかが見えてこない。	目標2の各施策の名称は、「乳児・幼児期の教育や保育の充実」「放課後児童の健全育成」などとなっており、「子どもの主体性」というキーワードを盛り込むことは行っていないですが、素案53ページ以降の各施策を具体的に説明している部分では、「現状・課題及び方向性」などの中で、「子どもの主体性」に触れています。 《主な例》 ・施策4：「主体的な遊びや生活ができるよう…」 ・施策5：「子どもがその場を自分の場所にしていくという主体的な営みが形成されるよう…」 ・施策6：「自分が必要とされているという感覚は、子どもの主体性を生み、…」、「子どもが活動の中心（主体）となって、自ら課題や問題に取り組み、…」	3	1
365	安心して産み育てるために、親元で里帰り出産をする女性もいると思う。その際、出産前後に必要な品を購入することにもつながると思う。受け入れ先の病院の確保（保福）や生まれた子どもやその兄弟児の福祉の充実（子家）を図ってほしい。	安心して子どもを産み育てることができ環境を整備することは、北九州市の重要な課題の一つであると考えます。今回のご意見も参考にしながら、引き続き、北九州市の周産期医療体制の維持・確保に努めます。 行政サービスは住民登録が必要となるものもありますが、例えば、24時間365日体制の小児救急医療や子育て支援施設など、里帰りした方にも北九州市の魅力を感じてもらえるよう、さらなる充実を図ります。	2	1
366	出産できる病院・施設を増やしてほしい。産科医・助産婦の働き方を再考してほしい。	全国的に産科医等の不足が課題となっている中で、北九州市においても例外ではなく、市内の周産期医療体制を維持することは喫緊の課題であると考えます。 貴重なご意見を踏まえ、市医師会等と協議を重ねながら、引き続き、当該体制の維持・確保に努めます。	2	1
367	私自身の身近な例として、私の娘が出産の際、早産の可能性が高く、早くからの入院生活となりましたが、万全の体制で出産に臨むことができました。超未熟児として生まれてきた孫は3ヶ月間にわたり、NICUのお世話になりました。その間、娘に不安な思いを抱かせず、サポート体制がすばらしく安心して孫をおまかせすることができました。未熟児に対するあらゆる検査や養育医療も整い、入院中にかかった医療費は大変高額だったにもかかわらず、ミルク代やおむつ代など必要最低限の負担で済みました。一人の本当にちいさな生命を大切にバックアップしていただいた制度に家族一同感謝の思いでいっぱいです。 このように、北九州市に住むすべての子どもに対して、温かい手を差し伸べていただける制度によって、子育て世代が安全で安心して生活を送れること、また、子どもの成長とともに明るい未来が保証されることを心から願います。	入院中のご負担は大きかったです。無事にお孫さんを迎えることが出来たことを嬉しく思います。今後ご家族皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。 北九州市の周産期医療体制については、市内4病院で、リスクの高い分娩や高度な治療が必要な新生児に対する専門的な医療を効果的に提供してきました。 今回いただいたお言葉を励みに、引き続き、当該体制の維持・確保に努めます。 未熟児に対する医療給付は、母子保健法に基づき、必要な給付を今後とも行ってまいります。	1	1
368	・子供たちに予防接種のご案内がきました。未就学児のときは、予防接種の時期や種類をきにしていましたが、小学校入ると、すっかり忘れるくらいのスパンなので、ご案内は助かります。	予防接種の一層の充実を目指すため、麻しん風しんの予防接種については、今後も、対象者の方や、対象者の方で未接種の方に対しては、個別送付等で積極的な勧奨を実施していきます。	1	1
369	保育所が増え、子どもを預けられる場所が増えたことは喜ばしいことだが、各保育所では保育士の確保が課題となる。保育の質を確保するために、保育士に対する研修の充実や職場における指導体制の充実を図ってほしい（特に若い保育士の質が落ちている気がする）。	北九州市では、国基準を上回る保育士の配置、保育士等を対象とした専門的研修所の設置、第三者評価の実施など、北九州市独自の取組みによって、子どもの健康及び安全の確保など、保育の質の向上に努めています。 なお、施設長や保育士等の資質向上のため、引き続き北九州市社会福祉研修所において研修を実施するとともに、研修内容の一層の充実を図ります。	2	1
370	保育所の待機児童ゼロは良いのですが、各保育所の安全性や保育士さんの質を上げるようにしてほしいと思います。		2	1
371	既存の施設で受け入れを進めるために必要なことは保育士の確保である。保育所や幼稚園が保育士を確保でき、さらにその質を高めることが可能となる環境づくりに全力を注ぐべき。		2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
372	潜在保育士等に対する研修事業 採用に当たり年間20名ほどの保育士と面接を行っておりますが、数年以上のブランクがある保育士が多数おられました。 それらの保育士から一様にして聞かれるのが、そのブランクから保育に入れるのか、自分の知識が大丈夫なのかという不安の声です。 また、保育所保育指針が新しくなっていることを知らない方も多くおられました。 保育士の量の確保をするためには、それらの不安を解消してあげる必要があると考え、そのための『潜在保育士等に対する研修事業』の実施を提言いたします。	北九州市では、平成21年度から保育士資格・看護師免許を持ちながら、現在、その職についていない人を対象とした再就職のための研修会を年4回開催しています。引き続き、市政だより等を通して、広く周知を図っていきます。 また、施設長や保育士等の資質向上のため、北九州市社会福祉研修所において研修を実施するとともに、研修内容の一層の充実を図ります。	2	1
373	教員・保育士の確保・増員 教育・保育の「質の向上」や「支援の充実に取り組むのであれば教員・保育士の増員は不可欠だと感じます。でなければ現場の教員・保育士の方々の負担が増えていくばかりです。 北九州市の教員・保育士の方々の現状は分かりませんが、ニュース等では重責に見合わない低賃金やサービスクラス等の過重労働が全国的に問題になっていると聞きます。 なり手を増やし、離職を減らし、教員・保育士数を確保するためには、魅力的な処遇（賃金や福利厚生面）を設置してそれをアピールすることが効果的だと考えます。 数々の子どもや親のための施策に取り組むにはその根底となる現場の教員・保育士の方々のことを第一に考えていただきたいと思います。	保育士の確保は、待機児童の解消の観点からも、保育の質の維持向上の観点からも、不可欠であると考えています。北九州市では、子ども・子育て支援新制度における処遇改善等加算などにより、保育士の処遇改善を実施してきました。 平成29年度からは、全ての保育士を対象として、2%相当の改善を行うとともに、技能・経験を積んだ保育士に月額4万円の上乗せなどを実施してきました。加えて、今年度からは、全ての保育士を対象に、さらに1%相当の改善を実施しています。 また、本年10月からは、保育士の雇用確保を図るための新たな取組みとして、「保育士宿舍借り上げ支援事業」を実施しています。 今後とも保育士の働きやすい環境づくりに努めます。 あわせて、これまで、国基準を上回る保育士の配置、保育士等を対象とした専門の研修所の設置、第三者評価の実施など、北九州市独自の取組みによって、子どもの健康及び安全の確保など、保育の質の向上に努めています。	2	1
374	保育士の不足が社会的問題となっておりますので、保育士の処遇の改善のための仕組み作りが必要であると思います。		2	1
375	保育士の人材確保のため、賃金等を保育士に還元できるように、取り組みをしてください。		2	1
376	短大等の保育科を卒業しても給料が低い為、保育士ではなく一般企業（しかも市外）に就職した、という話をよく耳にします。保育士の処遇改善支援を拡充すれば、保育も充実し、若者の定着にもつながると思います。		2	1
377	保育士不足、ただ給与を上げたいということではなく、保育士としての責任感や資質がない人が増えている。人間の根幹を作る時期である乳幼児期に関わる、自覚を持って教育を受けた保育士を育成してもらいたい。また、その人たちが誇りをもって仕事に就けるように、せめて福岡市くらいの賃金アップ、福利厚生の充実を望む。そうでないと、資質の高い保育士はみな給与の高い大都市に出ていき（すでに転出しているが）、ひいては北九州の子どものレベル低下につながる事となる。		2	1
378	子どもを管理するのではなく、育てるためには、素案にある通り保育士や教員の増員が必須ですが、人材確保には、さらなる処遇改善が必要であり、まだ不十分だと思います。		2	1
379	「施策（3）①教育・保育の質の向上と量の確保」に関連することについて ・自分の子育てで経験をふり返ると、保育士の方に大変助けられての子育てだったと感じています。 その際、体がパワーのある若い先生、知識・経験が豊かなベテランの先生等、様々な年齢層の先生方がいることが、とても心強かったと感じてました。 そのため、保育士や幼稚園教諭の方が長く勤めることが出来るような環境づくりに、引き続き、ご尽力頂きたいと思います。		2	1
380	・出産後、職場復帰を希望する女性を支援するためにも、保育士の確保が課題であるため、保育士の方が働きやすい環境整備が大事だと思います。		2	1
381	待機児童問題の解決が急がれる中で、保育の現場では近年保育士不足が続いています。職員確保に向けて、就職フェア・就職セミナー、ハローワークでの就職支援活動等いろいろ努力をしていますが、思うような成果が上がりず、保育士という専門職に対する一般社会からの評価の低さを感じます。それは、同時に保育士の処遇の低さを現していると思います。現在、一部の職員は処遇改善等により給与面での優遇がありますが、経験の浅い若い職員や今から保育士をめざそうという学生などにどれほどの魅力・メリットがあるのか疑問です。少子高齢化の進む社会の中で、次世代の乳幼児の健全な育ちを担う保育士や保育所職員全体の処遇改善を望みます。		2	1
382	保育士が働き続けられる待遇の改善も必要		2	1
383	ここでは分野は違いますが、幼児教育無償化や保育所を増やす前に保育士の給与体制と処遇改善をしないと、保育士の人材が全く集まらず、良い保育を子どもたちが受けられない事をもっと行政が真剣に考えて欲しいと思っています。		2	1

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
384	<p>1. 保育士「配置基準」の見直しが必要では？ 「質の良い幼児教育」をどのように捉えているのでしょうか？全ての子どもに「質の良い幼児教育」を行き渡らせるイコール子どもにとっても国にとっても有益なことであるということでしょうか？しかし、実際には保育園に無償で子どもを預けることができる、というニュアンスで捉えているのではないのでしょうか？経済界にとってはメリットとなる「子どもを長く預けられる制度」となっていないでしょうか？「質の良い幼児教育」は子どもの権利、子どもの最善の利益のほずです。「質の良い幼児教育」の実現はまず「配置基準」の見直しが必要と考えます。</p> <p>イギリスに比べ日本の配置基準がいかに実情とかけはなれているかということですが、これでは質の良い幼児教育は難しいと思います。配置基準通りの保育士数では対応できない現状があり、結果多くの保育園では保育士の人数を増やすことになっており、給料はどうしても安くならないのでしょうか。</p> <p>「配置基準」を見直し、もう少し個々に寄り添える保育があれば、保育園に子どもを安心して預けられ、そこで質の良い幼児教育を受けることができれば、子どもの権利や最善の利益は守られ、親は安心して外で働くことができるのではないのでしょうか。</p> <p>子どもの言葉に耳を傾け、1人一人の子どもに寄り添い、理解し、丁寧な言葉でゆっくりと受け止めることができる保育士が多くいる園での時間は子どもにとっても大きな財産となるはずだと思います。</p> <p>これからの将来を担っていく子どもたちにより良い環境を作るために、身近なところから視点を広げて国や自治体でどのように取り組むべきかを考えていただきたいと思います。</p>	<p>北九州市では、1歳児の「5：1加配」や、障害児や食物アレルギーを有する児童がいる保育所に対しての加配、代替職員の雇用費補助や産休代替職員の雇用費補助など、国の基準を上回る加配制度を実施しています。</p> <p>今後も、保育士確保及び保育の質の向上に努めるとともに、子どもの健康及び安全を確保するために必要な対策を図っていきます。</p>	2	1
385	<p>「保育所における研修内容の充実、幼児教育の振興」、「幼稚園・認定子ども園における研修内容の充実」について、研修もまた先生方の時間を奪うことになり、人手不足で働き方改革の蚊帳の外になっていないか？質の向上といわれ、その対価は正当か？</p>	<p>北九州市では、保育士等の資質や能力の向上を図り、子どもたちにより良い保育を実施するため、保育士会などと連携し、全国に先駆け、保育士等を対象とした専門の研修所を設置し、多分野にわたる研修を体系的に実施しています。</p> <p>この研修の受講にあたっては、研修代替職員を雇用する際の費用を補助するなど、研修を受けやすい環境づくりに取り組んでいます。</p>	2	1
386	<p>すべての子どもと家庭を支えるとともに、働く親たちが子育てを楽しめる余裕のある時間を保障される会社が多く出来るようになってもらいたい。そのためにも、子育て中の職員がいる保育所には補助金をつけるなどしてもらい替わりの職員を雇用できるようなシステムができればと思う。</p>	<p>北九州市では、保育所の職員が出産する場合に、その職員の職務を行わせるための産休代替職員の雇用費補助を行っています。引き続き、保育士の働きやすい環境づくりに努めていきます。</p>	2	1
387	<p>人は誰でも時間の余裕がないと優しく接する余裕もなくなると思います。保育所の先生方は、いつも本当にお忙しそうで、そんな中、真摯に対応して下さるので、身体を壊される方も多そうです。</p> <p>先生が大好きな子ども達が先生方ともしっかりと接する時間を作れるように先生方の事務仕事を減らし、先生方の働き方改革をお願いしたいです。</p>	<p>北九州市では、国基準を上回る保育士の配置を行う一方、ICT化の推進により、保育以外の業務負担を軽減することで、保育士の勤務環境の改善を図っています。</p> <p>また、保育日誌などの様式を見直すことで保育士の事務作業の軽減に努めています。</p> <p>その他、洗濯、清掃等の業務を行う高齢者等を雇用した場合に給付費が加算される入所児童処遇特別加算の活用を図ることで、保育士の保育業務以外の負担軽減にも努めています。</p>	2	1
388	<p>保育所にITが導入しやすいように、制限なしで補助してほしい。</p>	<p>北九州市では、ICT化の推進により、保育以外の業務負担を軽減することで、保育士の勤務環境の改善を図っています。</p> <p>平成28年度以降、国の補助メニューを活用し、128園に対して保育に関する計画・記録や登降園管理などの業務支援システムの導入経費の一部補助を実施しています。</p>	2	1
389	<p>保育士宿舍借り上げ支援事業 ぜひ進めてください。</p>	<p>本年10月から、保育士の雇用確保を図るための新たな取り組みとして、「保育士宿舍借り上げ支援事業」を実施しています。</p>	2	1
390	<p>この度の無償化は認可外保育施設に通う子にも適用されたということで、認可外保育施設の保育の質の向上が言われており、国はそのための補助金も用意してくれています。どの子どもも一定のレベルを約束された環境で教育保育が受けられるように行政がテコ入れて北九州市内全域の幼児教育保育施設の質の底上げを狙っていくべきところでしょう。</p> <p>(きっとそんな施策実行の積み重ねにより市民は「子育て日本一」を実感するようになるのではと思います)</p>	<p>国通知により認可外保育施設には指導監督基準が設けられています。北九州市では、保育所長経験者を保育課に配置し、基準を満たすようにきめ細やかな指導助言を行っています。また、児童福祉法に基づいた年1回の立入調査を年2回に増やし指導を強化しているところです。</p> <p>認可外保育施設従事者を対象とした研修会も開催し、保育の質の向上を図っています。</p> <p>引き続き、保育の質の向上を図るために取り組みを進めていきます。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
391	私は認定子ども園に勤めている関係で、乳幼児教育保育の充実推進に拍車がかかることを期待する。 こ存じのとおり、この10月から認可園も認可外園も合わせてすべての子の幼児教育保育の無償化が始まった。巷では国は子育て世代への経済的な子育て支援と同時に、将来的には幼児教育と保育を一本化（＝認定子ども園化）し、3歳以上の義務教育化を考えているのではと言われている。 施策（3）①で認定子ども園への移行支援、ならびに「子ども・子育て支援事業計画の中で普及を掲げ具体的に40園と数値を示されているが、市内の全幼児教育保育施設数に占める割合からすると「普通」とはいえない少数なのでは？と思われる。幼稚園、保育所それぞれの職能団体の思惑等も絡んできていることと思うが、もっと行政側が（北九州市民の）子どもたちのために強力なイニシアチブを取って認定子ども園の普及に乗り出してほしいと思う。いつまでも、縦割り行政という目先の大人の事情・建前を優先することをせずに、（市の）未来を作る子どもたちのために行政側に英断を望む。	認定子ども園の新設については、需要と供給の状況に応じて認可・認定を行うことになっています。 現在、教育認定（幼稚園機能）の受け皿は十分に充足しており、保育認定（保育所機能）の受け皿についても、年度当初の待機児童は発生していない状況です。 こういった状況や各幼稚園・保育所等の意向などを踏まえ、子ども・子育て支援事業計画で定める数を40園程度としました。 今後も移行を希望する幼稚園や保育所に対しきめ細かく移行支援を行い、認定子ども園の普及に努めます。	2	1
392	保育所の副食費の取り扱いについても、市の直営保育所と民間の認可保育所では徴収方法について違いがあり不公平さを感じます。副食費については、消費税増税に伴い食材費の便乗値上げも多く初めから赤字必須の金額ではなく、北九州市の保育所で調査した1か月に掛かる副食費の平均的金額に近い額を示してほしいと思います。また、食育が重要視される現代社会において、現行の北九州市認可保育所の統一献立は、乳幼児期の子どもにとってこれからの長い人生の出発地点ともいえる大切な時期の食生活を支えるものです。ぜひ、これからも北九州市の保育所給食の制度として大切にしてほしいと思います。	今回の幼児教育・保育の無償化で、保育料の負担はなくなりますが、主食及び副食費については、引き続き、保護者に負担していただくとともに、その徴収については、保育所が行うというのが、国の基本的な考え方になりますので、各保育所において、給食費の徴収をお願いすることとしています。 副食費の徴収額については、それぞれの施設において、実際に給食の提供に要した材料の費用を勘案して定めることとなりますので、献立等の提供内容を勘案せずに市において単純に一律の金額を決めることはできないとされています。 また、保育所給食を通じた食育については、大変重要だと考えています。北九州市認可保育所の統一献立は、市保育課栄養士、保育所調理員、施設長等を含めた給食献立検討委員会で検討しており、市内のどの保育所でも、季節の食材や行事食を取り入れた、乳幼児に適した栄養価の給食を食べることができます。 今後も、統一献立の内容を随時見直ししながら、より良いものにしていきたいと考えています。	4	4
393	保育所の給食費の徴収については、民間はそれぞれ各園での徴収になるので公立民間合わせたやりかたで、納付書を発行していただきたい。	今回の幼児教育・保育の無償化で、保育料の負担はなくなりますが、主食及び副食費については、引き続き、保護者に負担していただくとともに、その徴収については、保育所が行うというのが、国の基本的な考え方になりますので、各保育所において、給食費の徴収をお願いすることとしています。	4	4
394	保育所の入所児童のポイント制について、ある程度の不平等さの改善にはなっていると思いますが、デメリットの大きさを感じます。それは、ポイント制によりきょうだいで同じ保育園に入れられないという現実です。対象の家庭は登降園のため毎日朝夕渋滞の中を2カ所の保育園にそれぞれ子どもを送り迎えしているという状況です。それが母子家庭の場合は、行事が重なる場合はどちらかの子どもは保護者が不参加となり、重ならない場合も保護者は仕事の休みが倍増するという事態が生まれます。また、ある保護者は育児休業復帰のときにきょうだいで同時に入所できず、入所できなかった下の子を数か月間県外の祖母に預けるという状況も、決してレアなケースではない現状です。保護者から二人目以降の出産を躊躇する声が上がっています。ポイント制を進めつつきょうだい児については申し込みが同時期の場合は、同じ保育園に優先的に入所できるポイント加算など、改善を望みます。	北九州市では、平成27年4月の「子ども・子育て新制度」開始に合わせて、保護者等の実態をより細かく利用調整に反映できるようにポイント制を導入しました。 きょうだい児については、既にきょうだい児が在籍している保育所等を希望する場合のほか、新たに同一の保育所等を希望する場合など、対象ケースを拡大して加点の対象といたしました。さらに、保育所や保護者からのご意見やご要望を受けて加点を見直し、平成28年4月入所分として、約2倍の加点といたしました。 今後も、その他の加点とのバランスも考慮しながら、引き続き、きょうだい児の加点について検討します。	4	1
395	保育園入所時ポイントが有力となっているが、兄弟児が別々になることがあるので、以前のように保育園の意向も考慮していただけるとありがたい		4	1
396	第三希望等で保育所の入園許可を出しても拒否されることもたびたびある。反対にどうしても入りたいという第一希望者でも、上に人（第二希望第三希望）がいいたら入れない。第一希望の方に第一希望ポイントをあげられないものだろうか。	北九州市では保護者等の実態をより細かく利用調整に反映できるようにポイント制を導入しています。また、同一点数で並んだ場合の優先基準として、「利用希望順位が高い方を優先する」としています。 今後も、ポイント制全体のバランスも考慮しながら、引き続き、利用希望順位の取扱いについて検討します。	4	1
397	・幼児期教育は、とても重要なものです。社会への女性の進出による共働き世帯の増加や、核家族化が進んだ現代において、待機児童の問題は、深刻な課題の一つです。現在、北九州市では待機児童数が年度当初0人を維持しているようですが、関連する施設の効果によるものかとも思います。今後、地区によっては待機児童が出現してくるかもしれないので、3次計画の方向性にあるとおり、より効果的な施設の実施を期待しています。	子どもプラン第3次計画案では、過去の保育所等利用状況をもとに、令和6年度までの教育・保育の量の見込みを算定し、必要な提供体制の確保を図ることとしています。 第3次計画では、認定子ども園への移行支援や保育所の老朽改築に合わせて入所定員の拡大を図るとともに、保育士が働きやすい環境を整備することによって保育士確保に取り組み、待機児童の解消を図ります。	2	1
398	<北九州市子ども・子育て支援事業計画（保育関連）> これまでの少子化傾向を見ると、残念ながら、今後の少子化の傾向は変わらない。 市内の保育園や幼稚園など、施設の受け入れ能力については、定員割れしている施設もあることから、余裕があると言える。そのため、多額の費用をかけて、新たに施設を作ることは望ましくない。 （中略→328） なお、大半の保育所や幼稚園は、市では不足民間団体が運営しており赤字では運営できない。各民間団体の努力を促すことは必要であるが、行政としても、持続可能な運営の視点を養うべき。	子どもプラン第3次計画案では、過去の保育所等利用状況をもとに、令和6年度までの教育・保育の量の見込みを算定し、必要な提供体制の確保を図ることとしています。 第3次計画では、認定子ども園への移行支援や保育所の老朽改築に合わせて入所定員の拡大を図るとともに、保育士が働きやすい環境を整備することによって保育士確保に取り組み、待機児童の解消を図ります。 また、私立保育所の運営については、国が定めた給付費に加え、保育所に対する市単独の補助を行っているところであります。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
399	新しい方針が出るたびに、保育士の給与や福祉のためという名目で、保育士や職員の仕事量は増加する。減らすためには園に負担が強いられる。 “待機児童”という割に希望してくる子どもは少なく、箱モノばかり多く、定員割れている。なのに定員は減らしてくれない。ますます園の負担は増え、経営が成り立たない状態に陥りそうである。	私立保育所の運営については、国が定めた給付費に加え、保育所に対する市単独の補助を行っているところです。	2	1
400	小規模保育事業所の機能拡充 当社では育児支援のための様々な取り組みを行っておりますが、保護者の皆様から以下のような声を多数うかがっております。 ・もっと柔軟に一時保育を利用したい（保育園に通園していない保護者） ・閉園時間に間に合わないときがあり、延長してほしい（当社運営の園に通園している保護者） 現状、北九州市の小規模保育事業所では上記対応が許可されていないと認識しております 職員に余力のある小規模保育園に限っても、上記のニーズに対応できるよう、『小規模保育事業所の機能拡充』を提言いたします。	一時保育は、保護者等のパート就労などにより家庭における保育が困難となる児童を保育するものであり、平成2年から始まりました。現在、認可保育所82箇所で開催しており、小規模保育事業での実施は考えていません。 なお、小規模保育事業での延長保育の実施については、利用者の動向を踏まえ、小規模保育事業者の意見を聞いて検討したいと考えています。	2	1
401	病児保育事業についてですが、一般的にはまだ認知度が低く、利用の仕方がわかりにくいのではないのでしょうか。病気の子供を預けるということに抵抗がある、家族や他人にどう思われるかなど、預けてもいいのだという安心感がないことも影響しているとは思いますが、その不安が取り除かれるような周知が必要だと思います。	病児保育事業については、区役所・保育所等でのパンフレット配布、市政テレビやフリーペーパーを活用した広報、モノレール各駅へのポスター掲示等により、事業のPRを行っています。 今後より利用しやすい事業となるよう、周知・啓発に努めます。	2	1
402	病児保育対応の拡充を図ってもらいたい。共働きで、満員で利用できないときに利用できないのはとても辛い。	保護者の仕事などの都合により、家庭での保育が困難な病児保育中の子ども及び病児回復期にある子どもを一時的に預かる事業として、現在、市内12カ所で病児保育事業を実施しています。 また、「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」では、14カ所まで増加させることとしています。	2	1
403	幼児が病気の時、働いている家庭で看護できる人がいないときの病児保育できる場所を確保してほしいと思います。		2	1
404	病児保育の拡充、使い易くして頂けると、子育て世代には助かります。		2	1
405	夜間保育事業所の開設 八幡西区黒崎地区では、飲食店に勤務する保護者が多数おられますが、それらの方のニーズを伺うと、（所得の関係で）夜間に働かざるをえず、子どもを預ける必要があるとのことでした。 これまでは認可外保育園を利用されている方も多かったようですが、その認可外保育園が閉園したとことで、子どもの預け先に苦慮されているようです。 子どもが夜間に家に一人で放置される危険性もあり、『夜間保育事業所の開設』を提言いたします。	北九州市では、夜間の保育需要に対応するため、午前7時からおおむね午前0時まで利用できる「夜間保育」を小倉北区で1箇所実施しています。 引き続き、利用者の動向を踏まえながら実施していきます。	2	1
406	北九州市は、障がいのある子どもへの教育や支援もあり、障がいのない子どもも、共に育ち、私の子供たちも障がいのある方への差別や偏見なく、優しく素直に育ち、本当に感謝しています。 そんな心の優しい子ども達から、大人の我々が学ぶところがたくさんです。 （障害のある）子ども達は、素直で優しく育っていますが、我々と同じ大人の学校の先生方は、子どもへの対応が少し大人すぎる時があると思います。 幼稚園、保育所と小学校の連携の充実とありますが、もう少し幼稚園、保育所の先生方や臨床心理士さんなどから実際の現場で、学校の先生方が子ども達への接し方のアドバイスを頂く子供たちへの対応がよりよくなるのではないかと思います。	北九州市では平成17年度より、保幼小連携の意義についての認識を深め、連携の推進を図ることを目的として、「保幼小連携研修会」を実施してきました。 令和元年度からは、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を視野に、市全体で行っていた研修会を各小学校区で行うこととしています。 また、連携交流事業として、公開保育・授業、保育士・幼稚園教諭体験、幼児と児童の交流、幼児教育従事者と小学校教師による意見交換会等を実施します。 このほか、連絡会として、訪問・面接や新入生の情報交換、翌年度の計画等を行うようにしています。	2	1
407	幼稚園、保育所等と小学校の連携充実はとても必要だと思う。何かあってからではなく、日頃から連絡ができればいいと思う。	北九州市では、各幼稚園・保育所等と小学校に保幼小連携担当者を置き、日頃から、園児・児童の交流活動や職員間の連携を行っています。 今後も各施設の関係者や専門家のご意見をいただきながら、連携の充実と努めます。	2	1
408	（放課後児童クラブの）それぞれの設置主体かわりにくく、温度差もある。内容や金額を同様にはできないのだろうか。	放課後児童クラブの運営にあたっては、運営団体に保護者負担金の標準額を示すほか、国の全国的な標準仕様となる「放課後児童クラブ運営指針」等に従って運営を行うなどにより、可能な限り標準化を図ります。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
409	<p>・学童クラブは、延長時間を19時までにして欲しい。 18時半は、正規社員の共働き夫婦が迎えに行くには厳しい。 児童本人が帰宅していいなら問題ないが、利用していたところは、必ず親が迎えのうえ、時間厳守だったため18時30までの延長利用を諦め、祖父母に迎えをお願いした。 時間延長については、保育園や幼稚園についても同じだと思う。(時間延長希望) また、仕事の多様化に伴い年末年始やGWの受け入れについても、今後は検討していかなければ、共働き夫婦が安心して子育てするのは難しいかと思う。</p>	<p>【放課後児童クラブ】 北九州市の放課後児童クラブは、校区の社会福祉協議会など地域が運営委員会を構成し、相互扶助的な制度として実施しています。各運営団体の声等も聞きながら、19時まで開設するクラブが増えるように努めます。 【保育所】 働き方の変化に伴い、保護者の様々な就労形態や、残業等に伴う保育時間の延長を希望する保護者がおられるなど、保育ニーズが多様化しています。 家庭における子育てと仕事の調和に十分配慮しながら、保護者の多様なニーズに対応した延長保育や休日保育を実施していく必要があると考えています。 【幼稚園】 私立幼稚園では、概ね4時間とされている教育時間に加え、各園の判断で、保護者の就労等に配慮し預かり保育を実施しています。 元々、長時間の保育や休日保育を実施するための施設ではないため、預かり時間の長時間化には、職員の配置や園児の心身の負担も含め課題があります。 今後は、保育を必要とする幼児の受け入れ先である認定こども園への移行も含めて、各園で検討していただく必要があります。</p>	2	1
410	<p>全児童化について 小学6年生まで手厚く受け皿を作り、中学になったら放り出すような印象がある。全てに大風呂敷を敷かず、本当に必要な人とそうでない人の区別化は必要ではないかと思う。お金は掛けるべきところに掛けてほしい。</p>	<p>北九州市の放課後児童クラブは、希望する全ての児童を受け入れる「全児童化」を基本方針として実施しておりますが、今後については児童を取り巻く環境の変化などを踏まえ、検討していきたいと考えております。</p>	2	1
411	<p>放課後児童クラブは、学校の敷地に設けて頂ければ、助かります。(小倉中央小は、学童クラブがないため、小学校低学年の時は、心配でした。)</p>	<p>児童館がある小学校区では、当該児童館で放課後児童クラブを実施しています。 児童館のある小学校区において、放課後児童クラブを小学校に設置することに関しては、今後も引き続き検討します。</p>	2	1
412	<p>児童館しかない校区にも放課後児童クラブを設置してほしい。地域格差が大きいと思う。</p>		2	1
413	<p>学童保育は各学校の近くに設置してほしい。</p>	<p>放課後児童クラブの施設整備にあたっては、可能な限り学校内、学校周辺に設置できるように取り組みます。</p>	2	1
414	<p>放課後児童クラブの環境整備を今後も継続して行って欲しい。 子供たちにとって魅力的な行きたくくなるような場所を目指してもらいたい。 放課後児童クラブの改装が最近行われたので子供の環境がよくなりありがたいです。</p>	<p>年々利用児童数が増加している状況を踏まえ、引き続き必要な環境整備に取り組みます。</p>	2	1
415	<p>屋外の遊び場が狭い放課後児童クラブのために小学校、地域と連携して屋外の遊び場の確保をお願いしたい。</p>	<p>放課後児童クラブと学校等の連携を図り、可能な範囲で環境改善に取り組みます。</p>	2	1
416	<p>放課後児童クラブは保育室のスペースが狭い。改善をお願いしたい。</p>	<p>放課後児童クラブの登録児童数増加により、生活スペースが手狭になっている放課後児童クラブが生じております。 今後も、小学校の余裕教室の活用やクラブ棟の増設等により、生活スペースの確保に取り組みます。</p>	2	1
417	<p>放課後児童クラブの昼食サービスを検討してほしい(弁当の宅配など)。</p>	<p>北九州市の放課後児童クラブは、校区の社会福祉協議会など地域が運営委員会を構成し、運営しているため、クラブ等の意見も踏まえ研究します。</p>	2	1
418	<p>子どもが小学校に入ってから、放課後や長期休暇お過ごし方について悩まされます(共働きのため)。校区にとらわれず、楽しく過ごせる場所が増えてくれるとよいと思います。</p>	<p>北九州市では、「2中学校区に1館」を目標に児童館を整備しており、校区にとらわれずにご利用いただけます。 児童館を新設する計画は今のところありませんが、他の公共施設に児童館の機能を付加する等により、子どもの居場所づくりに努めていきたいと考えております。</p>	2	1
419	<p>学童保育に関して言うと、正職員として働いている人しか預けられないのが現状だと思うので、普段は学校から帰宅する時間には家にいるから預ける必要はないけど、長期休み中は預ける場所がない、という、パートタイマーで仕事をしている人たちが子供を預けられるような場所があれば良いと思う。</p>	<p>北九州市の放課後児童クラブは、希望する全ての児童を受け入れているほか、長期休暇のみの受入についても一部クラブで実施しています。 今後も長期休暇中の児童の受入れを推進します。</p>	2	1
420	<p>・学童クラブの体制を安定して欲しい。 利用したところは、先生の入れ替わりが激しく、子供たちへの目も十分に行き届いていない印象でした。 うちの子は、先生から言われたことが発端でいきたくないと言い出し、家族で話し合った結果、途中で退所しました。</p>	<p>体系的な研修の充実や個別課題への対応を支援する巡回相談などを行うことで、放課後児童支援員等の質の向上を図り、安心して児童が利用できるように努めます。</p>	2	1
421	<p>・放課後児童クラブは各地域のまちづくり協議会等を主とした運営団体が運営しているケースが多いと思うが、素案P9「②放課後児童クラブの維持向上」の観点からみて現状ではクラブ間の格差(保育体制、保護者対応、行事数、学校との連携)がかなりあるのではないかと感じている。クラブへの運営面を含めた支援、保護者からの苦情対応への支援などより充実する必要があるのではないかと、また、放課後児童クラブアドバイザーを増員するなどしてクラブ間の優劣の解消、学校とクラブの連携の強化を図ることが大事だと考える。</p>	<p>放課後児童クラブの質の確保・向上は重要と考えており、指導方法、苦情対応、学校連携などについては、研修や個別課題への対応を支援する巡回相談などを行うことで、運営団体にきめ細かな支援を行います。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
422	<p>子どもプラン(素案)「放課後児童の健全育成」を読み、これが実現できるように期待したいです。しかし、そのためには、私たち指導員が努力しなくてはならないとも思います。現実として、ままならぬことが多いですが、一つ一つクリアしていくしかないのだと考えます。</p> <p>例えば、障害をもった子どもを支援するには、それなりの知識や対応力が求められますが、そうするためのスキルが身につけていかなかったりします。今は何かしら困ったことを抱えている子どもたちが増えたと感じます。そしてまた、その保護者も困っていたりします。そうした家族などに対し共有と、ひとりも取り残さないための、支援をする側のスキルアップではないかと思えます。</p> <p>私たち(指導員)にそういうスキルアップの手段・場所の提供をお願いしたいです。そして、ぜひとも子どもたちの幸せのために計画の推進をお願いします。</p>		2	1
423	<p>子どもたちが学校帰りに家に帰るように放課後児童クラブに帰りたいと思えるように、その思いが子から親に伝わり安心してクラブに相談できるような信頼関係を築いていければいいと思う。</p> <p>学校から帰ってくる子どもの表情で、何かあったのかも気づくことができ、クラブでトラブルがあれば、その日のうちに解決して明日また元気に安心してこれるように帰っていくようにしていきたいと思っている。</p> <p>トラブルがあったときや特別なコースを持つ子への対応でクールダウンをする場所が欲しいと思っていたが、人数も多く確保が難しかった。拡充していただければ、子どもたちがよりよく生活できると思う。</p> <p>子どもが帰ってくるまでの時間と仕事の終わりに、それぞれ気になった子どもの話をし、支援員が常に子どもたちの共通理解ができるようにしている。報告・連絡・相談もその都度おこなわれていて、最も大事なことだと思う。</p> <p>行事は特に夏が多く、担当支援員が活動計画案を配布することによって何をやるか明確で、担当以外の支援員も一緒にすぐ打ち合わせができるので、動きやすい。</p> <p>その後の反省も、次回に役立っている。</p> <p>外部への研修会出席はもちろんだが、クラブ内でも日々質の向上を図っていると思う。</p>	北九州市の放課後児童クラブは、校区の社会福祉協議会など地域が運営委員会を構成し、創意工夫を凝らして、地域の特色を活かした運営を行っていただいておりますが、引き続きクラブの魅力向上のために、ご協力いただきますようお願いいたします。	2	1
424	放課後児童クラブについても質の向上を図るための研修を受けやすく、また休みを取得しやすくするために支援員等を2名以上ではなく支援員を2名以上が望ましいと思います。人材確保のためには、さらなる処遇改善が必要だと思います。	支援員の配置基準については、国において基準が示されており、今後も国基準に沿って実施したいと考えております。処遇改善については、運営団体に「標準モデル額」を示すとともに、平成29年度から、経験年数に応じた賞金加算を行っており、今後も国の基準等を踏まえながら適切な処遇改善を行います。	2	1
425	放課後児童クラブの支援員の質の向上について、指導員の処遇の改善も求めます。	北九州市では国の基準を踏まえ、平成29年度から、指定する研修の受講により、経験年数に応じた賞金の加算を行っています。今後も国の動向等を踏まえ、適切な処遇改善に努めます。	2	1
426	児童クラブに関しては、支援員の高齢化が心配である。確かに、子育てを経験した世代は、保護者の気持ちも理解でき、大切だと思うが、これからの放課後児童クラブのためには、体力があり、専門的な知識を持っている若い世代の支援員も必要だと思う。(雇用形態を整えて、若い人材が働けるようになると思う)		2	1
427	<p>児童クラブの子どもたちと日々関わって感じることは、いろんな家庭環境の中で生きている、生活している子どもが増えてきています。また、保護者の離婚で生活も困窮している子もいるのは事実です。また、共稼ぎの形態は昔とは少し違ってきたこともあり、近頃は大人の都合が優先された生活が主になっていることも感じます。現場にはいろいろな問題事項が山積みです！</p> <p>「自分の生んだ子どもは自分でしっかりと責任をもって育てる！」という気持ちを親が持てるように、私たち支援員はサポートをしていかなければいけないと痛感しています。その支援をするには、支援する側の資質の向上が大切です。子どもの気持ち、保護者の気持ちに寄り添うことが最も大切ですが親育ちもするうえで、時には厳しく親に接することを心がけています。</p> <p>「クラブの魅力向上・資質の向上」は、支援員一人ひとりが「人間としてどうあるべきか」を常に考え、子どもと接していくことが最も重要と考えます。</p> <p>資質の向上を目指す中、支援員の人材確保にも保育士同様のを入れていただきたいと思います。この計画の全てが実現され、北九州市の未来を担う子どもたちが幸せに暮らせることを願っています。</p>	放課後児童クラブは、いろんな家庭の子どもたちが貴重な時間を過ごす大事な居場所であり、直接子どもと接する支援員のみさんの力が不可欠です。引き続き支援員に必要な知識等を習得するための研修を実施するなど、資質向上に取り組みるとともに、処遇改善など、その人材確保についても、国の動向等を踏まえつつ、努力していきます。	2	1
428	現在、バラバラに行われていることを、地域で人・時間・空間・お金を1つにして総力戦で行う。(空き家と子どもの居場所づくりでマッチング等)	「北九州市行財政改革大綱」では、「組織横断的な視点での事業の再構築など、事業の抜本的な見直し」を掲げ、縦割りで実施している事業について、組織横断的な視点から事業を再構築したり、事業実施体制そのものを見直ししたり、より効率的かつ効果的な事業実施に取り組んでいくこととしています。	2	2
429	<p>社会課題は1つ1つバラバラではなく、必ずすべてつながっている様に思えます。</p> <p>例えば、今多くの自治体が頭を悩ませている空き家問題ですが、マッチングさせるコーディネートできる人間さえいれば、貧困家庭やひとり親家庭、または居場所のない若者のシェアハウスとなったり、認知症カフェになったり、ICTで不登校の子どものファーストステップ「小さな学校」又は、障害のある子も一緒に個別の学びができる「みんなの学校」になるかもしれません。</p> <p>シャッター商店街の空き店舗も然りです。(コーディネーターは異動せず、その道のプロになってほしい)</p> <p>行政は各部署が取り組んでいる『大切なこと』が横の連携・情報共有がないために、労力が無駄に分散していかないか検証してほしいのです。</p> <p>「元気発進！子どもプラン」。未来そのものである大切な子どものことから、人・時間・空間・お金を1つにして、総力戦で課題解決できればいいと思います。</p>	子どもプラン第3次計画においても、素案4ページで「5計画の推進(3)行財政改革の視点」を盛り込んでいますが、下記のとおり文章を追加します。「子ども目線に立った組織横断的な視点での事業の再構築など、より効率的かつ効果的な事業実施に取り組んでいきます。」	2	2

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
430	子どもが、失敗しながらも、自ら考え、決断していく力を育めるような環境をつくってほしい。	子どもプラン第3次計画では、「主体性が育つまちをつくる」を目標の一つに掲げています。（なお、成案では、「子どもや若者が健やかに成長し、主体性が育つまちをつくる」から「子どもや若者が主体性を持って健やかに成長するまちをつくる」に変更します。） 幼児教育、学校教育の現場、様々な体験活動等を通じ、子どもが失敗しながらも自ら考え、決断していく力を育むことができる環境づくりを進めています。	2	1
431	学校や家庭をベースとしながら、それ以外の「子どもの居場所」をたくさん作ってほしいと思います。自分も頑張ります。間口は広く、選択肢は多いほどいいと思います。子ども食堂やプレイパーク、高齢者施設、カフェなど、官民を問わず、さまざまな場所が子どもの成長を見守り、育む居場所になると思います。こうした思いを市民みんなで共有し、「すべて我が子」の気持ちで、地域で子どもを育てる機運を高めていきましょう。	子どもプラン第3次計画では、「地域における子どもの居場所づくり」を新たな施策として盛り込み、推進していくこととしています。 全ての子どもの自然と足を向けることのできる、楽しく魅力ある居場所を、地域の中のできるだけたくさん生み出せるよう、地域の人々の力を借りながら取り組んでいきます。 ご協力よろしくお願いします。	2	1
432	グリーンパークに木製遊具 フィールドアスレチック 木工工作室がほしい	現在、グリーンパーク内に遊具エリアを整備中です。木製遊具は耐久性などから設置は困難ですが、体を動かせる遊具等を計画しています。	2	1
433	グリーンパークの裏に、隣接して、ドッグランを設置すると良い（犬を飼っている家族連れも多いので、一緒に利用できると親切では？）	現在市内には八幡西区の洞北緑地内にドッグランを整備しております。管理・運営の関係もあり、グリーンパークに整備する予定はありません。	2	3
434	戸畑には球技のできる公園が少ない。週末、朝の老人のグランドゴルフのみにしか利用されていない仙水公園をもっと子どもや他の世代にも活用できる様にしてほしい。学校に近いのにほとんど子どもを見ない!!	仙水公園は今後再整備を予定しています。その際の参考といたします。	2	1
435	地域の広めの公園への遊具の充実をお願いしたい。地域格差が大きいと思う。	公園の整備につきましては市民の皆様の意見を取り入れながら計画的におこなっています。	2	1
436	気軽に火が扱える、公園が欲しい オーストラリアのように誰でも使えるバーベキューグリルがあると良い	公園の整備につきましては市民の皆様の意見を取り入れながら計画的におこなっています。	2	1
437	公園の遊具が老朽化して改修するのに多額な費用がかかり将来公園から遊具がなくなるのではないかともいわれていますが、北九州市の現状はどうでしょうか？できれば公園で遊具で遊ぶ環境を減らさないようにしてほしいと思います。		2	1
438	・地域における子どもの居場所づくりにおいて、公園づくりを主な取り組み事業に掲げていますが、人が寄りつかない公園が市内に多数点在しています。また、子どもの成長に合わせて、求められる公園の機能というものは変化すると思います。単に公園を整備し、数だけの実績をアピールすることのないようにフォローアップを充実させてください。		2	1
439	駐車場、トイレ併設の公園の整備 町内の公園はすべり台と鉄棒だけあるような小規模なものなので、週末は広くて遊具のたくさんある公園に遊びに行きます。隣町に大きめの公園はあるのですが、大人なら徒歩10分程度の距離でも2歳児を徒歩で連れて行くのは大変なので、いつも駐車場併設の遠くの公園に行っています。駐車場併設の公園が増えたらうれしいです。 また、トイレも近くのコンビニ等を探して借りることになるので、公園内にあると助かります。		2	1
440	公園が少ない	北九州市には、大小合わせて数多くの公園があります。公園の種類も様々です。北九州市のホームページでは、「北九州市公園の本」を掲載していますので、ご覧ください。	2	1
441	砂場、をあちこちにつくる	砂場遊びは子どもの想像力を育むことのできる公園の遊具の一つであることは認識しています。 しかし衛生上の問題もあり、砂場の設置が減っていることは事実です。 公園は地域の方々の協力のもと維持管理を行っており、砂場を衛生面で安全に維持管理できるかどうかという課題があります。 これからも地域の方々の意見もききながら、多くの方に愛着をもってもらえる公園づくりを進めていきたいと考えています。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
442	子どもが遊べる場所・施設が少ない。例えば公園の砂場は猫のフンがあって遊ばせたくなくなる。モスキートーン等の設置をお願いしたい。	砂場を含め、公園内の清掃など維持管理は、市民の皆様と市が協力しあって行っています。 また、北九州市には、大小合わせて数多くの公園があります。公園の種類も様々です。北九州市のホームページでは、「北九州市公園の本」を掲載していますので、ご覧ください。	2	1
443	子どもの体力づくりのため、小さい子が思い切り遊べる公園づくりをしてほしい。砂場等、猫のフンが多くて遊べない。		2	1
444	公園の管理 公園があっても雑草が生い茂っていて遊べない、ということがあります。市での管理が行き届くとうれしいです。	公園内の清掃など維持管理は、市民の皆様と市が協力しあって行っています。	2	1
445	コーステーションから離れている地域の中高生の居場所として児童館の活用を考えてもよいのではないと思うが、今回の計画のなかで児童館はどのような位置づけになっているのか	児童館は、18才未満のすべての子どもを対象とする施設であり、中高生も利用できますが、現在のところ、コーステーションのような中高生の利用に特化した施策は行っていません。 今回の計画において、児童館は子どもの遊び環境として更なる充実を図ることとしており、この中で、児童館における中高生の居場所機能についても検討します。	2	1
446	元気発進！子どもプラン素案には、切れ目のない子育て支援と打ち出しているが、子育て支援施設、学童、放課後子ども教室、子どもまわり学習塾、子ども食堂などのバラバラの支援では、情報の入らない子育て中の市民は、なかなか上手く利用できないのが現状である。 朝から夜遅くまで開いている「地域の活動拠点」である130の全市民センターで乳幼児から青少年まで、だれでも・いつでも足を運んでいい場所ができれば（他都市には多くの事例有）と日々、願っている。 地域の民生委員、子育てサポーター、保護司、子育て支援団体、学校、行政がともに知恵を出し合い協力すれば、不可能なことではないと考える。「北九州市の子どもたちの明るい未来」を真剣に願う大人たちの分厚いネットワークで実現を目指していただきたい。	現在市内に136館ある市民センター、サブセンターは、ふれあいのある心豊かな地域社会づくりを促進するために、地域における住民の交流及び自主的活動の拠点施設として設置されています。 市民センターでは、「まちづくり協議会」などの地域の方や「子育てサポーター」やボランティアの協力により、育児サークルや子ども食堂など、様々な子育て支援の活動が実施されています。 今後も幅広い年代の方にご利用いただくため、市民センターでの活動をPRしていくとともに、地域団体や関係部局との連携により、誰もが気軽に利用できる市民センターとなるように取り組んでいきます。 また、子育て支援の様々な取り組みを分かりやすく整理して情報提供することができるよう、効果的な方法を今後検討していきます。	2	1
447	小学校区に1館の市民センターをもっと活用してほしい。子どもから、子育て中の親、そして高齢者までもっと自由にセンターに気軽に足を運び、交流できる仕組み（月2回くらいは全館開放等）をつくり、クラブ活動中心の活用から、拡大活用を地域で考えてほしい。子ども食堂を含む内容で地域みんなの居場所へと望みたい。		2	1
448	子育て応援を掲げながら、各区の”子どもと母の図書館”を閉館したのはどうということですか？歩いて行ける所に温かい居場所が必要なのでは？	平成28年2月に策定した「北九州市公共施設マネジメント実行計画」の中で、図書館の分館については、「大規模区役所出張所周辺の分館は存続させ、それ以外の分館は地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減する」という考え方を示しています。 北九州市全体の図書館の地域バランスを考えて取り組んでいるものであり、ご理解をいただきたいと思えます。	2	3
449	塩屋のピオトープの横に、ピジターセンターを作って(建部)、グリーンパークから、魚島池、江川、ひびきのキャンパス、本城公園、などをめぐる散策ルートを作って欲しい(調整中)。	「ひびきの北公園」の自然ゾーンは、ひびきの地区に存在する動植物を管理しています。今後も管理活動を行うため、プレイパークやピジターセンター等の設置は考えておりません。 若松区役所では、若松区と八幡西区を楽しくウォーキングしてもらおうと、「若松ガイドマップ」というリーフレットを作って、散策できる道を紹介しています。 ご提案いただいたような散策路については、地元の方しか知らない名所を含め、いろいろ楽しいものを見つけながら開拓するのも楽しいのではないかと考えます。ぜひ、みなさんで、お気に入りの散策路を開拓してみたいかでしょうか。	2	3

No.	意見	市の考え方*	内容*	反映結果*
450	<p>ピオトーブについて、自然が多くあるのはいいが、蛇やスズメバチ、蚊の大量発生等マイナス面も多い。台風のアート等はひどい状態と通れなくなる。定期的に見回り、整備してもらいたい。(環境)</p> <p>※箱ものばかりを作らず、現存するものの中身の充実に眞金や頭を使っていたください。例えば、北九州に人を呼ぶにも、工夫が大事だと思ふ。平成中村座とラグビーのウェールズチームを呼んだのはよかったです。せっかく大金をかけて作ったミクニワールドスタジアムを、もう少し使いやすく市民に開放するとか、イベントに使うとかしてほしい。(市文)</p> <p>コレットについても、北九州の玄関口なのだから、あんなに新幹線から近い建物はないのだから、若者向けのイベントを企画して呼び込むことはできないかと思う。(改装して2・5次元ミュージカルとか。)久留米のシティプラザに、全国からキャリーバックを引いた人がバンバン集まっているのを見ると、歯がゆくなる。(産経)</p> <p>⇒若者がすーっとここにいたい、と思ってくれるような街づくりに力を入れていただきたいです!!)</p>	<p>「響灘ピオトーブ」は、廃棄物処分場跡地に長い年月をかけて形成された日本最大級のピオトーブです。</p> <p>湿地や草地、そこに生息する生き物を活用した自然環境学習の場として、衛生害虫や生態系保全に影響を与える害獣の駆除、安定した園路の確保など、より一層の維持管理に努めます。</p> <p>「ミクニワールドスタジアム北九州」ではギラヴァンツ北九州やラグビートップリーグの試合などを中心にご利用いただいています。</p> <p>その中で、今年7月にはフィールドを無料開放し、親子連れの方など一般利用者に芝生での遊び体験をしていただきました。</p> <p>また、「わっしょい百万大花火」や「阿蘇ロックフェスティバル in 2019北九州」などのイベントも実施しました。今後もスポーツだけでなく様々な形で活用できるよう取り組みます。</p> <p>若者向けのイベントとして、市と民間が連携して「TGC北九州」や「KPF(北九州ポップカルチャーフェスティバル)」を開催しているほか、民間主催の興行としてアイドルイベントや「2・5次元ミュージカル」が市内で開催される例も増えています。</p> <p>コレットの改装については市はお答えする立場にありませんが、こうしたイベントが市内で開催されるよう、今後とも民間と協力して誘致に取り組んでいきます。</p>	2	1
451	<p>塩屋ピオトーブの一部を、常設の乳幼児向けのプレイパークゾーンとして解放して欲しい。ひびきのの未開発の山の土手あたりに、大きな子ども向けのプレイパークを設置し、キャンプやバーベキューができるようにする。塩屋ピオトーブ脇に、ビジターセンターを設置する。</p> <p>http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/site/sightseeing-guide/1590.html</p>	<p>「ひびきの北公園」の自然ゾーンは、ひびきの地区に存在する動植物を管理しています。</p> <p>今後も管理活動を行うため、プレイパークやビジターセンター等の設置は考えておりません。</p>	2	3
452	<p>日本でも類をみないお泊り保育の施設、「もりのいえ」「おひさまのいえ」がもっと利用しやすくなれば良いと思う。双方、公共交通機関ではいけないので、保育園バスをチャーターしないと行けず、かなりの出費になる。子どもにいろいろな経験をさせる良い機会なので、公共交通機関を整えてほしい。</p>	<p>「もりのいえ」「おひさまのいえ」(緑地保育センター)は豊かな自然環境の中で遊びを中心とした保育を行い、子どもたちの心身の健全な発達を図ることを目的とした施設です。</p> <p>そのため、公共交通機関で訪問することが困難な場所に位置していることをご理解ください。</p>	2	3
453	<p>・期限切れ直前で、まだ十分に食べられるのに、廃棄されてしまう食品の上手な活用ルートの開発をお願いします。</p>	<p>現在、福岡県並びにNPO法人フードバンク北九州ライフアゲインによって、食品ロスとの関係で有効活用について様々な取り組みを行っています。その一環で子ども食堂においてもこれらの食品をご提供いただいています。</p> <p>その他のルートについても、児童福祉施設や母子生活視線施設をはじめ、様々な取り組みで有効活用されていると聞いております。</p>	2	4
454	<p>・「子ども食堂＝貧困」というイメージがあるようにも感じます。子どもだけでなく、少し疲れたお母さんや、その他の大人も、利用でき元気になれるような場の雰囲気と、ネーミングの工夫をお願いします。</p>	<p>全国的に同様の課題があり、あえて子ども食堂という名で活動を行わないところもあります。各子ども食堂の名前は、各運営団体が命名しているため行政的に指導することはできませんが、子ども食堂ネットワーク北九州の名称は、今後、検討してまいります。</p>	2	4
455	<p>子ども食堂の実施回数は月1回、月2回にとどまっているのが現状で、おなかを減らしている子どもには満足な支援になっていない。</p> <p>現在、北九州市で数か所のコンビニで子ども食堂を自発的に実施している現場を見学させていただいた。</p> <p>事前に参加の予約を受け、コンビニ体験(あいさつ・おじぎ・レジ打ち・商品紹介)などの指導を受け、実際に制服を身に着け接客体験をした後、コンビニ内のおにぎりとおかずを選び、参加者と一緒に交流しながら会食をおこなう。</p> <p>コンビニは地域に多く点在し、知名度も高く利用しやすいので、協力していただければ、現在より幅広い、子ども食堂の支援になると考える。</p>	<p>民間団体を主体とした子ども食堂は、貧困対策ではなく地域共生型の多世代交流を主な目的として実施されています。</p> <p>また、ボランティアで運営されているため、無理のない頻度と予算で実施されており、各子ども食堂で実施内容を決めております。</p> <p>イトインができる店舗で子ども食堂を実施しているコンビニエンスストアがあることは存じ上げております。コンビニエンスストア各社では全国的にということではありませんが、居場所づくりだけでなく、運営資金の寄付や機関誌による普及啓発など様々な形で子ども食堂の支援につながる活動をしていただいております。</p> <p>市としては、多くの子どもや地域の方が安心して過ごせる居場所が、持続可能な仕組みとして普及していくようきめ細かくサポートしていきたいと考えております。</p>	2	1
456	<p>「共に育ち生活できるまちづくりを推進します」・・・幼いころからお互いの存在を認め「個性」を理解し合える環境づくり。様々な障害特性について学べる機会を。地域での(例えば)「3歳おめでとう」の会</p>	<p>出前講演等を行うなど、市民の一人一人が障害や障害のある人への理解を深めることができるよう啓発活動に取り組みます。</p>	2	1
457	<p>学校の中に夢を育み、科学や技術への興味・関心を高める環境がなければ多くの子どもに届かない。</p> <p>・図書館の常時開館 ・中学校「モノづくり研究部」、「科学部」 ・小学校「天文クラブ」等</p>	<p>学校図書館の常時開館については、全小・中学校において実現しています。</p> <p>今後、学校図書館の蔵書の充実や、市内の施設と連携した体験学習の推進等による環境づくりを進めていきたいと考えています。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
458	グリーンパークの裏に隣接して、宿泊できるオートキャンプサイトを整備して欲しい。	オートキャンプ場ではありませんが、グリーンパークの隣の南海青年の家にもキャンプ場がありますのでご利用ください。	2	3
459	子どもの体験活動について ・体験活動、特に自然に触れあって自分で行動を決定したり、危険を判断したり、植物・動物の命の大事さを知ることが出来るような機会が出来るだけ多くの子どもにあるといいと思います。 ・親や、家族、子どもの支援者たちの中にも、その経験がない方もいると思います。子どもを支える側にも、その大切さと楽しさを知ってもらえる機会があるといいと思います。	できるだけ多くの子どもたちへ体験活動の場を知っていただくため、市内の小学生へ夏と冬に体験情報冊子「キッズチャレンジ」を配布しています。 その他、NPO法人と協働で外遊び（プレイパーク）を定期開催し、子どもはもちろん保護者にも外遊びの大切さを知っていただく事業を実施しています。	2	1
460	愛知県児童総合センターのような、周辺にすぐ野外活動が可能な子どものセンターが欲しい	愛知県児童総合センターや諫早こどもの城は、屋内外でいろんな遊びが体験できる総合施設ですが、北九州市には、こうした大規模な屋内施設と野外施設が一体化した施設がありません。新たな施設を検討する際は、こうした他都市の取り組みも参考にしていきたいと考えています。	2	1
461	諫早こどものしろのような、自然体験指導、森のようちえん活動などの可能な子どもの遊び場が欲しい https://www.city.isahaya.nagasaki.jp/cat_childcastle_c	現在は、既存の施設（5ヶ所の青少年の家、6ヶ所の青少年キャンプ場）などをご利用いただければと考えています。	2	1
462	自然の中で仲間と育つ、子どもの権利を補償する。 子供達の社会性を育み、言語力や表現力を育むことや、ひいては、理系離れを防ぎます。 みちくさや、身近な自然の中で仲間と遊ぶことは、子どもの心身の発達を支え、「ふるさと」の根っこを持つものは、あるものはやがて戻り、あるものは離れてもなお、育った地域への愛着を持ち続けます。10歳前後までのこどもの遊び体験は、地域への愛着を強くし、シビックプライドの根幹をなすものとなります。 子ども達の異年齢集団での自然のなかでの遊びや体験は、まさにアクティブラーニングの現場であり、自然なチームビルディング活動を通じたコミュニケーション能力の向上、や、様々な意味での危機管理能力の向上、身体能力の向上、自然科学の学習、理科学的な視点から環境教育へとつながっていきます。 これは持続可能な人材育成の社会基盤であり、安心して子育てできる地域は、すべての世代やすべての人が安心して暮らせる地域となっていくはずで、親や地域は、地域での子育てを通じて、子どもの人権を学び直す機会となるでしょう。 自然の中での活動のプログラム設計と安全管理、乳幼児の日常における交流活動、自然の中での活動の手法、どこでも実践できる実践法の開拓は、（私自身の）課題であります。 現場では、保育や教育、看護、理系系指導、野外活動指導、など、さまざまな専門性を持って、プログラム開発を行っていくことが必要です。現場の知見、事例の共有、ネットワーク化による多方面間からの関わり合いから、具体的な活動が生まれてくることが望ましい。 野外活動、自然体験活動、環境教育などを0歳の赤ちゃんと親の、共育ちの中で自然に日常化していくこと、です。子どもの育ちを理解する、とは、すなわち、生き物としての子供、その周辺の環境としての自然、との関わりそのもの、でもあります。 成長や育ち、には、あらゆる方向への連続性は不可欠であり、異年齢、途切れさせない繋がりが活動、時間や空間を豊か繋ぐ、誰もおきざりにしない地域での取り組みが、すべての子どもと親に向かって開かれてほしいと強く願います。	自然の中で仲間と遊ぶことは、子どもの健全育成にとって重要なことだと思っています。 北九州市では、様々な現場経験のあるNPO法人と協働で外遊びの普及を行っています。 今後も自然体験や社会体験など体験活動に関する情報を集約・発信し、青年リーダーの養成などを通じて、活動が途切れることのないように、青少年の健全育成に努めていきます。	2	1
463	学童～青少年期においては、インターネットが身近になったことで、自ら欲する情報のみに知識が偏る傾向にあるように思う。1～2か月に1回程度、様々な分野の講師を学校に招いて魅力を伝えていただき、子どもたちに普段の生活では得られない刺激を与えることで多様な人材の育成、学習意欲の向上に寄与すると考える	体験活動や文化に触れる機会など、地域人材の活用も含め、各学校が必要に応じて講師を招いたり、校外に出向いたりと各学校で工夫しているところです。 学校だけでなく、地域と共にどのような人材育成をしていく必要があるのかを考えながら、今後ともより有効な機会となるよう実施していきたいと考えています。	2	1
464	子どもの身体について。スポーツを早くからさせるため、「子どもを教える専門家」でない指導者の指導で、子どもの身体をいためていないかの調査をしてほしい。スポーツ少年団の指導者は、「子どもの身体」のことを知っている専門家であればと感じる。	スポーツ少年団では、スポーツ指導者に必要な医学的知識、ジュニア期のスポーツ等の科目からなる「スポーツ少年団認定員養成講習会」（主催：（公財）日本スポーツ協会）を受講し、検定試験に合格した「スポーツ少年団認定員」を中心に指導することになっています。 こうしたこともあり、ご提案いただいた調査をする予定はございません。	2	3
465	アートのワークショップを常時行えるような、街中や郊外の子供アトリエが欲しい https://www.aoc-aichi.org	北九州市では、美術館等を中心に、子どもをはじめとする市民を対象としたワークショップを実施しています。 今後も引き続き、美術やアーティストと親しむことのできる機会を提供しながら、子どもたちの美術への関心や理解を深めていきます。 また、今後、子どもの館や児童館などの魅力向上を考えていくに当たって、今回いただいた意見も参考にさせていただきます。	2	1
466	新科学館は、整備後も常に最新の物が維持できるよう、毎年度、予算を確保して頂き、定期的なメンテナンスに努めるとともに、最新の機材の入れ替えなど、取り組んで頂ければと思います。	新科学館の運営等の検討については、現在、産学官で構成する「新科学館 展示・運営検討会」において、幅広く意見を聴取しているところです。 頂いたご意見も参考とし、今後とも検討を進めます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
467	子どもも大人も、ワクワクするような「遊び心あふれる科学館」をつくってほしい。名前（愛称）も遊び心、期待しています。	新科学館については、子どもを中心とする全世代を対象にしており、誰もが科学に興味をもつきっかけづくりができるような施設となるよう検討を進めています。 愛称については、市内外へのインパクト等に留意しながら、多くの市民が愛着を持てるようなものとしします。	2	1
468	新しい児童文化科学館ができたらぜひ訪ねてみたいです。親子で楽しみにしております。	新科学館については、子どもを中心とする全世代を対象にしており、誰もが誰もが科学に興味をもつきっかけづくりができるような施設となるよう検討を進めます。	1	1
469	新科学館の整備については、とても期待しています。先日初めて訪れた福岡市科学館では、大人も楽しめる企画が開催されており、充実した時間を過ごせました。北九州市にもそれ以上の素晴らしいものが生まれますように。		1	1
470	現在、新しい科学館の検討が行われていると思います。色々な方の意見を参考に素晴らしいものにしていただきたいと思います。 私も色々な科学館を見てきましたが、どれも男子目線の展示が多いように感じました。理系女子の時代でもあるので、女の子目線の展示もぜひ検討してください。	新科学館の展示内容等の検討にあたっては、産学官で構成する「新科学館 展示・運営検討会」を設置し、企業や大学、小中高校をはじめ、物理学や観光分野の専門家など、幅広い分野の方々からご意見を頂いております。 新科学館では、性別にかかわらず誰もが楽しく科学を学ぶことができるような施設となるよう検討を進めます。	2	1
471	いじめは、いじめている側にも自分でどうすることもできない何かがあるのかもしれない。心に寄り添った対応をお願いしたいです。	いじめが起きた場合、学校はもちろん、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等関係機関と連携しながら心に寄り添った対応を行います。	2	1
472	先生方が現場で頑張ってくださいますが、先生方だけでは対応できない問題がたくさんあると思います。毎日ニュースで見ない日はない虐待やいじめ、不登校などがそれにあたると思います。 他市でも対応が遅く、最悪のケースになったニュースもよく耳にします。市として、スクールソーシャルワーカーさんが早くに対応出来るのか、先生方に任せきりにしていないか、今一度見直していただきたいと思います。	ご意見の通り、現場の教職員だけでは対応が難しい問題もたくさんございます。 学校長のリーダーシップの下、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家や関係機関との連携を図り、児童生徒が抱える問題に対して、きめ細かな対応を行います。	2	1
473	フリースクールなど、学校以外の居場所・学び場所について北九州市の不登校対策としては、少年支援室があるが、ここでは学校に戻ることを前提に指導されている。 しかし、現状の学校のシステムに合わない子は、身近にたくさんおり、私の子どもにも、なんとか学校のシステムに合わせようと努力し、学校側も子どもに寄り添おうと対応してもらったが結果的には「学校という場所そのものが合わない」ということが分かった。（療育センター、つばさなど、色々相談しましたが、子どもの特性上難しいとの結論になった） そういった「学校にフィットしない子ども」の居場所が必要ですが、フリースクールなどに通わせたくても経済面、居住地、子どもの特性などで難しく、結果的にひきこもっている子どもの話を、市内に何人も聞いた。そこで、「学校ではない居場所、学び場」に、そういった子どもたちが通えるよう、制度を整えていただきたい。 具体的には・フリースクールの情報についての一覧表を作成し、市のホームページなど見やすい場所にまとめる。（区役所の窓口で、どこにフリースクールがあるか聞いたことがあるが、「そういった情報はない」と言われた。個人で走り回って調べた。）	平成29年2月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保等に関する法律」が文科省より施行されました。 その13条では「不登校児童生徒が学校以外の場において行う多様な適切な学習活動の重要性に鑑み、個々の不登校児童生徒の休養の必要性を踏まえ、当該不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう、当該不登校児童生徒及びその保護者に対する必要な情報の提供、助言その他の支援を行うために必要な措置を講ずるものとする。」とされています。 今後は、北九州市でも、不登校児童生徒への支援は「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、本人の希望を尊重した上で、適応指導教室やフリースクール、ICTを活用した学習支援、民間施設やNPO等と積極的に連携し、不登校児童生徒が、主体的に社会自室や学校復帰に向かうよう適切な支援や働きかけを行っていきます。	2	1
474	指定された学校へ行くか行かないかは、子供自身に選択権があり、指定された学校以外、支援室以外での教育を受ける権利を確実に保障すること（義務教育を学校に登校すること以外の方法で修了できるようにすること）	平成29年2月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保等に関する法律」が施行されたことにより、北九州市においても学校以外の場（適応指導教室やフリースクール、民間施設等）と連携し、教育の機会確保について調査研究しているところです。	2	1
475	不登校の子・親が相談に行き（出向き）不登校状態を脱することばかりに労力を使わずに、在宅で義務教育を受けられる方法を。 在宅で自分に合った学びを積極的にに行い、多様なかたちで社会参加する未来をつくれるよう応援。 ICTの活用。	平成29年2月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保等に関する法律」が文科省より施行されました。 北九州市においても小・中段階の不登校児童生徒が、自宅等において遠隔教育を含めたICT等を活用した学習活動についても、調査研究しているところです。	2	1
476	いじめや長期欠席へのきめ細やかな対応について 学校の先生ではない専門的なスタッフであるスクールカウンセラーの方へ話すことにより、的確できめ細やかな対応をしてもらえることはいじめを受けている子どもにとって何より安心して学校生活を送れることになると思う。	児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、スクールカウンセラーによる小学校5年生全局面接や、小学校6年生・中学校2年生へのメンタルヘルス教育（自殺予防教育）を通して、身近な大人に相談できる体制を整えるとともに、SOSを発信できる環境づくりを推進します。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
477	スクールカウンセラーや、相談の場（子どもも大人（親）も）を増やすと学校のことや育児の悩みを持つ人々を助けられるのではないかと。	北九州市では、拠点校方式としてスクールカウンセラーを全中学校へ配置しており、中学校から校区の小学校へ派遣して児童生徒、保護者の相談対応をしております。	2	1
478	いじめから不登校となり、学校へ行きづらくなった子どもたちが、再び登校し、充実した学校生活を送れるように保護者を含めサポートしていくことが大変なことですが大事だと思います。	いじめから不登校になった子どもが、再び安心して学校に登校し、充実した学校生活を送れるよう、学校と保護者が情報を共有し、継続した支援体制作りを進めます。	2	1
479	ひきこもり経験者（当事者）の“日中ひきこまれる家”の開所・運営をサポートし、その際、空き家を有効活用。次のステップとして放課後等デイサービスなどにも関わられる気力・体力づくりを応援する。	様々な資源を有効に活用できるよう、関係機関と連携を図って検討していきます。	2	1
480	常に若者世代ではないと放置されてきた50代も含め対策を本気で行うこと。当事者家族講座、だけではだめで、びあサポートや情報開示と地域の取り組みを本格化させること。まだ間に合う、と信じています。居場所作りや丁寧な社会復帰支援を行うこと。高齢者の全戸訪問、だけでなく、引きこもりの全戸把握を、防災面などからも行なっておくべき。	50代も含めた大人のひきこもり対策については、北九州市でも重要な課題と考えています。今回のご意見も参考にしながら、北九州市の関係部署や機関等が連携して、ひきこもり対策を進めていきます。	4	4
481	児童養護施設での不祥事が続いている。心や身体に傷を負った子どもたちを守る最後の砦であり、子どもたちの指導にあたる職員には高度な専門性や優れた人格をもった人であってほしい。職員に対する研修やきちんとした職員の採用、市の監査体制の強化を図ってほしい。	今回の不祥事を受け、市内のすべての児童養護施設に対して、不適切な児童処遇はないか、法令を遵守した施設運営をしているかなど、指導や監査を強化しております。また、施設職員の専門性や倫理意識の向上に向けての特別研修を今年度に追加で2回、来年度も複数回実施することとしております。	2	1
482	昨今、虐待により幼い子どもが亡くなる事件が多発しており悲しいニュースがながれるたび、こうなる前にどうにかできなかったのかと思います。このような悲しい結果にならないように、未然に防ぐ為にも幼稚園、保育所、小学校等と児童相談所や近隣の住民、民生委員の連携が重要となると思います。子ども達が心身共に健康で成長出来るようにする為にも周囲にいる大人達が協力して子ども達の成長を共に見守っていくことが大切なのではと考えます。	児童虐待の防止には、学校、保育所、幼稚園などの関係機関をはじめ、社会全体で取り組む必要があります。本市では今年4月1日に「子どもを虐待から守る条例」を施行し、市民が一丸となって虐待のないまちづくりを推進することを決めました。今後とも行政をはじめ、市民の皆さんとともに児童虐待防止に鋭意取り組みます。	2	1
483	児童虐待を未然に防止するため、市民の誰もが気軽に通報や情報提供ができる仕組みを構築し、市民啓発に取り組んでください。	通報や情報提供できる仕組みとしては、24時間365日子ども総合センターにつながる全国共通ダイヤル「189」や、区役所には気軽に相談できる子ども・家庭相談コーナーがあり、広く市民に周知するよう取り組んでいます。また、今年4月1日から北九州市子どもを虐待から守る条例が施行され、条例の中で、未然防止や市民の責務として通告することを定めています。今後とも条例の周知も含め市民啓発に努めます。	2	1
484	虐待について ・コンビニエンスストアに情報提供・協力を呼びかけ ・「どんとき」「どこに」「どのように」通報すればいいのか市民への周知を大々的に	北九州市では今年4月1日から北九州市子どもを虐待から守る条例が施行されました。条例の中で、市民やコンビニエンスストアなどの事業者の責務として、虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合は通告しなければならないことを定めております。通告先の周知については、市政たよりやポスター、パンフレットの配布により広報しています。今後とも市民や事業者に対して継続的に周知を図ります。	2	1
485	地域のみならず子育て対策をすることにより幼児虐待対策となる。（横縦のコミュニケーションの場を提供する）	児童虐待の防止には、学校、保育所、幼稚園などの関係機関をはじめ、地域住民など社会全体で取り組む必要があります。北九州市では、市民センターなど地域で子育て支援を行っています。また、今年4月1日に「子どもを虐待から守る条例」を施行し、市民が一丸となって虐待のないまちづくりを推進することを決めました。今後とも行政をはじめ、市民の皆さんとともに児童虐待防止に鋭意取り組みます。	2	1
486	通報の有無に関係なく、定期的に子育て中の家庭への家庭訪問などもあってよいのでは。	児童福祉法に基づき、生後4か月までの家庭に対し全戸訪問を行っています。その中で、養育支援等が必要な家庭へは継続して訪問しております。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
487	対応できる専門家が少ない（虐待について）。	児童虐待の対応では、専門的な科学的知見に基づき、問題の本質、背景を分析することにより、合理的・客観的見地からそれぞれの子どもにとっての最善の援助方針を検討する必要があります。 北九州市では、虐待対応件数の増加に対応するため、国の配置基準の見直しも踏まえ、児童福祉司及び児童心理司を配置しています。 また、医師や保健師などの専門職や警察OBを配置するとともに、現職警察官である青少年非行対策担当課長を、児童虐待対策担当課長として兼務させるなど子ども総合センターの体制を強化しています。	2	1
488	親の虐待は、本人を責めても、何の解決にもならないと思う。だって、彼ら、彼女らは、子どもを育てることの、本質を習っていない。子どもも、大人も、あなたは唯一無二であるという基本を教わらずに大きくなってしまった。親になるのに試験はない。じゃあどうしたらいい？それは、人の力に頼ることだと思う。人には、誰かの力になりたいという本質が絶対にあるはず。だから、市民センターや学校や、児童館や、学童等々、とにかく、身近に子どもと接している場所が、頼める人材を確保する努力をしたら人は動く。子どもは未来の宝であること。親の者ではないことを意識してほしい。たださんねんなことにそれを教える、学校の先生・職員などの教育が足りていない。もっともっとプロ意識を持ってほしい！！どうしたらいい？採用試験は面接と体力だけにすべきです。	児童福祉法は、児童を心身ともに健やかに育成することについて、保護者に第一義的責任があるとし、国及び地方公共団体は保護者とともにその責任を負うと規定しています。 北九州市は、生後4カ月までの乳児家庭全戸訪問や乳幼児健康診査などの事業を活用し、育児不安や母親の心身の不調が考えられる家庭については、保健師等が電話連絡や訪問を行い、必要に応じて関係機関の支援につなぐなど、虐待の未然防止に取り組んでいます。 また、子どもたちと直接接する機会が多い保育所や幼稚園、小中学校の職員を対象にした研修などを通じて、虐待の早期発見・早期対応に努めています。 ご意見にございます「子どもは未来の宝であること」に間違いありません。 北九州市におきましては、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」や「北九州市教育大綱」に基づき、将来を担う子どもたちの育成のために様々な施策に取り組み、多くの成果を上げています。 また、教職員については、「北九州市教育委員会 人材育成基本方針」に基づき、キャリアステージに応じた研修制度において、教職員の資質及びプロ意識等の向上に努めているところです。 それに伴い、教員採用候補者選考試験におきましては、教職教養・専門教養の筆記試験や適性検査・実技試験・模擬授業・面接等、様々な視点から必要な選考資料を得た上で、公正に選考を行っております。 引き続き、優秀な教職員の人材確保、そして育成に取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。	2	1
489	個人情報保護が先に立ち、保育園が必要な情報が得られにくく、対応が遅れることがある。社会資源が連携しやすいネットワークを作れないものか…。（虐待について）	児童虐待の対応を迅速に行うためには、保育所や学校などの関係機関と児童相談所や区役所子ども・家庭相談コーナーが連携して取り組む必要があります。 そのためのネットワークとして、「要保護児童対策地域協議会」を設置して、各機関が情報を共有するとともにそれ以外に情報を漏らしてはならない（守秘義務）ことが定められています。	2	1
490	対応できる専門家が少ない（障害について）。	障害のある子どもへの支援については、「総合療育センター」、「発達障害者支援センター」など、専門機関の整備を進め、支援体制の充実を図っています。	2	1
491	心身の発達が気になる子どもの早期発見と相談・支援体制の強化 ・私自身の体験からですが、子どもの発達障害を幼稚園から知らされた時、園の先生も話しぶりがいいことだったので、大変だったのだろうと思います。 発達障害は 3歳児健診のあとに兆候が明確になることも多いですが、その時期に発見するのは 園や保育園の先生方になると思います。親としては園や保育園の先生方に指摘されるより療育センターの職員などから指摘された方がショックも少なく、その後の療育もスムーズだと思います。年少～年中期の、各施設への、療育センタースタッフの派遣と全園児の発達確認を希望します。	「北九州市立総合療育センター」では、地域支援事業の一環として、幼稚園・保育所・学校等の職員に対して、講義や事例検討等により障害児者の療育に関する専門的技術支援を行っております。 また、「特別支援教育相談センター」では、幼稚園・保育所（園）を訪問し、集団中での行動観察を行い、教職員や保育士に対して、就学を見通した適切な関わり方や支援の方法等について具体的な提案を行い、必要に応じて専門家チーム（臨床心理士や言語聴覚士等）を派遣する早期巡回相談を実施しております。 この他にも、様々な関係機関において発達障害の早期発見・早期支援のための事業を推進しています。 これらの取り組みに加えて、北九州市では、令和元年度から『発達障害児早期支援システム研究事業』を立ち上げ、発達障害の早期発見の方法及び発見後の各関係機関への繋ぎ方を研究しているところです。 ご指摘にあるような、全園児の発達確認等も視野に入れながら事業を進めています。 今後も、医療、福祉、教育等の様々な視点から協議を重ね、よりよいシステムの構築に向けて研究を進めます。	3	1
492	小学校で行われていた「通級」が民間に委託されると聞いた。障害を持った子ども又はグレーゾーンの子どもの、一般の子どもと隔離することで、社会性がそだたないのではと心配する。	現時点で、市立小学校で行われている「通級」を民間に委託する予定はありません。 また、北九州市では障害のある児童生徒が通常の学級に在籍しながら、在籍校において特別な指導を受けられる特別支援教室の導入を進めるなど、通常の学級で学習する機会をできる限り確保しています。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
493	個人情報保護が先に立ち、保育園が必要な情報が得られにくく、対応が遅れることがある。社会資源が連携しやすいネットワークを作れないものか…。(障害について)		障害のある子どもの支援にあたっては、障害の種別・程度等に応じた細やかな対応を行うことが必要です。引き続き障害のある子どもが地域社会の中で健やかに成長できるよう、保健・医療・福祉・教育などの関係機関と連携しながら支援に取り組みます。	2 1
494	・経済産業省がまとめている未来の教室 (https://www.learning-innovation.go.jp/) のような学びの場をつくる。もしくは、そういった学びをするための相談先を作る。 私の子どもは、WISC(分野別の能力の凹凸がわかるテスト)で、IQが上は130、下は70です。書字障害もある。こういった理由からも、年齢に沿った学びを求められる環境では、適応が困難。 多様な学びを尊重していただけるよう、サポートしていただきたい。 経済的補助 フリースクールに通わせていますが、経済的負担が大きい。 様々な特性により、一条校に通うことが困難な子どもにも、経済的に断念する(もしくは無理をする)ことなく、学ぶ権利を与えてほしい。そのために、費用の捻出もしくは補助をお願いしたい		学びの自立化、個別適性化については、インクルーシブ教育の理念の下、連続性のある「多様な学びの場」を充実していく上で、たいへん重要な視点だと考えています。 北九州市では、特別支援教育相談センターにおいて、教育相談など保護者が専門家等に子どもの発達について相談できる場を設けています。 特別支援教育は、特別支援学校、特別支援学級だけでなく、通常の学級においても重要と考えており、北九州市では、自閉症・情緒障害、発達障害などの障害のある児童生徒が通常の学級に在籍しながら、在籍校において特別な指導を受けられる特別支援教室の導入を進めているところです。 また、特定の個人への対応ではありませんが、通常学級において特別な支援を要する児童生徒に対して特別支援教育学習支援員を配置するなど、安心して学習できる環境づくりに努めています。 経済的補助については、保護者の経済的負担を軽減するため、小中学校へ就学する場合は就学援助費を、また、小中学校の特別支援学級へ就学する場合は特別支援教育就学奨励費を支給する制度がありますが、いずれもフリースクールは支給対象となっておりません。 貴重なご意見として承ります。	2 1
495	支援学級の先生の育成 支援学級があっても、先生方の支援スキルの差の開きがものすごく大きい。知人の子どもは、先生の不適切な対応で子どもが傷つき不登校になった子や、心身を壊しながらも通常クラスに移動せざるを得なくなった子もいる。早急に先生方のスキルの育成、支援スキルのある先生の人数の確保が実現してほしい。		教員の大量退職、大量採用の影響などから、特別支援学級の担任も通常の学級の担任と同様に経験の少ない教員が増えています。 そこで、臨床心理士などの専門家を派遣して特性や対応について、教員に直接助言・指導を行ったり、本年度から近隣の5～6校での協体制度を充実し、教員がグループで授業や子どもの支援方法の共有や検討ができるように年間を通じたグループ研修を取り入れるなど、指導・支援のスキルアップを図っています。 また、北九州市では、教員が大量に退職する中、特別支援学校免許を有した教員の採用を増やすとともに、実践的なOJTの実施等により、専門性を持った教員を意図的・計画的な人材育成を行っています。 今後も引き続き、専門性を持った教員の確保及び育成に努めます。	2 1
496	特別支援学級の開設について 今年度から、校区に希望人数が3人いないと開設されなくなった。せめて、新設の場合の人数カウントは、校区内ではなく越境で通える範囲以内に広げてカウントしてほしい。		北九州市における特別支援学級の開設については、市全体の視野に立って、検討を行っております。 特別支援学級の開設については、ニーズが高いことも承知していますので、今後も引き続き、優れた資質を持つ教員の確保や人材育成に努めることによって、このニーズにできる限り応えられるよう努力します。	2 1
497	ひとり親が一人で安心して子供を産み育てられる街にすること 養育費の市による代理取り立てや、学費の無償化、シェアハウスの充実などで若い親が自立して子育てに取り組めるような環境の整備。例えば職場内保育所、や学童保育を、まずは、公立大学内に設置する。 例北海道大学など きたきゅうスタイル、として、先進的な取り組みにチャレンジしてみる。		ひとり親家庭の生活状況は、定期的の実施している市の実態調査によると、平均年収、就職状況、就労形態等について改善傾向にあるものの、平均的な家庭と比べると依然として経済的に厳しい状況にあります。 ご提案の施策や他都市の取組み等も参考にしながら、今後も、ひとり親家庭が自立し安心して子どもを育てられるまちづくりに努めます。	2 1
498	経済的に困難な環境に生まれ育った子どもでも、将来自立した生活が営めるよう、教育の機会に差がないような支援を望みます。		北九州市立の小中学校に就学する際は、経済的理由により子どもの学習が妨げられることのないよう、給食費や学用品費等を支給する就学援助制度があります。 更に高校、大学への進学を希望する場合は、私立や国公立を問わず、無利子の北九州市奨学資金貸付制度があり、教育の機会均等に資する取組みを行っています。	2 1
499	赤ちゃんのおむつ変えできる場所や授乳しやすい環境を整えてほしい。		赤ちゃんの駅は、現在、市内に4.47か所ありますが、新たな協力店舗の開拓も続けています。これからも環境整備に取り組んでいきます。	2 1
500	・学校評議委員会について 地域差があると思いますが、学校評議委員会が学校側からの一方的な報告だけの場合が多く、地域や保護者の意見や問合せに対応してもらえていない。 地域で見かける子どもたちの心配な行動(深夜徘徊・遅刻しているのに公園で遊んでいる等)を学校と共有できるネットワークの一つになって欲しい。		地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換を目指し、本年度より保護者代表や地域住民代表の方などを委員として組織する北九州市型学校運営協議会制度を導入し、一部の学校で実施しており、今後広げていくことを検討しています。 このような制度を活用して、地域と学校が情報を共有できるネットワークづくりを目指しています。	2 1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
501	子どもが少なくなっているのに、定期的に地域単位で触れ合えるイベントを企画する。運転できない人・車がない人・交通機関使用が不便な人が参加しやすいように、送迎バス等を使うようにしてほしい。	市民センターをはじめ、各地域においてイベントが行われていますが、少子化が進む中、より広範囲でイベントを行うことも必要になってくると考えられます。御意見も参考にしながら、地域活動の支援の効果的な手法について研究します。	2	1
502	例えば、子育てサポーターや子育て中のママが地元の商店街の中にママと子どもが（には限らないが）集えるカフェをつくる等のチャレンジを応援する。（助成金で）又は（家賃補助で）	商店街の空きスペースを活用して、子育てを応援する空間をつくることは、商店街の活性化につながることも、子育て中の親子のくつろぎの空間を提供することにもつながると考えます。御意見も参考にしながら、今後の子育て支援の効果的な手法について研究します。	2	1
503	可能な限り具体的なチャレンジを 具体的な目標を持って実施し共有する。みんなでがんばる、風なお題目では、結局誰も責任を取らない。小さくても良いので、具体的な目標を掲げて、可能なものから、地区ごとに取り組み改善を進める。そのための子供達からの提案をあつめるフーズトラップミーティングを各小学校や中学校、子供会など自由な集まりで実施し共有する。そのためのファシリテーター派遣の仕組みを作り、各地の小さな声をすべて拾って表明していくことを行う。	子どもの意見を聞きながら行う地域の自主的な活動に対し、支援を行ってほしいとの要望だと思います。地域の子ども・子育て支援の取り組みを検討していく中で、参考とさせていただきます。	2	1
504	航空会社の座席指定時にわかる「幼児マーク」に賛否両論かというネットニュースを見たことがあります。狭い空間で長時間過ごすので、静かに過ごしたいという気持ちはわかりますが、昔のように親族が近辺に住む時代ではありませんし、子連れで新幹線や飛行機で移動することを止めることはナンセンスだと思います。子どもも社会の一員として、親や身近な大人が、乗り物に乗る際のルールについて教えることは必要だと思いますが、子どものいる家庭を、家庭の中だけに押し込めないような、寛容な社会になればと思います。	子どもプランでは、「子どもは未来を担う存在であり、わがまち北九州の将来を支える存在となる大切な財産」であるとうたっています。子どもの成長や子育ては他人事ではなく、すべての市民が自らのこととして捉え、協力して子どものために関わるのが大切です。子どもに寛容な社会をつくっていくことは簡単なことではないかもしれませんが、この子どもプランの考えを、北九州全体に浸透していけるよう取り組んでいきます。	1	1
505	今の居住地においてはとても子育てしやすい環境だと思う。市民センター・ふれあいルームの先生方も親切で色々教えていただけて助かっている。	引き続き、親子が気軽に集い交流する場の提供や、地域で活動する育児サークルへの支援などを通じて、地域社会全体で子育てを支える取り組みを進めていきます。	1	1
506	子どもの途切れない支援を確かなものにする 支援が必要な家庭、支援が必要な子どもたちを、保育所や幼稚園から送り出す時に、ケース会議などのみならず、個別の支援員の担当制とし、関わる地域や大人全体で家族ぐるみで広く見守る体制を整えること 支援に手の届かない市民こそ、支援を必要としている。既存の大きな組織（まちづくり協議会、社会福祉協議会や教育委員会など）に丸投げするのではなく、草の根の活動を生み出し支える仕組みを生み出すこと。 既存の組織は、担うべき活動が大量にある。新しい、草の根活動としての現場の活動の活性をあげ、民間も巻き込んだ既存の組織の枠を取り払った活動を模索すること。 「なんとか教室」を開催しても、本当に必要な家族には届かない。いかにして、生活の現場へ浸透させていくかの工夫が必要。教室を実施するのであればリーダー研修として割り切って、実施し、その後の活動へとつなげていくことが必須。 例 子ども食堂ネットワーク ひきこもり支援活動団体 地域の子供の居場所作り支援 地道な活動が、子供達づてに広がり、すべての子ども達へと届いていく。危機的状況に陥った際のライフラインとして機能する ひまわり学習塾 →予算の集中が、支援を膠着状態にしている。 地域公民館や自主活動による学習支援活動の支援。多様な場所、多様な学びの機会を補償する必要がある。 現在のひまわり学習塾は、学校に行けない子供を巻き込むことができない、子供の事情に合わせた運用ができない、学校の学習授業の補いだけでは、子供の学ぶ力を下支えることは難しい、などの点から、勉強以外の取り組みも含めた、福岡市の空き教室活用の放課後教室などを展開する方が自然です。20年以上前から名古屋市や神奈川県での取り組み事例があります。地域のボランティアも子育てに関わっており、地域の子供を地域で見守る出合いの機会としても、小学校の放課後活動が機能しています。	ご提案いただいた御意見も参考にしながら、改善の必要なものについて、見直しを検討してまいります。「保幼小連携」については、より効果的な取り組みとなるよう、検討を行ってまいります。このほか、草の根活動の支援策、地域の人材育成の手法、子どもひまわり学習塾の実施方法についても、より実効性のある取り組みとなるよう、検討を行ってまいります。	2	1
507	幼稚園・保育所から小学校入学に切り替わるときに、共働きの場合、見守る大人がいない空白の時間帯ができることが心配。社会情勢や働き方の多様化に伴って、とぎれない見守る体制が必要と思う。	幼稚園・保育所から小学校入学に切り替わるタイミングで発生するいわゆる「小1の壁」については、これまで取り組んできた放課後児童クラブの全児童化（利用を希望する児童は誰でも利用できる）、クラブ利用時間の延長等により解消が進んできたと考えています。子どもプランでは、計画の視点として「子どもの成長と子育てを切れ目なく支える」を掲げています。これからも、利用者のニーズを的確に把握しながら、切れ目ない支援に取り組んでいきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
508	<p>【概要】 国のガイドラインと同等に、中学校校区に一つ、常設の子育て支援施設を置くこと。（支援） 可能な限り、屋外型の活動拠点を人的支援とともに設置すること。（青少年） 具体的な取り組み事例として、今後日本で一番大きな小学校になる予定の響きの小学校くなくに常設型のプレイパークゾーンを設置すること。（塩屋公園の自然保護地域は開放準備が途中で閉鎖されたままで） 【詳細】 厚労省の取り組みでは、中学校校区に一つ、常設の子育て支援施設を置き、まずは乳幼児から、子育ての下支えをする方針とのこと。そのため予算、手順などが示されています。先行事例などが全国にあります。各区、各中学校区、など、子供のいる地域単位の小さな目標を定め、具体的に実現をしていくことが必要です。</p> <p>乳幼児期の子どもの発達と、身近な養育者との愛着形成は、相補的な関係があり、子育て期の親を身近な地域がしっかりと受け止め、確かに守っていくことは、現状では不備であって、緊急性の高い課題でもあります。</p> <p>そのためには、子育て支援の取り組みこそが、市民の生涯学習のチャンスであると考え、アクティブラーニングの現場として「他孫（たまご）そだて」「ともぞだち」「多世代群れ遊び」活動に、柔軟できめ細かい、市民の活動として官民共同で取り組むことが必要です。現場から離れたところで学ぶのではなく、現場から学ぶ。個人の課題を社会化しながら、具体的な活動を通じて、仲間を得ながら学びを深めていくこと。 活動の中から得られた次の課題を、学びながら解決していく、様々な地域の方々との連携を深め、多角的に多面から取り組みを工夫する。縦割りではなし得ない、柔軟な取り組みが必要です。</p> <p>このことは、学校現場の膠着や疲弊を緩和し、「地域」の新しい形での復縁を可能とし、ワークライフバランスや働き方改革、の視点、高齢者の生きがいや健康寿命増進など多面的な効果を包含するものとなります。 包括支援、のための人件費は、担当コーディネーターが電話の前に座っているだけでは、意味がなく、地域へのアウトリーチ、現場での人や部署をつなぎ、関係者以外へも広く発信していくような全体での意識の変化を生み出してこそ生きてくると思っています。活動する現場へこそ、予算を投じる、仕組みづくりの工夫が待たれます。 当事者を広く巻き込みながら、地域資源を活かした草の根の取り組みの中から、新たな課題と気づきが生じます。 現場で見える事象は、複雑で、難解ですが、現場での生の知見を集め、経験や知恵を集め、具体的な活動を行っていくことで、普段の活動の現場での実践の積み重ねの中から、子供主体、一人の子供を確実に支えていくことが可能になるのだと思います。縦割り、役割分担の隙間で、支援が途切れ、子供達が見えなくなっていく現場に心を痛める関係者の方は、非常に多いのではないかと感じています。不安要素の先送りは、放置で解決するわけではなく、結局よりややこしい状況になって、本人のみならず社会全体の課題や不安となって蓄積してゆきます。</p> <p>新しい法令や国の目指していく方向、予算の投下方向などが、現在の北九州では動きが確認できないこと、情報として周知されていないことなどに、とてももどかしさを感じています。</p> <p>北九州は、政令市で、他の地域と比較して恵まれている部分もあるかと思いますが、現状では、加算対象活動を始め、まだまだ子供たちの日常生活には配慮も必要で、できることはたくさんあり、様々な方々の関わりが必要なのだと、感じています。 五市合併で誕生した北九州は、それぞれの分断がいまだに強く感じられ、市の方策としても、各区にひとつだけの子育て支援拠点（通常、区役所内の空会議室などで開設。子育てふれあいルームという名称で、指定管理運営）と、大きな箱物が二箇所あるだけで、中学校区ごと一つ、には程遠いです。場所にもよりますが、駐車場も不足しており、公なものは、全てが室内型。 各中学校区ごとにある市民センター（様々な福祉活動の拠点となる施設）に、子育て支援拠点を置き始めましたが、市民センターは、まちづくり協議会、という地域自治会や関連団体で作られた協議会が運営しており、地域のあらゆる課題がもちこまれます。防災、高齢者、福祉、生涯学習や人権啓発や、男女共同参画、、、地域活動の拠点であること自体は悪いことではありませんが、現実、お年寄りのための文化活動の拠点としての色合いが強く、若い人や子供達が、居つことのできるような場所ではありません。 赤ちゃん対象の各センターでの取り組みも、多くて週一回、二時間の活動しか確保できません。子供達対象の事業は、さらに少ないです。 いつでも立ちよれる子育て支援施設、というものが、実際不足しています。屋外型の活動場所も、圧倒的に不足しています。公園があれば良い、のではありません。そこに子どもと親、を遊びに繋ぐ、活動場所を保障する「人」が必要です。</p>	<p>北九州では「子育てふれあい交流プラザ」と「子どもの館」のほか、各区役所（小倉南区は生涯学習センター）や児童館（9館）内に「親子ふれあいルーム」を設置しています。 また、概ね未就学の子どもとその保護者が集い、交流することができるフリースペースを設けている市民センターもあります。 地域における子育て支援活動の活性化については、市民センターや児童館等を拠点に活動する子育てサークルや支援団体に対して補助金を交付する等の取組みを行っております。 ご意見を参考に、今後も、地域における子育て支援施策の更なる充実に努めます。 愛知県児童総合センターや諫早こどもの城は、屋内外でいろんな遊びが体験できる総合施設ですが、北九州には、こうした大規模な屋内施設と野外施設が一体化した施設がありません。新たな施設を検討する際は、こうした他都市の取り組みも参考にしていきたいと考えています。 現在は、既存の施設（5ヶ所の青少年の家、6ヶ所の青少年キャンプ場）などをご活用いただければと考えています。</p>	2	1
509	<p>他市町村で多数ある、いつでも親子が行ける、子どもの遊び場が戸畑区内に欲しい。 （市民センターに常設でもよい）</p>	<p>北九州では、各区役所内（小倉南区は区役所隣接の生涯学習センター内）や一部の児童館に、概ね3歳未満の子どもとその保護者を対象とする「親子ふれあいルーム」を設置しています。 また、親子で安全に過ごせるフリースペースを設置している市民センターもあります。</p>	2	1
510	<p>・地域における「シニア世代による子育て支援」は、子どもや保護者にとって頼りになるだけでなく、シニア世代にとっても介護予防になり、良いと思います。</p>	<p>現在、北九州では、子育てサポーターなど、多くのシニア世代が子育て支援に関わっています。 こうした現状をもっと盛り上げて、「シニアが支える子育てのまち」となるよう取り組みを進めていきたいと考えています。</p>	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
511	・地域の子育てを支える人材として、青少年期の人たちにも参加してほしい。自分達の将来をイメージすることもできるし、支援される側、特に学童期の子ども達にとっては、大人よりもより感覚の近い人たちの支援が必要な場合もあると思う。	地域の子育てを支える人材として、青少年期の人たちの参加を促すことは、子どもにとって身近な存在との交流が生まれるとともに、青少年にとっても今後の人生を考えるきっかけになるなど、お互いにとって良い影響を生むことにつながるものと考えます。 既に、「青少年ボランティアセンター」では、親子ふれあいルームや子どもまつりなどへボランティアを派遣し、活動の場を提供しています。 このほか、一部の市民センターでは、その地域の青少年が子育て支援に深く関わる取り組みも行われています。 ボランティア派遣の呼びかけ、先進事例の紹介など、各地域の青少年人材の活用を促す効果的な方法を研究してまいります。	2	1
512	総じて、子育て支援に係る、人材確保のための中、長期的な改善を求めます。	現在、北九州市では、子育て中の親の身近な相談相手や親子同士をつなぐ役割を担う、「子育てサポーター」を養成し親子を地域で見守る環境づくりに取り組んでいます。今後もこの取り組みを進めます。	2	1
513	シニア世代による子ども・子育て支援活動の実施方法について 子育て中の保護者の方々は、様々な事に不安を抱えています。特に転勤で北九州に来られている方は、周りに子育てについて話を聞ける人（例えば祖父母等）が近くにおらず、知識面でも不安を抱えています。 一方で、祖父母が近くにいる子育て中の保護者の方々からは、祖父母からの「古い知識の押し付け」に不満を感じるという声も聞いております。 シニア世代による子育て支援にあたり、支援者に対して、「傾聴（アクティブ・リスニング）」や「子育て世代の現状」といった『保護者支援で重要な知識・技術の研修を実施を行ったうえで、支援を実施する』ことを提言いたします。	子育て中の親の身近な相談相手や親子同士をつなぐ役割を担う、「子育てサポーター」を養成し親子を地域で見守る環境づくりに取り組んでいます。 「子育てサポーター」の中には、シニア世代の方も多く活動してくれており、「子育てサポーター」として活動するうえで基礎知識の習得や「子育てサポーター」としてのスキルアップを図る研修も実施しています。「子育てサポーター」が活動しやすいよう、研修内容を充実したものにしたいと考えています。 このほか、福岡県の事業に「ふくおか子育てマイスター」があります。これは、地域の子育てを応援する高齢者を応援する福岡県独自の制度で、60歳以上の子育て支援活動に関心がある方に対し研修を行い、「マイスター」として認定・登録するものです。 研修会では、子ども・子育ての現状や、支援を行う上での心構え・配慮、求められる役割など、1か月にわたり計7回の講座を受講することとなっています。北九州市でも実施されており、市政だよりや市HP「子育てマップ」で参加を呼び掛けています。	2	1
514	地域の中で子どもたちの姿を見かけません。寂しいです。何か加勢したいと考えている方も、何も見えない状態からできることの見えるかで役に立つことの喜びと健康維持へもつながれば、市民センターの意義が大きくなると考えます。	市民センターで実施している「育児サークル」や「フリースペース」において、子育てに関する保護者の悩みや不安の軽減を図るため、子育てサポーターを養成し、活動していただいています。将来、子育てサポーターとして活動していただく人材の確保につなげるため、子育てサポーターの活動をより多くの方に周知して行きたいと思っております。	2	1
515	地域差があると思いますが、市民センター職員、子を持つ親として地域での子どもたちの活躍の場と、保護者や子どもたちの意見をくみ取る機会の少なさを感じていました。 これらを解決できる者とは思っておりませんが、良い方向へ進むことを願うアイデアを書かせていただきます。 ・ こどもボランティアマイレージ 市民センターなどで行われる講座や行事に子どもを対象にしたボランティアをつのり、ボランティアとして参加してくれた子にポイントを発行する。ポイントによって健康マイレージのように景品交換があるとやりがいがあると思います。 ・ ボランティア参加証明書の発行 入試や就職などでボランティアに参加した証明書が必要な場合があるの で、市民センター等でボランティアに参加して証明書を発行できるようにすれば、市民センターOを利用する機会の少ない10～20代の青少年が市民センターや地域行事にきてくれるきっかけとなり、将来的に地域で活躍してもらえる人材育成につながれば・・・と思います。	各市民センターで、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供しています。 例えば、1年を通して、地域のスポーツ推進員や食生活改善推進委員等の方々に講座の企画・運営に参加していただき、ニュースポーツやおてだま大会、患方巻の作り方講座を開催しています。 また、子どもたちのリクエストによるスポーツ大会などを開催し、地域の方々や様々な体験活動や世代間交流を行っています。 ご提案いただいた件につきましては、市民センターで実施できるが研究したいと思っております。	2	1
516	自治会の部会に「学校支援部」を作り、ちゃんと機能する体制が整ってれば、お金を自治体に入れて（現在予算として、学校に“謝金”としてあるもの）、安全・見守り・ブックヘルパー・読み聞かせ等のスクールヘルパー・配慮が必要な子どもがいるクラスにクラスサポーターなど学校の要望に応じて「学校支援部」が地域の人材を配置する。	現在、北九州市では、学校等において、スクールヘルパーなどの人材を学校につなげる地域コーディネーターを委嘱し学校の支援をお願いしています。 一方、文科省では、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働する「地域学校協働活動」を推奨しています。 北九州市でもそれを受けて、地域と学校との協働活動の体制構築について研究しているところです。 ご意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
517	「ほっと子育て」って何？ふれあい事業って？？トワイライトステイ？？？夜間預かりでしょうか？	「ほっと子育てふれあい事業」とは、子育ての援助（子どもの預かり等）を行いたい方（提供会員）と子育ての援助を受けたい方（依頼会員）による会員組織をつくり、相互援助活動を行うことで、子育てと仕事の両立や、地域における子育て支援環境づくりに資する事業です。 利用時間は、月曜から土曜の午前7時から午後7時を基本としており、基本時間から引き続き延長利用も可能です。ただし、宿泊を伴う援助は行っておりません。なお、利用料金は1時間800円（基本時間外は1時間1,000円）です。	3	1
518	ほっと子育てふれあいサービスには大変お世話になっている。支援会員の参画を活性化させ、支援の輪が広がるとよい。地区によっては、会員が少ないので支援が受けられないこともある。	ご意見のとおり、「ほっと子育てふれあい事業」では、子育ての援助を行う会員の増加が課題となっており、現在、援助を行う会員が少ない地域を中心に出張説明会を行う等、会員増加に努めているところです。 今後も、更なる会員増加と質の向上に努めます。	2	1
519	ほっとふれあいサービス等も利用させてもらい助かった部分もあったがどうしても料金が高くなったり、登録して、面接して…は面倒だと感じたり、病児保育もいざという時には使えなかったり…といこともあった。	本事業において最も重要なのは、子どもを安全に預かることです。そのためには、会員同士の信頼関係の構築や援助活動を行う上での約束事の確認が重要であり、面接や援助活動に係る事前打合せ等の手続きは欠かすことができません。 また、病児の預かりに関しては、援助活動を行う上で高い専門性が求められることから、軽度の風邪等の対応のみとしております。 ご理解いただきますようお願いいたします。 ご意見を参考に「ほっと子育てふれあい事業」の更なる充実に努めます。	2	1
520	高校生までの医療費軽減	医療費の助成を高校生まで拡充することについては、さらに対象分の経費が必要となる上、県の助成対象は小学校6年生までとなっており、全額一般財源で賄う必要があるため、当制度の拡充は難しいと考えております。 引き続き、国に対する助成制度の創設や県に対する助成拡充の働きかけを積極的に行います。	2	1
521	・子どものフォーマル服（入学式や卒業式用）など、誰かに差し上げたいと思いつつ、そのままになっているご家庭も多いかと思えます。有効活用できるルートがあればよいと思います。	現在、北九州市では、直接は、こうした取り組みを行っていません。 民間サービスとして様々なフリーマーケットのサイトが開設されており、そのような形で有効活用してもらおうのも1つ方法かと思えます。 このほか、元気のもりや子どもの館では、不要になったものを持ち寄る「もったいないバザール」というイベントを開催しています。 年に数回開催しており、人気あるイベントです。	2	1
522	経済援助については慎重にしてほしい。本当に援助が必要な人かどうかを見極めていかないと、逆差別になってしまうと思う。（高級車を何台所有していても保育料0円とか）	保育の無償化については、国の制度であり、北九州市で異なる制度を実施することは難しいと考えています。 経済的支援については、国の基準があればその基準に沿って、また、市の制度であれば、その制度の目的や解決すべき課題等を勘案して、それぞれ適正な基準を設け、運用を行っていきます。	2	1
523	出生率の増加に向けた対策として、市で中古の新生児用品（ベビーベッド、チャイルドシート、ベビーカー、ベビーガード等）を格安でレンタルするか、無料提供してほしい。	民間サービスではレンタルサービスが行われていますが、現在、北九州市ではこうした取り組みを行っていません。 様々な支援策を検討する中で、こうした取り組みについても研究していきます。	2	1
524	学童手当や子育てに係る補助の充実を検討してほしい。	児童手当については、時代の社会を担う子どもの育ちを支援することを目的に、中学校修了前の子どもを養育する方に支給しています。 引き続き、制度の周知に取り組み、受給者の方の請求漏れの防止に努めます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
525	<p>幼児教育の無償化について、保育所と幼稚園でなぜ3歳児の対応に違いがあるのか理解し兼ねます。同じ日本の、北九州市の3歳児が保育所は学年齢から、幼稚園は満年齢から…という差別は納得できません。</p>	<p>今回の幼児教育・保育の無償化対象者についての国の方針は以下のとおりであり、北九州市においても同様の考え方で行うこととしております。</p> <p>小学校就学前の3年間分の利用料を無償化することを基本的な考え方としており、このため、保育所等を利用する子供については、満3歳になった翌年度の4月から利用料が無償化されます。</p> <p>一方、幼稚園については、①学校教育法上、満3歳（3歳になった日）から入園できることとされている、②満3歳児は翌年度の4月を待たず年少クラスに所属する場合も多い、③従前の幼稚園就園奨励費も満3歳から補助対象としている、といった他の施設・事業にはない事情を踏まえ、満3歳になった日から無償化の対象となります。</p>	2	3
526	<p>安心して子どもを産み育て、健やかに成長し、その子どもが、「自分もこのまちで子育てをしたい！」そう思えるまちになるには、子どもとその保護者が安心して暮らせる環境づくり・・・気軽に相談できるコミュニティの充実と情報発信。地域の人や、学校、放課後児童クラブ等の魅力の向上と維持、そして、その連携が大切だと思う。情報発信はSNSの方が子育て世代には伝わりやすい。</p> <p>核家族が多く、世の中が早いスピードで進んでいく中、不安なこと、分からないこと等のさまざまな悩みや事情を差別、偏見なく、信頼して相談できる場所があり、話を聞いてもらったり、アドバイスしてもらったり支援を受けることで問題を（様々なコミュニティが連携し、それを利用することで）解決していけるようになると良いと思う。</p> <p>それを実現するには、環境の整備と意識の向上、直接その支援を行う機関やコミュニティに携わり、働く人が働きやすい環境を作っていくことも大切だと思う。</p>	<p>子どもプラン第3次計画は、5つの目標、15の施策を掲げ、子ども・子育てに関わる様々な取り組みをまとめた総合計画となっています。</p> <p>取り組みは数多くありますが、全ての取り組みを基本理念「子どもの未来、みんな笑顔のために」に基づき、それぞれが関連し合いながら、計画を推進していくことが重要だと考えています。</p> <p>情報発信については、素案117ページの〈方向性〉にも記載しましたとおり、最新の情報技術の活用も含め、保護者の生活様式に合わせたものを検討していきたいと考えています。</p>	2	1
527	<p>保育所の相談もコンシェルジュの方に親切に教えてもらったが、保育所や幼稚園に実際通わせてから問題も多く、アフターフォローなどがあるとよいと思った。</p>	<p>保育サービスコンシェルジュは、保育サービスの利用に関する相談に幅広く対応しています。</p> <p>入所後のことについてもお気軽にご相談ください。</p>	2	1
528	<p>未就学児、幼児のサポートは整ってきている様に思うが、学童期、思春期の親のサポートがもれていると思う。けっこうこの頃の親は悩みの多い。</p>	<p>子育てなどに関し、わからないことや困ったことがあった時には、「24時間子ども相談ホットライン」等にご相談ください。</p> <p>子ども・若者応援センター「YELL」では、悩みを抱えた子ども・若者はもちろん、ご家族からのご相談にも対応しています。</p>	2	1
529	<p>たくさん支援があっても、自分にどの支援が必要なのか？どこに連絡したら良いのか全くわかりません。代表電話番号に連絡したら、必要な支援の担当部署を教えてください（たらいまわしてはなく）、利用しやすいシステム作りも必要と思います。</p>	<p>各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談にワンストップで応じ、各種支援制度を適用したり、関係機関等へつなぐ等それぞれの相談内容に応じた支援を行っています。「子ども・家庭相談コーナー」について、広く皆様に知っていただけるよう周知に努めます。</p>	2	1
530	<p>事業者への子育て支援相談員の派遣 当社では、企業向けに育児支援サポートの提供を事業として推進しておりますが、企業に勤められている保護者の方々は仕事に家事に大変忙しい状況で、仕事終わりに子育ての相談を誰かに行う時間を確保することが難しい状況です。</p> <p>企業側では、育児支援が重要なことを理解しつつある状況ですが、そのために割くコストを確保することが難しい状況も聞かれます。</p> <p>行政からの働きかけとして、企業になるべく負担をかけず、現実的に育児支援を保護者に届けるために、事業者への子育て支援相談員を派遣することを提言いたします。</p> <p>これにより、保護者は勤務時間内に子育て相談を受けられます。企業側は（相談時間分社員が動かないことになりませんが）無償で相談員を社員に提供でき、子育て支援が充実していることをPRできるメリットがあります。</p>	<p>子育てに関する相談窓口として、各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談にワンストップで応じ、各種支援制度を適用したり、関係機関等へつなぐ等それぞれの相談内容に応じた支援を行っており、お電話での相談も受け付けています。</p> <p>また、お父さまや保護者のホットラインとして、「子ども相談ホットライン」も開設しており、こちらは24時間電話での相談を受け付けています。</p> <p>なお、20名以上の団体・グループへは「出前講演」を実施していますので、子育てに関する議題で合致するものがございましたらご利用ください。</p>	2	1
531	<p>子育て支援に関して、市が率先して取り組まなければならないのは当然だと思うが、全てをカバーできるとは思えません。</p> <p>子育て世帯のために、子供たちのために力になりたいと思っている人や団体、企業はきっとたくさんあると思うので、そういった人たちの発掘にも力を入れてほしいし、そこから新たに生まれる斬新なアイデアもあるのではないかと思います。行政の限界を補えるのは市民の力だと思うので、一方的に協力を求めるのではなく、良い意見にも悪い意見にも柔軟に耳を傾けてほしいです。</p> <p>私たちは今困っているから助けを求めに行くのであって、そこからいろんな部署や機関を確認します、ここでは対応できません、等のたらいまわしではせっかくの制度も意味がありません。声をあげたくても諦めてしまいます。それが子供ならなおさらです。勇気をだしてくれた人のためにも、数ある支援の全てにおいて、スピーディに対応できるシステムを作ってもらいたいと思います。</p>	<p>現在、少子高齢化や核家族化の進行などに伴う社会状況の変化に伴い、子育て支援をはじめとした公共サービスに対する市民ニーズは、多様化・複雑化し、拡大しております。</p> <p>その一方、地域が抱える課題を解決していかうとする地域団体や企業、専門性を有するNPOやボランティア団体などが増加しております。</p> <p>ご意見いただきましたとおり、市が全ての公共サービスに対応することは難しく、様々な地域活動の担い手が目的を共有しながら、それぞれが持つアイデアや資源を持ち寄り、協働して地域課題へ対応していくことは大変重要だと考えております。</p> <p>今後も皆様からのご意見や声にしっかりと耳を傾け、地域全体で子どもを見守り支えるまちづくりの実現に取り組みます。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
532	現在、「こそだて情報誌」は配布されていますが、月齢・年齢毎に利用できる行政サービスや情報・支援、各種受けられる手順や予防接種など、もう少し分かり易く、一目で分かるようなものがあるといいと思います。	「こそだて情報」については、ご意見を踏まえ、よりわかりやすい情報誌になるよう検討を行います。	2	1
533	計画の目標とSDG'sのゴールがはっきりと示されていて分かりやすかった。 妊娠・出産期～青少年期まできめ細やかな取り組みを計画されていて心強く感じたが、本当に制度が必要な人に情報が伝わるよう啓発、PRに工夫が必要だと思う	北九州市はOECDより「SDG's推進に向けた世界のモデル都市」にアジア地域で初めて選定されるとともに、国より「SDG's未来都市」に選定されました。 こうしたことを踏まえ、子どもプランも、各取り組みをSDG'sの17の目標と関連づけるようにしています。 啓発、PRについては、必要なサービスに確実にアクセスできるよう、様々な媒体を活用した広報に努めていく必要があると考えており、子育ての悩みや不安の解消につながる情報を、いつでもどこでも手軽に入手できるよう、工夫を凝らしていきます。	2	1
534	北九州市で生まれ（ほかのところで生まれても良いですが）育ち大人となって、北九州を愛し北九州に引き続き住みたい、たとえ大学等で一時期北九州を離れたとしても帰ってきたい、そんな思いの子どもをより多く育てないと人口は減る一方。 北九州の良さを観光推進で、他の地域にアピールするのも必要ですが、その前にもっともっと市民の子どもたちに知ってもらい、市民一人一人が観光大使になるくらいの機会を増やすなどして、市民の子どもたちの脳裏に、原風景として北九州の各所各地域が残るような遊びや教育を受ける仕組みがあったらいいと思います。	子どもたちの様々な体験が、大人になってからも記憶として残り、地元への愛着を生むことにつながると考えています。 子どもたちが様々な体験をもつことができるよう、目標2に掲げる施策（3）～（6）などを推進していきます。	2	1
535	この素案を読んで、改めて放課後児童クラブの支援員としての子どもたちの現状を見ながら考えること、共稼ぎをする娘夫婦のサポートをする祖母として思うことなどありました。 まず、この第3次計画の全てが実現されることを期待いたします。 この計画が北九州市民に周知され、市民の皆さんの手でさらに飛躍していくことが一番望ましいかと思えます。市の施策が一方通行にならぬように、子どもから高齢者の方々に北九州市の子どもプランはSDG'sの17のゴールの達成に向け、「北九州市民誰一人として取り残さない」ことをスローガンに17のゴールを達成するという強い意志をしっかりと持って宣言してほしいです。 市内の幼稚園、小学校や中学校、大学にこのプランの出前講演や、学校の特別活動の学習中に組み込んだり、また児童クラブの活動中に盛り込み、子どもたちにこの施策を大いに理解してもらいたい。 児童クラブの子どもたちに子ども用のパンフレットを見せると興味深く読み始め、感想を述べ始めました。パンフを持ち帰り、家で親と話し合った子どももいました。 きっかけ作りをすることで、子どもたちも市政に興味関心を深めるのではないのでしょうか？ 子どもから情報が入ることで保護者も情報を共有できるのではないかと思います。もちろん行政と市民の情報共有はとても大切だと思います。インターネットでの配信も効果あるかと思いますが、子どもたちに動機付けをしていく上では、学習の立場からの理解が一番かと思えます。 このプランを知るきっかけ作りを積極的に行ってほしいです。 プランを「知らなかった」のではなく、この計画を知っていたからこそ、「笑顔で生活できた！」「子育てするなら北九州市に戻る」「ずっとこのまちに住みたい」など、子どもたちからの声が出ると思います。保護者も同じように感じるのではないのでしょうか？ このプランの達成に向けては色々とハードルが多いと思いますが、丁寧に実現化し、積み重ねていくことで、北九州市が笑顔いっぱいあふれるまちになると考えます。	子どもプランを実効性のある計画にしていけるためには、素案34～35ページにも記載したとおり、行政だけでなく、地域や学校、企業など、「オール北九州」で協力して取り組むことが重要となります。 今回のパブリックコメントでいただいた子どもたちの意見の中にも、自分も関わりたいという意識を感じました。 この子どもプランの共通の目標「子どもの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」を実現していくため、子どもをはじめ、たくさんの人にこのプランを知ってもらえるよう、積極的に周知に取り組んでいきます。	2	1
536	北九州市は、子育てに関してのいろんな施設もしっかりしていて行政面において、子育てしやすい街だと思います。 ただ、幼児時代は育てやすくても小中高と進むにつれ、教育環境に魅力がないということが市の若い世代の人口増につながらない原因だと思います。引越すときにネットを調べたところ、引越し先の相談をしているサイトでどの校区はやめたほうがいいかの、北九州市自体やめたほうがいいのを見て悲しくなった記憶があります。実際、小学校時代に毎年数人が環境のよい学区に引越しをしていきましたし、ママ友達は中学になる前に北九州から転勤したいといっていました。 施策がいくら良くても、今の時代はネットで悪い噂はあつという間に広まります。 せっかく、このような魅力ある施策をたくさん打ち出しているのだから、中学生、高校生の活躍するケース等をアピールしていき、北九州市の子育て環境だけでなくその後の立派な大人に育った姿をもっと全国に知ってほしいと思います。	市内外の方に、北九州市の子育て環境の魅力を知ってもらうには、様々な子育て支援策を紹介することや、待機児童ゼロ・小児救急医療の充実などの成果を紹介することも大事ですが、こうした環境の中で立派に育った（育っている）子どもたちにスポットを当てることも、非常に重要で、PR効果も大きいと考えます。 今後のPRの在り方を考えるうえでの参考にさせていただきます。	2	1
537	・情報提供について より多くの人に情報が拡散される仕組みは多くあるが、関心の高い人にしか届かない可能性がある。本当に困っている人にどうしたら届くのか、考えてほしい。	必要なサービスに確実にアクセスできるよう、広報に努めていくことが非常に重要だと考えています。引き続き、効果的な手法について検討を行います。	2	1
538	親の急な事情（体調不良や兄弟児の入院など）で子どもの世話ができなくなったときなど、緊急時の子どもを受け入れ先などの情報をまとめたハンドブック的なものを小児科などに設置してほしい。情報を知ってほしい。	必要なサービスに確実にアクセスできるよう、利用者目線に立った効果的な情報提供の手法について検討していく中で参考にさせていただきます。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
539	子育てに関する情報が届く仕組みの強化 ・市内各所（市民センターや区役所など）で子ども向けイベントが多数開催されているが、その日に何があるかを調べるには、それぞれの施設のHP等を見ないと分からず、多くの時間と労力を要する。また、そういったHPを探するには、スマホやPCにかかりきりとなるため、子どもの世話が、おろそかになる。 ・イベント開催の日程や場所、天候による実施の可否を一元管理するHPがあれば、子育てで忙しい母親も最小限の労力と時間で予定を立てやすくなり、大変便利であると思われる。 ・このHPを運営する事務局をどこにするかという課題はあるものの、こういったHPがあると大変便利なので、第3次計画で前向きに検討していただきたい。	必要なサービスに確実にアクセスできるよう、利用者目線に立った効果的な情報提供の手法について検討していく中で参考とさせていただきます。 市内で行っている様々なイベントを紹介するホームページは、利用者目線に立った効果的な情報提供につながるアイデアだと考えます。AIなど、最新技術の活用も検討しながら、利便性が高いホームページに取組んでいきたいと考えています。	2	1
540	「子どもの権利条約」の普及を徹底して「子ども」に行ってもらいたい。	今回の子どもプランでは、新たに「子どもの権利を大切にす視点」を盛り込みました。 「子どもの権利条約」にうたう4つの権利も紹介しています。子どもプランや児童虐待防止等の周知と合わせ、子どもに対し「子どもの権利条約」の周知を行っていきます。 なお、新規の取り組みとして、「子どもの権利の周知、啓発」を追加します。	2	2
541	外国籍の子どもたちが学校生活や地域での生活で困らないようサポートする体制をつくり地域・市民センター・学校が連携して、北九州市全体で取り組むべきです。	教育委員会と連携し、日本語のサポートが必要な児童、生徒、保護者の支援を（公財）北九州国際交流協会でも実施しています。 日本語や生活について教える教室を子育て施設や市民センターで開催し、学習や保護者の相談に対応しています。 今後学習者のニーズに応じて、開催場所・時間などを検討していきます。	2	1
542	概要版P16 ⑥外国人市民の子ども・子育てへの支援、について ・現在、子どもが通っている幼稚園に外国人が複数いますが、園から配付されるお便りの中の表現で、翻訳ソフトでは訳しにくいものが多々あり困っていることを知りました（たとえば、登園、降園などが難しいです）。 園に向けて、外国人家族向けには、より一般的な単語で書かれたお便りを作成する、というような働きかけ、支援が欲しいです。	北九州市の私立幼稚園においても、外国人市民の受け入れが増えており、特に幼稚園と保護者とのコミュニケーションが上手くいかないケースがあることを認識しております。 今後は、国際交流協会による行政通訳派遣等に加え、外国人市民を受け入れている幼稚園に対し、どういった支援が行えるのかを検討します。	2	1
543	小・中学校の家庭教育学級には、まず、北九州市職員の保護者が積極的に出席してほしい。	家庭教育学級の周知は、学校で配布する案内チラシや館報、市民センターのホームページ等で周知しています。 北九州市職員を含め多くの保護者が積極的に出席していただけるよう、様々な機会を捉えて周知していきたいと考えています。	2	1
544	4つの視点で、たくさんの取組みを検討されていて、どれも素晴らしいのですが、敢えて一点だけもっと充実させてほしいと思うのは、特に母親向けの支援ではなく、教育です。 （中略→1①へ） また、幼稚園・保育園児の両親向けの講座の充実、小中学校のPTAで開催されている家庭教育学級を、より効果的のものにすることも必要だと思います。	核家族や共働き世帯の増加、地域のつながり等、子どもや家族を取り巻く環境が変化している中で、今後の家庭教育学級のあり方について考え、今年度、家庭教育学級の運営等の見直しを実施しました。 また、参加できない保護者でも、家庭教育や子育てに役立つ情報の発信を行うこととしています。 今後、見直しの効果を検証し、家庭教育学級をより充実していきたいと考えています。	2	1
545	お母さんが学べる場が増えたと家庭教育の面で、子育てし易い街につながると思う。	親などが家庭で子どもの教育する心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点など、家庭教育上の問題を勉強する家庭教育学級を市立幼稚園、小・中・特別支援学校・私立幼稚園・保育所で実施しています。 この家庭教育学級を、より充実したものにしていきたいと考えています。	2	1
546	子ども図書館で“親子読書会”、“親子勉強会”、“大人VS子ども ビブリオバトル”等の企画	子ども図書館では、親子で読書が楽しめるようなイベントを企画していきたいと考えています。	2	1
547	・成人の生活習慣病は、子ども時代からの食事のあり方、考え方が影響していると思うため、子どもの頃からの食育は本当に大事だと思います。	ご意見のとおり、成人の生活習慣病は、子ども時代からの食事のあり方や考え方に大きく影響を受けますので、子どもの頃からの食育は大変重要だと考えています。 子どもプラン第3次計画の中でも、各区役所等で行う「育児教室（離乳食教室、幼児食教室）」や保育所、幼稚園等で行う「親子ですすめる食育教室」などにおいて、引き続き食育を推進します。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
548	<p>子どもの8割以上が栄養不足であるということを耳にします。夫婦共働きの家庭が増え、家庭生活に時間を割く余裕がないと思いますが、食生活習慣は大人になり、家庭を持った後にも引き継がれるものだと思います。</p> <p>また、生活習慣病予防、医療費の抑制にもつながります。</p> <p>素案P16に挙げられている「基本的生活習慣の定着や食育の推進」には、乳幼児期のみならず、小学生次期以降も対象にした継続した取り組みが必要ではないかと思えます。</p>	<p>頂いたご意見のとおり、子どもの頃の食生活習慣は大人になり、家庭を持った後にも引き継がれることが多いと思えます。第3次計画の中でも、各区役所等で行う「育児教室（離乳食教室、幼児食教室）」や保育所、幼稚園等で行う「親子ですすめる食育教室」「幼児期からの生活習慣病予防教室」等において、引き続き食育を推進してまいります。</p> <p>また、小・中学生には、望ましい食習慣の習得のため、学校給食を「生きた教材」として活用し、栄養教諭等と連携した食育指導を行っているほか、献立表等の家庭配布、給食レシピのホームページ掲載など、家庭や地域に対する情報発信を行っています。</p>	2	1
549	<p>とりあえず市の職員から男女ともに育児休暇を義務化して、他の企業にも広めていけないか。</p>	<p>平成30年度の市職員育児休業取得率は男性が20.3%、女性が100.0%となっています。</p> <p>現時点で、市職員への育児休業の取得義務化は考えておりませんが、男性職員に対する育児休業取得促進に関する取り組みを進めていきます。</p>	2	3
550	<p>育休からの復職ではなく、再就職を希望するママの支援</p>	<p>北九州市では、「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「北九州市SDGs未来都市計画」等において、女性の就業支援を目標に掲げており、女性の就業支援施設である「ウーマンワークカフェ北九州」において、働きたい女性の就業支援をワンストップで行っています。</p> <p>また、出産・育児等で離職し、今後働くことに関心を持つ女性を対象に、未就業女性の再就職を支援するセミナーを実施しています。</p> <p>今後も引き続き、再就職を希望する母親も含めて、女性の就業支援に取り組みます。</p>	2	1
551	<p>まずは、子どもの急病等にあたり前の遅刻・早退・休暇ができること。さらに、PTA活動、学校行事に参加するための遅刻・早退・休暇ができること。</p> <p>自治会やPTAの活動を市職員が知らなくていいか？北九州市全体で働き方・子育て・生き方改革に取り組むためには、まずは北九州市がお手本になり、それからその経験を持って企業等に強く働きかけてほしい。</p>	<p>北九州市では、子等の看護又は行事への参加が可能な子育て支援休暇を設けており、時間単位での取得が可能です。</p> <p>また、自治会等への参加を促すとともに、そうした活動ができるよう職員のワーク・ライフ・バランスの推進を図っています。</p> <p>管理職の意識改革を図るイクボスの実践を推進し、市役所全体で職員の働きがいのある職場づくりを進めてます。</p>	2	1
552	<p>両親が働いている家庭も増加している現代では子育てと仕事の両立支援を強化し、子ども達も元気に楽しく過ごせる環境づくりも更に必要になってくると思います。以上のような事について取組を強化して頂けたら親子共に安心して幸せな家庭づくりが出来るのではないかと考えます。</p>	<p>子育てを楽しみ、子どもの成長に喜びを感じるため、保護者が男女問わず子育てに向き合うことができる時間、親子で過ごす充実した時間を持てるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進に取り組むことが重要です。</p> <p>北九州市では、企業、働く人、市民、行政で構成された「北九州市女性活躍・ワークライフバランス推進協議会」を中心に取組を進めています。</p> <p>また、平成29年に、働きやすいまち北九州を目指して、企業・団体のトップによる「北九州イクボス同盟」を設立し、仕事と家庭生活の両立や多様な働き方を推進することで、誰もが能力を発揮できるよう企業の働き方改革を後押ししています。</p> <p>今後も引き続き、男女が共に働きながら子育てしやすい環境づくりを推進するため、企業への取り組み支援や広報啓発事業を進めていきます。</p>	2	1
553	<p>今は、共働き世帯が増えており、夫婦が協力しあって子育てをすることは、非常に重要であると思えます。働く女性が増えていても、依然として、家事や育児は女性の方に負担が大きくなりがちであり、早い段階から父親にも育児を自分のこととして積極的に関わってもらう必要があると考えます。</p> <p>①出産前の両親学級は夫婦を対象としたものですが、出産後の育児学級は母親だけが参加しがちであり、父親も一緒に育児について学べる機会が必要であると思えます。</p> <p>②子育て支援施設で、父親も参加しやすいよう、休日に両親と子どもや父親と子どもなどで参加できるプログラムがあればいいと思えます。</p>	<p>夫婦で協力して出産・育児を取り組む大切さを学ぶため、両親学級を実施しています。区役所で実施している育児学級等は、父親も一緒に参加できます。</p> <p>また、子育て支援施設（子育てふれあい交流プラザ）内の子育て支援サロン“ひあちゅーれ”でも、年10回育児講座を開催しています。無料の託児所があり、両親でも参加していただけます。</p> <p>なお、区役所等に設置している親子ふれあいルームについては、父親や週末利用を希望する方へのサービス向上を図るため、対応可能な区土曜日開所を進めていきます。</p>	2	1
554	<p>ママと子どもが（には限らないが）集えるカフェ等に、Wi-Fi環境をつくれれば外国の方も情報を得たり、つながりやすい</p>	<p>市ではお店でWi-Fiが使えるようにすることはできませんが、商店街やお店を経営する人たちが支援し、皆さんが行きたくなくなるようなお店が増えるように取り組んでいきます。</p>	2	4
555	<p>歩道の整備</p> <p>通学路が車道・歩道ともに狭く、危ないなと感じることがあります。白線で区切られているだけの段差のない歩道なので、車が離合のために歩道内に入って走っているのによく見かけます。</p> <p>また、車の運転手側でも大きなカーブの先など見通しが悪いところで子どもが急に出てくるのでは、と危ない思いをすることもあります。</p> <p>歩道を広げる、ガードレールを設置する、見通しの悪い場所では横断できないようにする、など安全性向上のための整備をしてほしいです。</p>	<p>通学路の安全確保については、平成27年11月に策定した「通学路交通安全プログラム」に基づき、学校関係者による事前点検を毎年度実施し、5年に一度は全ての小・中学校において、道路管理者や警察、学校関係者が連携して通学路の合同点検を行っています。</p> <p>これらの点検で抽出された危険箇所については、道路管理者と警察で必要な対策を実施しております。</p> <p>今後とも、通学路交通安全プログラムを活用しながら、通学路の安全確保に向け、必要な取り組みを進めます。</p>	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
556	子どもの安全を守る環境整備について 子ども（大人も）、自転車を交通手段として気軽に利用できる環境になればいいと思います。 今はレーン分けがあっても中途半端で逆に怖く思える事象もあり、レーン分けが正しい解決手段なのか疑問に思う時があります。	自転車は、法律で車道の左端を通行するようになっていきます。このため、北九州市では交通状況に応じて、自動車、自転車、歩行者を適切に分離する自転車走行空間の整備に取り組んでいます。 自転車走行空間には、いくつかの整備形態があり、自転車と自動車、歩行者を備等で分離する「自転車道」、車道内で自転車の通行位置を区分する「自転車レーン」などがあります。自転車道は安全性に優れていますが、設置には広いスペースを必要とするなど、それぞれに特性があります。 そこで、北九州市では、道路の幅、交通量、住民の出入りなどから総合的に判断し、交通管理者である警察と協議しながら、適切な形態の自転車走行空間の整備を進めています。	2	1
557	道路の状態が悪いところや、車道と歩道のつなぎ目部分の段が高いところでは、ベビーカーを押しにくいです。道路をよりフラットにしてもらえると、ベビーカーだけでなく、身体の不自由な人やお年寄りも歩きやすくなると思います。	子育て家庭をはじめ、誰もが安心して移動できる環境を実現するために、公共施設を中心とした地域における歩道の段差解消などのバリアフリー化に取り組みます。	2	1
558	小さな子どもが歩きやすいように歩道のバリアフリー化を検討してほしい。	地域の要望などを聞きながら、歩道や側溝などの修繕、段差の解消等を行い、歩行空間の安全性や快適性、利便性の向上を図ります。	2	1
559	総じて防災意識が低い ひとたび参事が起こったときの、心構えがとても大事であるし、体験を伴う訓練を通じて、実際被災した方々への思いやりや配慮、ができるようになる。土砂災害指定区域マップを見たことがない市民をゼロにする。 若い人が集まりやすい状況下での具体的なエリア設定のある避難訓練を実施すべき。エリアごとに区切り、実際に避難行動を体験すること。避難所として指定されている会場での宿泊体験や断水体験などを行なっておく必要がある。ローリングストックなど備蓄の工夫を描く戸で行なっておくことを周知する	北九州市では、市民の防災意識の向上を図るため、「防災ガイドブック」の全戸配布やハザードマップの紹介、出前講演などにより、日ごろからの備えについて、啓発を行っています。 また、市民が災害を体感し、イメージできるよう、①「地震体験車」の活用、②総合防災訓練や区の防災訓練、③DIG、HUG等の災害図上訓練（※）、④消防職員が指導する避難訓練等により、地域防災力向上のための支援を行っています。 また、「みんなdeBousaiまちづくり推進事業」では、北九州市立大学での講義を通じた人材育成や、住民による地区防災計画の策定等、多方面から防災の取組に参加できるよう事業を展開しています。 今後も、あらゆる機会を通じ、防災訓練や啓発を続けていきます。 ※DIGとは、「住民参加型災害図上訓練」のことで、大きな地図にグループで油性ペンや付箋などで、過去に発生したがけ崩れ箇所や浸水箇所等を書き込み、見てきた地域の災害リスク（脆弱性）について、その対応策を検討し、地域の防災力向上を図る、ゲーム感覚で行う災害図上訓練のこと HUGとは、「避難所運営ゲーム」の略で、避難所を舞台とし、参加者が避難所運営担当者となって、スペースを有効活用しながら、数多くの避難者を適切に配置できるか模擬体験する図上訓練のこと	2	1
560	公園、街灯の増加	「街灯」のうち、住宅地内など身近な道路を照らしている防犯灯は、自治会・町内会等が設置、管理しています。防犯灯を増やす場合には、設置箇所の住民合意をえた上で、自治会・町内会等の負担により、設置されます。 一方、市が設置する街路灯・生活街路灯は、車を運転するドライバーが、夜間の歩行者に気付きやすくなるよう、交差点、横断歩道など決められた場所に設置しています。街路灯・生活街路灯が消えている場合は、各区まちづくり整備課にお知らせください。	2	1
561	地域の安全のために、防犯カメラの設置 (例) 各家庭に一台ずつ玄関先に設置できるように補助金を出す、通学路となるところには防犯カメラを設置する。	道路上のカメラについては、プライバシー保護の観点から道路を維持管理する目的をもったものに限って設置しています。 防犯の観点では、主要駅周辺に市が設置した防犯カメラの運用を続けており、地域団体や事業者が防犯カメラを設置する場合には、その設置費用の一部を補助しています。 今後も、地域や警察と協力しながら安全対策に取り組みたいと考えています。	2	1
562	夜になると街灯が少なく暗いため、犯罪が起きやすいのではないかと。死角のない明るい街づくりをお願いしたい。防犯カメラを設置してほしい。	市民の暮らしの安全・安心に配慮し、道路空間の規定の明るさが保たれるよう努めていきます。 地域団体が管理する防犯灯については、設置費用及び維持管理費用の一部を補助するとともに、市が通学路上の防犯灯を設置するなど、夜間の安全対策を行っています。 また、道路上のカメラについては、プライバシー保護の観点から道路を維持管理する目的をもったものに限って設置しています。 防犯の観点では、主要駅周辺に市が設置した防犯カメラの運用を続けており、地域団体や事業者が防犯カメラを設置する場合には、その設置費用の一部を補助しています。	2	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
563	地域の高齢者による通学支援 →子どもを守るため、交通量の多い場所等での誘導、挨拶指導	北九州市では子どもたちが安全・安心に暮らせるように、以下の取り組みをしています。 ①北九州市の全校区には、地域住民の方々が結成している「生活安全パトロール隊」というボランティア団体があり、登下校の時に児童の安全指導や誘導を行っています。 通学路以外でも地域の見回りをし、声掛けをしながら、不審な車や人がいないか、防犯灯が切れていないか、などを確認しています。	2	1
564	子どもが1人で出歩くようになると、安全・安心面を不安に思うことがあります。自治会に加入していなくても、地域の人とふれあい、深く関わり合っていくことで、地域の目でも子どもたちを守っていただけるような安全・安心の仕組みがあれば、よりいいと思います。	②子どもがあぶない場所を自分で見分けられるように、小学生を対象とした「地域安全マップづくり」を教えています。これは「入りやすくて見えにくい」場所を「危ない場所」として、実際に歩きながら調べ、地図をつくり、そういった場所に近づかない、ひとりで行かないということを学びます。 ③そのほかに、「子ども防犯セミナー」があります。このセミナーでは防犯の専門家が先生になって、不審者からの「声かけ・つきまとい」から自分を守る方法を学びます。	2	1
565	SDGSに順する形での取り組みの表明 全ての項目において、具体的な数値目標を掲げ、手順を踏まえ、人材育成と予算確保を図ること。 SDGSには、具体的な数値目標があります。北九州市、各区、各中学校区、単位での目標を明確化すること。 そして、その進捗を、発表すること。 *子供達の意見を反映した、公園作り活動 大型公園での実施状況 *小学校の校庭、地域公園などへの子供達の意見の反映についての実態把握	子どもプランに掲げている取り組みについては、それぞれ代表的な指標とその目標を定め、進捗状況を検証しながら、PDCAサイクルに基づく見直しを継続的に進めていくこととしています。 また、各施策をSDGsの17のゴールと関連づけ、取り組みを推進していきます。	2	1
566	SDGsは、1人1人が今、自分のいる場所から1人のちからは微力ではあるが、SDGsのゴール、目標に向かって、自分でもできる小さなことを様々な方向から日々取り組んでいけるといいと思っています。	既にやっていることの中にSDGsの17のゴールを見つけていることも大事なことで考えます。 こうした身近なことの実践が、SDGsの活動の広がりにつながります。 これからも、市民や企業、団体などと連携し、市一体となって、SDGs達成に向け取り組みを進めていきます。	1	1
567	SDGsに関連してですが、国連子どもの権利条約が総括した所見の一つに「気候変動問題」についての勧告があります。子どもの権利と気候変動の関係性を意識した内容が一つも入っていません、入れるべきではないでしょうか。	ご意見を踏まえ、素案142ページの〈現状・課題〉の文章を追加・修正します。 「気候変動がもたらす異常気象等により、自然災害が頻発しています。こうした災害時には、…、子どもたちが抱える不安の大きさは想像に難くありません。」	3	2
568	【概要】 「子どもの権利」について市民全体が正しく理解し、行動原則とすることを旨とする。啓発活動、実活動での評価基準などを明示すること。 【詳細】 啓発活動、実活動での評価基準などを明示すること。 子育て支援は、親を墮落させるだけ、子ども食堂を作ると地価が下がる、子供のための施設は街中における迷惑施設、といった、ありがちな反応を、すぐにで変化させていかなければ目の前の子どもは救えない。激変する社会の中で、価値観は迷走し、子育てそのものの難しさは年々増している。現実、8050問題や環境課題など社会に山積する課題は、大人世代が深く考えず、個別の家庭の責任として先送りしてきた現実の子育てや、地域社会の放置が原因である。大人ですら正解が見出せない現代に、生まれ育つ子供達に、どのような未来を授けていくのか（あるいは、負の遺産をおしつけていくのか）を、社会全体が問い直す必要がある。	「子どもプラン」を推進していくためには、子どもプランの視点の一つ「子どもの権利を大切にす視点」を市全体で共有することも大事だと考えています。 ご提案の件については、ご意見として承ります。	2	1
569	2019年は子どもの権利条約が採択され30年日本が批准して25周年という節目の年です。素案にあります4つの視点の一つ「～子どもの権利を大切にす視点」ではあまりにも弱いのではないのでしょうか。大人が良かれと思う子どもの最善は、子どもにとってすべて良いわけではありません。加えて子ども達という集団ではなく一人ひとりの生存と発達を大切にす観点から、子どもの権利は大切にすのではなく「守る」ものであり、大人も、子供自身も、子ども時代という固有の権利が保障されるとの周知を図っていくことが重要と考えます。	素案34ページの中に記載のとおり、子どもの権利については、「擁護」という言葉を文章の中で使用しているように、「守っていく」ことを明記しています。 視点については、より親しみやすい「大切にす」という表現を使用することとしたもので、子どもの権利を守っていくことを否定したり弱めたりする意図ではありません。	3	3

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
570	<p>市のあらゆる施設についての、今後のあり方について、子供達の意見を集めること。（特に子供向け施設においては必須）たとえば、グリーンパークや山田緑地、子育て支援施設、などについて、その役割やあり方について行政や運営者のみならず、利用者も学び、共に育っていくという考え方から、常に子供達への啓発や意見表現の機会を補償し施設運営や、活動内容について反映させていくこと。</p> <p>大人が思う以上に、子供達はよく大人を観察し、よく考えている。当事者の望みは、当事者でなければわからない。</p> <p>近隣住民の意見を、聞くことと合わせて、利用者の意見や、全体としての子供の居場所や学び場、市全体からみた位置付けなどを明確化し、共に場所を作り育て、担っていくという市民教育が必要。</p> <p>*グリーンパークには、むかしからあったローラー滑り台や森の中の木製遊具をリニューアルして欲しいという希望が多い。（にもかかわらず、コンクリート詰めブランコや、監視員がいないと利用できない有料遊具が設置されている。）</p> <p>*昔ながらの、藤棚のよしのさしかけられた砂場、がほしい。</p> <p>*グリーンパークの水辺に、緩やかな流れのあるエリアを設置する、ザリガニ釣りや外来生物について学ぶコーナー作り、高刈りされた昆虫保全ゾーンでの生物観察体験コーナー、竹害について体験を通じて学ぶコーナーなど、北九州ならではの体験を通じて学ぶ展示があると良い。（市外からの来訪者が多く、周辺への大量のチラシ配布などを行なっていることから、活動紹介だけでも十分周辺へのインパクトはあると思われる。）</p>	<p>利用者のニーズを把握し、よりよい施設運営を行っていくことが重要だと考えています。</p> <p>各施設で実施する利用者アンケートなどを活用し、子どもたちの意見や希望を聞きながら、魅力ある施設づくりに取り組んでいきます。</p>	2	1
571	<p>基本理念を踏まえた計画の視点として、「子どもが主体であり、子どもの権利を大切にする視点」、「地域社会全体で見守り支える視点」など4つの視点が掲げられており、どれも大事な視点であると思う。</p> <p>しかしながら、「子どもを育てる」上で最も大切なことは、その親や、祖父母など、家庭や親族が中心となって、たくさんの愛情を注ぎながら責任をもって育てることです。最近ではそういった基本的なことが失われ、虐待や殺めといった、子どもを巻き込む悲しい事件が多く発生しており、大変危惧しています。</p> <p>3次計画だからこそ、このような当たり前で大変重要な視点を、改めて、積極的に訴える施策を盛り込んでほしいのではないかと感じます。</p>	<p>御意見を踏まえ、文章を追加・修正します。</p> <p>素案35ページ「Ⅰ 地域社会全体で見守り支える視点」の、「子育ての第一義的責任は保護者にありますが、」を「子育ての第一義的責任は保護者にあり、保護者が中心となってたくさんの愛情を注ぎながら責任をもって育てることが重要ですが、」に修正します。</p>	3	2
572	<p>子どもの保護、子育て支援の強化はもちろんですが、子どもも一市民と考える視点も要望します。</p>	<p>子どもプランでは、法令等に基づいた行政計画という位置づけもあり、子どもを主体という考えを持ちつつ、主に行政として何をしていくのかを掲載する形となります。</p> <p>パブコメでは、子どもたちの意見をたくさんいただきました。その中には、この子どもプランをきっかけに、弟や妹のために、友達のために、自分としてできることをやっていきたいという思いを感じることもできました。</p> <p>素案35ページの「地域社会全体で見守り支える視点」には、家庭や地域、学校、企業、行政それぞれの役割を示しています。この計画を子どもたちにもっと知ってもらい、子どもたちも、家庭の一員として、地域の一員として、関わってもらえるよう、子どもプランの周知に努めます。</p>	3	3
573	<p>「目標5」のように、事業や対策の有無だけでなく“何%改善”などの数値目標があると、対策の必要性や効果が分かりやすい。</p>	<p>今回策定する子どもプラン（第3次計画）は、全体の方向性、目標を達成するための施策や、施策を推進するための主な取り組み、施策の成果を図る指標を掲げています。</p> <p>計画策定後に毎年度実施する「点検・評価」において、各施策の成果指標の改善状況を示すとともに、具体的な取り組みについても、一つひとつ数値目標等を設定し、達成状況を示していくこととしています。</p> <p>なお、素案「5 計画の推進方法（2）PDCAサイクル」の中に以下の文章を追加します。</p> <p>※点検・評価を行うにあたっては、施策ごとに成果指標を設定し、進捗状況を確認します。また、施策を推進する主な取り組みについても、それぞれ数値目標等を設定し、達成状況を確認します。</p>	3	2
574	<p>市の政策は点と点を結ぶ政策は充実していると感じる。今後は面的な（包括的な）政策を期待する。例えば働きながら出産・育児し、保育所へ預けることを考えている人には1回の申し込みでサポートが完結するような仕組みを整える…など…あとは内容（質）の向上を期待します。</p>	<p>切れ目ない支援を行っていくにあたっては、ご提案のようなワンストップ化をさらに進めていくことが重要であると考えます。質の向上を含め、引き続き、利用者目線に立った改善に取り組めます。</p>	2	1
575	<p>第1子（11歳）、第2子（7歳）がおりますが、幼少期の子育て環境はとてよく、今回のプランでさらに改善されていると感じました。</p>	<p>乳幼児期は、子どもの成長にとって重要な時期であり、今後も、保育園、幼稚園などの関係機関と協力しながら、よりよい環境づくりに努めます。</p>	1	1
576	<p>北九州市は、子育ての制度、施設、体制など、環境が整ってとても良いと思います。この計画も行き届いていて、素晴らしいと思います。</p>	<p>引き続き、本計画に基づき、子ども・子育て支援に取り組めます。</p>	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
577	各目標ともに、未就学児・小学生の施策は充実していますが、中学生・高校生の施策が少ないように感じます。	未就学児・小学生については、保育所・幼稚園、放課後児童クラブといった施策が盛り込まれていますが、中学生・高校生となると、それに代わるものとしては、学校生活、部活動等になります。 この部分、特に、子どもの教育に係る部分については「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に定めることとしています。（素案2ページにその旨記載しています。） また高校生については、主に福岡県の所管となるため、「福岡県学校教育振興プラン」の中に盛り込む形となっています。 この結果、子どもプランでは、ボランティア活動や様々な体験の場の提供など、学校教育以外の内容を主に掲載するとともに、青少年の健全育成という観点から、非行防止や自立・立ち直りの支援の施策を主に掲載するスタイルとなっています。 今後施策を推進していくにあたっては、他の計画とも連携を図りながら、効率的、効果的に取り組んでいきます。	2	1
578	放課後児童クラブで働かせていただいています。全児輩化になり、それぞれの学年での子どもたちへの配慮や対応は違ってきます。子どもを受入、受け入れられる一番の要因はその子1人に対し、何年も年を重ねて関わることで得られる信頼関係だと実感しています。 子どもの関わりから、その保護者へ、そして学校の先生方と子ども1人に対してのつながりは何人ものひとへつながっています。それに加え、取り巻く環境は大きな影響を与えるように思います。そんな中で虐待やネグレクトなど自ら動けない子どもとの信頼関係を築く継続的な働きかけや関わり的重要性を感じます。 「子どもプラン」では、様々な取り組みがそれぞれの子どもたちの成長に合わせ、配慮されていることを感じました。私自身の現場でも様々な子どもたちへのよりよい対応や合理的配慮を要することもへの対応などを素晴らしい講師の先生方による研修会へ行かせていただくことで微力ながら実践へとつなげていただいています。 そういったことも含めて「子どもプラン」での様々なかわりや取り組みによって今後も北九州市がよりよい住みやすい都市として人と人との信頼関係のもと、つながり発展していくことを願っています。	子どもプラン第3次計画では、基本理念を見直すとともに、全体像（素案39ページ）を作り直しました。 これにより、北九州市で実施する子ども・子育て支援の取り組みが一つの理念に集約されるとともに、それぞれの施策や具体的取り組みが、子どもたちの特性や家庭環境、成長過程にどう関わっていくのか、分かりやすく示すことに努めました。 この計画（基本理念、全体像）を市全体で共有していくことが、いろんな分野の連携、協働の推進につながるものと認識しています。策定後は、この計画を推進しながら、その周知にも取り組んでいきます。	1	1
579	世の中を余り知らないものが意見するのも恥ずかしいのですが、感じたことがありますので、一市民の偏った考えかと思いますが、提出させていただきます。 まず、計画の視点の第1番に「子どもが主体」と掲げているのに、基本理念のサブタイトルに「子育て日本一を実感できる・・・」と「子育て」という言葉を出してくるあたり、大人のための計画なのでは？と感じます。 計画書を全体的にみて、これまでの5年間の踏襲なのでは？と思いました。各項目の主な取り組み欄をみても、既に実施されていることが書いてあることが多い。P2にある、「課題」を本気でこれで解決しようとしているのかな？と感ずいてしまいます。 そもそも、このプランを作った人たちは、これが実現したら素敵な市になるだろう・・・とワクワクしながら計画を立てたのでしょうか？ 「主体性が育つまちをつくる」と目標2にあります。ワクワク・ドキドキする感情って子どもだけではなく、大人になっても何歳になっても自らが動くとする大きな原動力になると思うのです。 動くから世の中が変わっていく。 正直、これから先の5年間を計画しているこの第3次プランは、そのような時流を加味した内容とは取れず、5年後、「子育て日本一」は過去の遺物と化し、北九州は国の施策の流れや世の中の流れから立ち遅れていくばかりなのではと危惧します。 北九州を活気にあふれる魅力ある街にするためにはハード部分（都市井計画）の整備とソフト部分（人財育成）の整備があると思いますが、そのハード部分ではなく、ソフト部分がこの次世代育成計画だろうと思います。現状から考えた半歩先行く地に足がついた計画も大事ですが、もっと、夢があって将来明るい希望・期待がもてるようなワクワク・ドキドキが詰まった計画も盛り込んでほしいと思います。	子どもプランでは、法令等に基づいた行政計画という位置づけもあり、子どもを主体という考えを持ちつつ、主に行政として何をしていくのかを掲載する形となります。 パブコメでいただいた子どもの意見では、弟や妹のために、友達のために、自分としてできることをやってほしいという思いを感じることもできました。この計画を子どもたちにもっと知ってもらい、子どもたちも、家庭の一員として、地域の一員として、関わってもらえるよう周知に努めます。 今回の計画は、「元氣発進！子どもプラン（第3次計画）」という名称からわかるとおり、これまでの計画を引き継ぐ形となっています。 今回、計画の視点に「子どもの権利を大切に」を追加したり、施策に「地域における子どもの居場所づくり」を追加するなど、新たな内容を盛り込み発展させています。 また、各施策を推進する具体的な取り組みについても、新規・拡充を図り、より良いものにしていきたいと考えています。 このプランの掲げた基本理念「子どもたちの未来を育み、みんなの笑顔があふれるまち北九州」や、5つの目標を実現できるよう、積極的に取り組みを進めていきます。	3	1
580	大まかに、「やりたいこと」は伝わってきたけれど、具体的なことは何も書かれていないので、「そうだったら良いな」という、ほんやりとした感想しか出てこないのが、正直なところだと思います。	子どもプランは、今後5年間の北九州市の子ども・子育て支援の方向性と目標を示すことに重点を置いたものとなっています。 5つの目標に向かって、みんなの笑顔があふれるまちをつかっていきます。	2	1
581	書いてあることは「子育てに大切なことを網羅してあり立派だと思われまますが、充実します、維持します、などの言葉で具体的にどうやっていくのかがよくわかりません。 それぞれの分野での建前でなく本気度が大切かと思われまます。		2	1
582	全体的に子どものことを考えた素晴らしいプランだと思うので、実効性のあるものになればいいと思う。		1	1
583	北九州市は、人口減少が進む中、少しでも子育て世代が住みやすいと実感できるように、このような計画や実践をされていますが、妊娠・出産・育児・教育などに関して、切れ目なく、また細かく子育て世代を支援してくださる体制に、一市民としてありがたさと心強さを感じています。このような骨組みがしっかり掲げられていることが、子育て日本一として取り上げられることも多いのだと分かりました。	子どもプラン第3次計画では、基本理念を見直すとともに、全体像（素案39ページ）を作り直しました。 これにより、北九州市で実施する子ども・子育て支援の取り組みが一つの理念に集約されるとともに、子どもの成長に応じて切れ目なく関わっていくことを分かりやすく示すことができたと考えています。	1	1

No.	意見	市の考え方※	内容※	反映結果※
584	子どもプランは、保健、医療、福祉、教育などの幅広い分野にわたって総合的に施策が挙げられていますが、各プランの紹介（連携）等は記載されないのでしょうか。	パブコメ資料（概要版）では、掲載していませんでしたが、素案2～3ページに、北九州市の他の計画を紹介しています。また、子どもの教育に係る行動計画は、「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に定めることとしています。これらの計画と連携しながら推進していきます。	3	1
585	られあいルームへ行くので、役所のトイレをよく利用するので、便所の除菌スプレーを設置してほしい。	ご意見を参考に、市民の皆様が利用しやすい環境づくりにつとめます。	2	1
586	次にルールをきちんと教え、筋を通していくには、小学校と中学校の連携が必要だと思います。 中学生になると制服があり、校則がありますが、小学校では校則がないので、個性尊重＝好き勝手になりがちです。小学校で、個性尊重＝好き勝手に先生方が黙認し、中学に入り、環境が変わり慣れない中学生活の中、急に制服だ校則だと色々言われ、一番戸惑うのは子ども達です。 中学生は、まだまだ子供です。大人の価値観で決めつけて、子どもの希望をつぶしてしまうような対応をしない為にも小学校と中学校が連携し、統一した教育をお願いしたいです。	北九州市では、平成25年1月に策定した「北九州市小中一貫・連携教育基本方針」に基づき、現在の小中学校の施設（いわゆる分離型）の下で、小中学校の連携による一貫教育に取り組んでいます。各中学校区においては、児童生徒や地域の課題・実情等について共通理解を図り、課題等に応じた教職員交流、児童生徒交流、保護者、地域交流等に組織的・計画的に「できることから」取り組んでいます。	4	1
587	一般の人から意見を募集したいのなら、もう少し読みやすい（簡単な言葉など、文字も多すぎる）冊子や選択式のアンケートにした方が良いと思います。	できる限り分かりやすい資料づくりに努めていますが、御意見を踏まえ、改善を図っていきます。	3	1
588	子どもの意見を聞くために、子ども用の概要版を作られており、素晴らしいご判断だと思います。子どもの権利条約の「参加する権利」を行使することが出来る機会になります。実際に、今回、誰にどのように意見を聞かれたのかご紹介いただくと、子どもたちにとって、より「子どもプラン」が身近なものになると思います。	今回、初めての試みとして、子ども向けの概要版を作成しました。小学校や、放課後児童クラブなどから、子どもたちの意見がたくさん届きました。この場で紹介しています。	3	4
589	子ども用のプランについて、何歳ぐらいの子どもを対象として作成をしているのでしょうか？子どもの意見を反映するのは良いことだと思いますが、プランの表現等が平易すぎ、対象年齢が低すぎるような気がします。（意見が言えるのでしょうか？）	子ども用の概要版については、概ね小学5年生くらいのお子さんが理解できるものを作成しました。 事前に専門の方にもご意見をいただきながら、作成を行いました。 たくさんのお子さんから意見をいただくことができました。	3	4